

救急隊員の抱える身体的・心理的の負担に 関する全国アンケート調査について

検討会報告書

～消防職員の活躍推進を目指して～

令和5年3月

一般社団法人日本臨床救急医学会
救急活動時の救急隊の活動向上に向けた検討委員会

日本臨床救急医学会では、救急隊員における救急活動向上に向けた検討委員会を設置し、全国で救急活動に従事する救急隊員の身体的・心身的負荷について調査・検討し救急隊員の皆様のパフォーマンス向上に資する提案を行うことといたしました。

さらに、この委員会の下部に、全国の救急隊員が抱える問題点をアンケート内容の作成と解析を担当する小委員として、救急隊活動におけるパフォーマンス向上検討小委員会を設置しました。

【救急活動時の救急隊の活動向上に向けた検討委員会】

委員長	田中 秀治	国土舘大学大学院 救急システム研究科長
委員	関 俊一	東京消防庁 救急対策担当係長
委員	庄司 隆広	札幌市消防局 警防部 救急課長
委員	佐々木 隆広	仙台市消防局 警防部 救急課長
委員	前田 達也	大阪市消防局 救急部 救急課長
委員	石黒 靖雄	横浜市消防局 救急部 救急課長
委員	射場 俊行	京都市消防局 警防部 救急課長
委員	東 昇生	名古屋市消防局 救急部 救急課長
委員	中田 徹	広島市消防局 警防部 救急担当部長
委員	四島 弘	福岡市消防局 警防部 救急課長
オブザーバー	飯田 龍洋	総務省消防庁 救急企画室 救急専門官
オブザーバー	土屋 翼	厚生労働省 医政局地域医療計画課 病院前医療対策専門官

【救急隊活動におけるパフォーマンス向上検討小委員会】

委員長	田中 秀治	国土舘大学大学院 救急システム研究科
委員	児島 正俊	東京消防庁
委員	武本 泰典	大阪市消防局 救急課
委員	匂坂 量	中央大学 理工学部
委員	竹井 豊	新潟医療福祉大学 医療技術学部
委員	田邊 晴山	救急救命東京研修所
委員	植田 広樹	国土舘大学 防災・救急救助総合研究所
委員	月ヶ瀬 和利	株式会社HUMAN ROOTS
オブザーバー	坂梨 秀地	国土舘大学大学院 救急システム研究科
オブザーバー	中川 洸志	国土舘大学大学院 救急システム研究科

目 次

1 はじめに

2. 調査の目的と方法

3. 結果

(1) 全国消防本部へのアンケート結果

(2) 全国救急隊員へのアンケート結果

- 1) 回答者の背景について
- 2) 救急活動における身体的負担について
- 3) 消防職員としての心理的負担について
- 4) 女性消防職員活躍について
- 5) 再任用職員の活躍について

4. まとめ

～アンケートからの今後の提言～

1. はじめに

我が国は超高齢化社会を迎え、全国で救急搬送件数が増加する中、新型コロナウイルス感染症の流行もあって、救急隊員は休む暇もなく日々病院前医療の最前線で対応しています。今後さらなる感染症の発生やパンデミックがおこると、救急隊出動件数がいまよりも増加し救急搬送体制維持が困難になることはCOVID-19 サージ期で経験したばかりです。実際、2008年-2017年の間に、1名の救急隊員あたりの救急出動件数は1.15倍に増加していますし、さらに2040年には高齢者率が35%に達することが想定されており、近未来では救急隊にかかる負担はますます高まることが予測されています。

しかし救急車の数や救急隊員は微増しているものの、これ以上の増隊や増員は難しいため、何らかの方法を用いて1人1人の救急隊員が健康を維持し活動のパフォーマンス向上を促すことが求められます。

これまで行われた調査では、救急隊員が身体的な不調を訴える部位は腰痛が圧倒的に多く、患者搬送に起因していることが明らかとなりました。さらに「事故例」と「事故が生じる可能性があった事例」を比べると、「事故例」では、腰痛の有病率が高いことが示されています。つまり、身体的負荷による腰痛によって、搬送時の事故が引き起こしやすい状況が発生しているのです。

一方、身体的負荷を軽減し健全な救急隊員を育成するという考え方（Well Being EMTs）は施設や設備が介護などを中心に海外で検討されていますが、日本では救急隊員への活用は遅れています。これらの対策は施設や資器材のみならず身体的・心的問題が救急隊のパフォーマンスにどう影響しているかについて、我が国独自のエビデンスとして検討する必要があります。

このような状況下で救急隊のパフォーマンスを向上する方法として以下の3つが重点的な課題と考えられます。

1. 救急隊の身体的な負荷や心理的負荷を減らし搬送中の事故減少や、患者満足度の向上を図ること。
2. 救急隊員を少しでも長く消防機関で働く環境整備すること。
3. 再任用の救急隊員や女性救急隊員の活用のため環境整備を図ること

このまま救急隊に対して身体的・心理的負荷状態が続き、さらなる負荷がかかると仕事を継続できなくなり、退職する救急隊員が増加することが予想されます。救急搬送の担い手が減少することは、すなわち、今行われているような迅速かつ安全な救急搬送体制が維持できなくなることにつながります。

このような状況を鑑み、日本臨床救急医学会では、救急隊員における救急活動向上に向けた検討委員会を設置し、救急活動に従事する救急隊員の身体的・心身の負荷について調査・検討することとなりました。

本報告書では、全国の救急隊員が抱える問題点をアンケート調査によって明らかとなった問題点をお示しするとともに、具体的な解決策を提案し、少しでも多くの救急隊員の皆様のパフォーマンス向上に寄与することを期待します。

2. 調査の目的と方法

【調査対象と目的】

全国の消防組織で勤務する救急隊員・救急資格者のうち、令和4年度、救急隊員として従事しているすべての職員を対象とし、救急隊の活動向上に向けて、救急隊員の抱える身体的及び心理的負担を調査し、課題を抽出することを目的としました。

【調査方法】

WEBアンケート調査にて実施。対象は令和4年度10月現在、全国消防組織で救急隊員として従事されている個人の方々からの回答と、全国の消防組織の現状の回答を全国の消防本部の現状についてのアンケート調査を10月1日から11月30日までの期間に実施させていただきました。

【アンケートの協力】

本調査は総務省消防庁の協力のもと、全国消防長会に多大な尽力をいただき全国の消防本部を経由し、救急隊員各個人へのWEB上でのアンケートとしました。

【アンケート調査項目】

1. 消防本部へのアンケート（消防本部代表者1名回答）
消防本部としての身体的心理的負担及び女性活躍に向けた対応策等に関する調査全10項目です。
2. 救急隊員へのアンケート（全ての救急隊員が回答）
 - 1) 個人属性について
 - 2) 救急活動における身体的負担について
 - 3) 消防職員としての心理的負担について
 - 4) 女性消防職員活躍について
 - 5) 再任用職員の活躍について以上全47項目です。

【統計解析】

アンケートの集計については、単純集計及び性別毎でクロス集計を行った。また、段階別評価の調査については、平均値を算出し、t検定を実施しました。

【プライバシーの保護と倫理的配慮】

アンケートの結果は委員会で集計し、日本臨床救急医学会等の学術集会で発表する予定です。本調査目的以外に用いず、また参加される個人や所属に不利益が生じないよう慎重に取り扱いいたします。

なお、国土舘大学の人間を対象とした研究に関する倫理委員会で承認を得ました（承認番号：22018）。

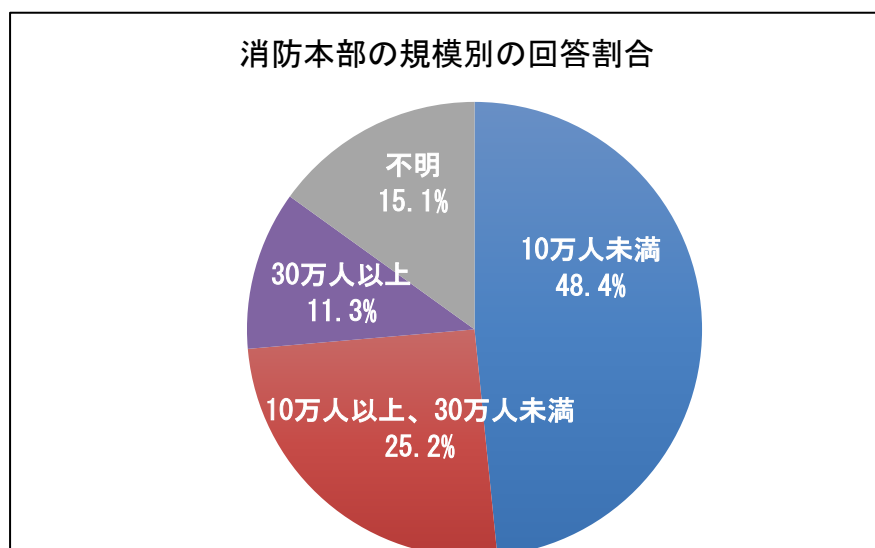
3. 結 果

1) 全国消防本部へのアンケート結果

全国724消防本部担当者へアンケートの送付をおこない、計531消防本部から回答を得ました（回答率73.3%）。

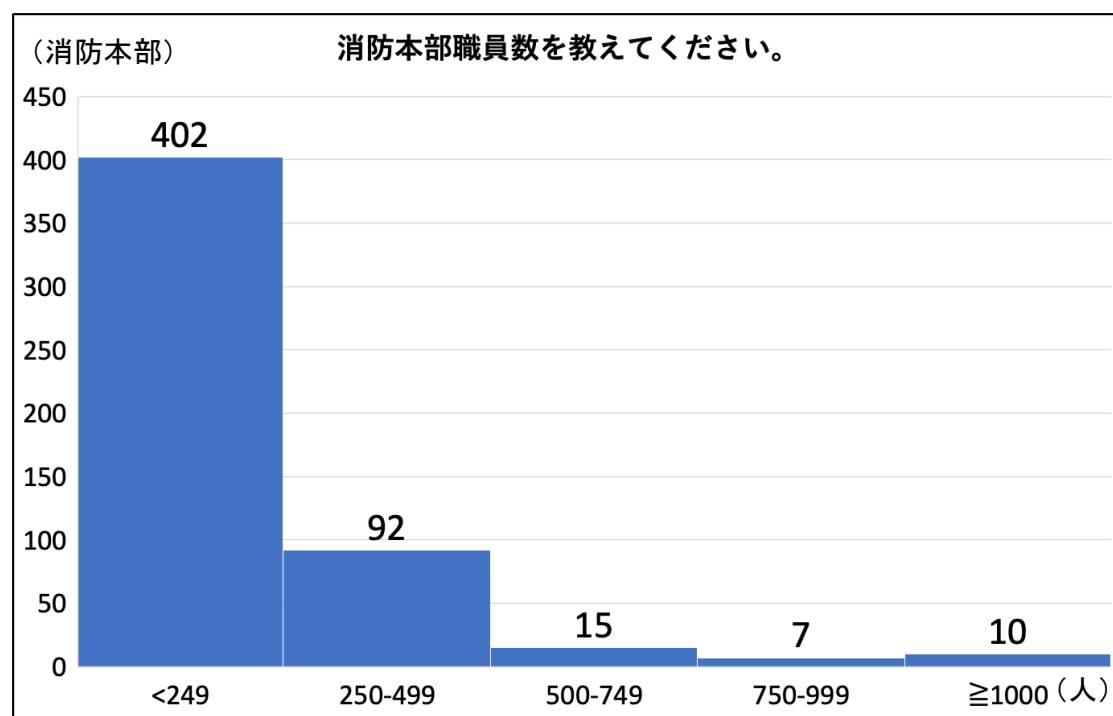
問1 消防本部について

回答消防本部数	
	n(%)
北海道	20(3.8)
東北	31(5.8)
関東	83(15.6)
中部	89(16.8)
近畿	85(16.0)
中国	39(7.3)
四国	34(6.4)
九州	70(13.2)
不明	80(15.1)
総計	531

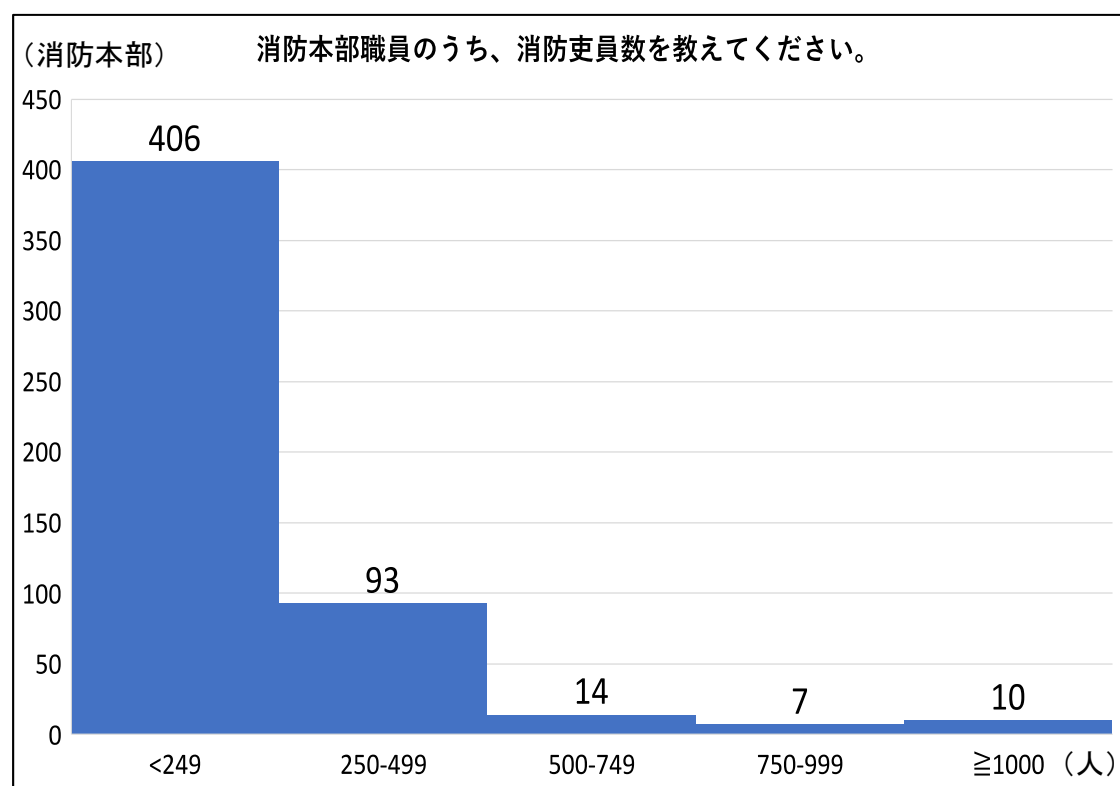


管轄人口10万人未満が48.8%、10万以上30万人以上が25.2%、30万人以上が11.3%、不明が15.1%であった。

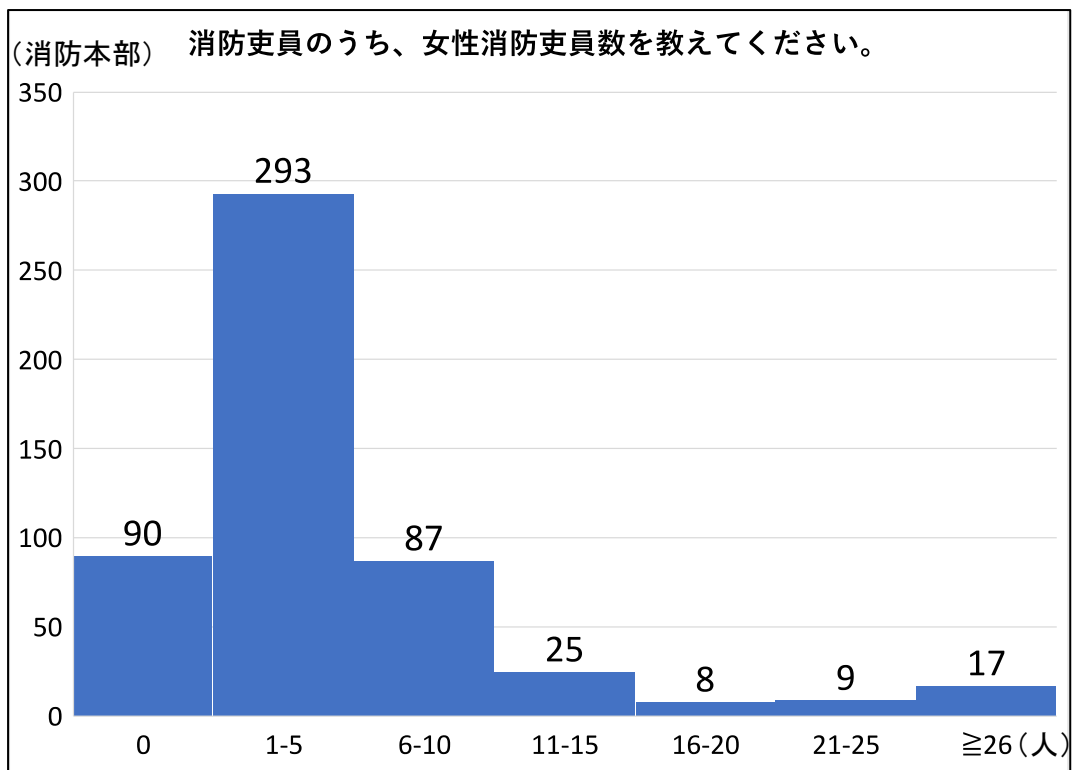
問2 ご所属の消防本部の職員（2022年3月末時点）の内訳をお答えください。



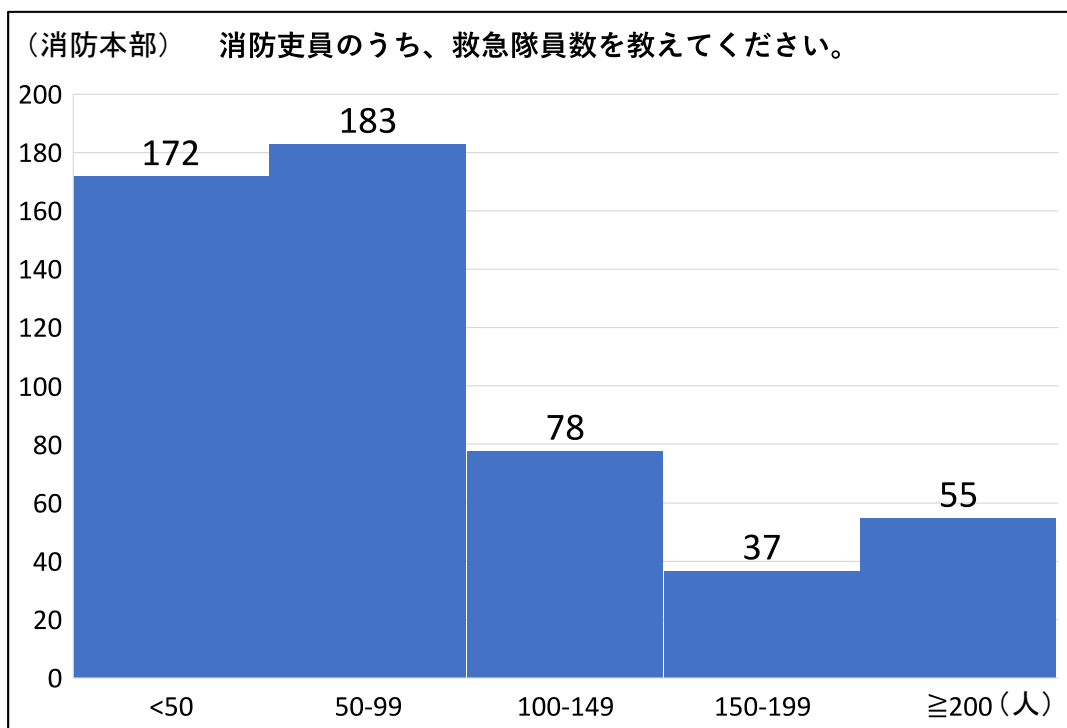
回答を得た消防本部職員数は、所属消防本部職員数250人未満が402消防本部、250－500未満が92消防本部であった。



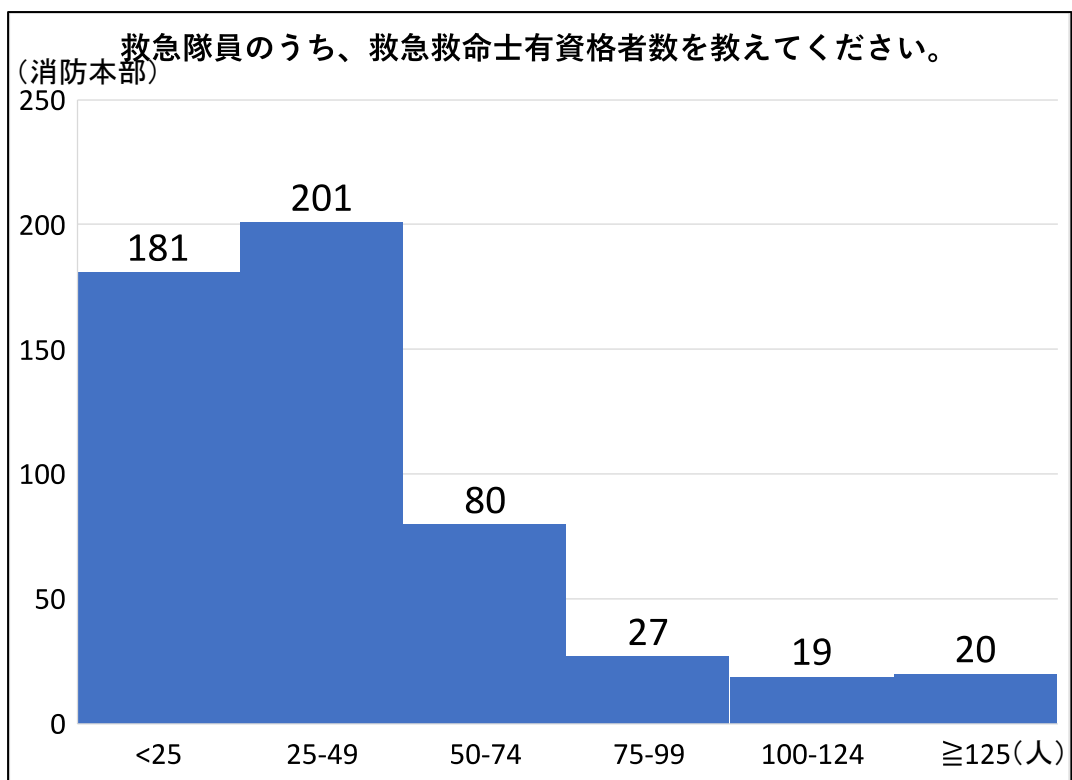
消防吏員数は所属消防本部職員数250人未満が406消防本部、250－500人未満が93消防本部であった。



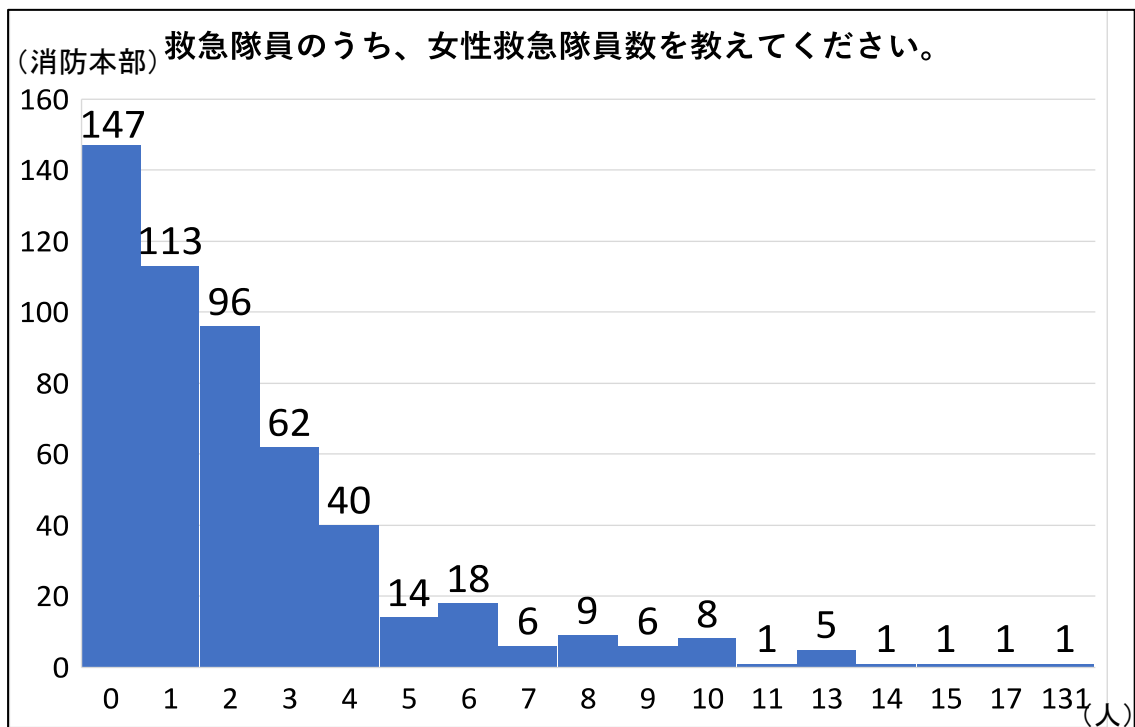
女性消防吏員数は1－5人が293本部と最も多く、0人が90本部、6－10人が87本部であった。



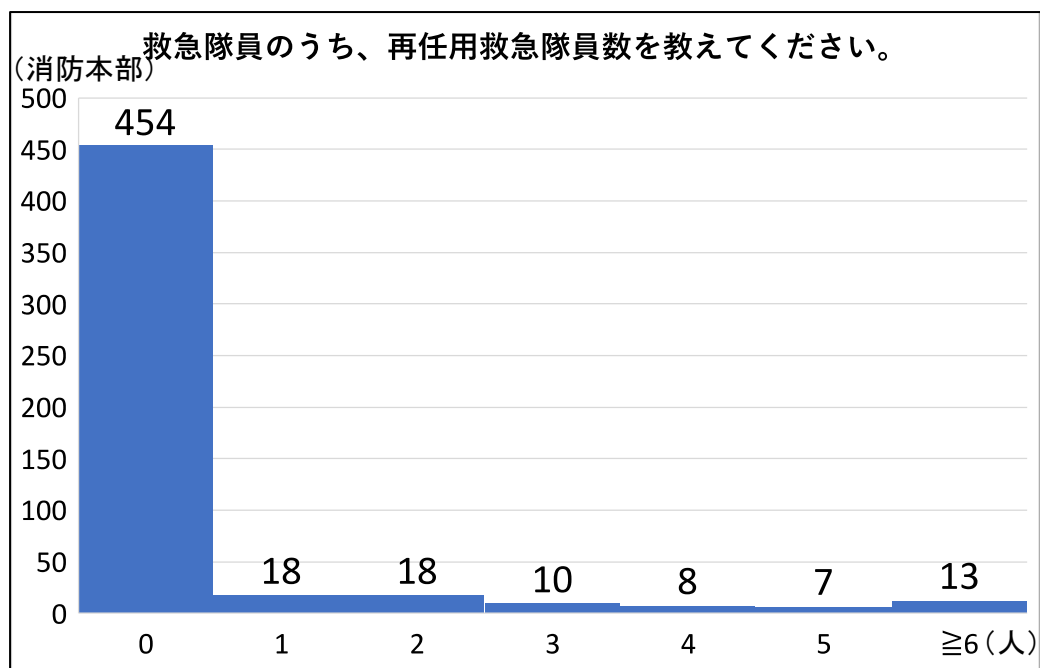
消防吏員数は50－100人未満が183消防本部と最も多く50人未満が172消防本部であった。



救急救命士有資格者数は、25から50人未満が201本部と最も多く、25人未満は181本部であった。

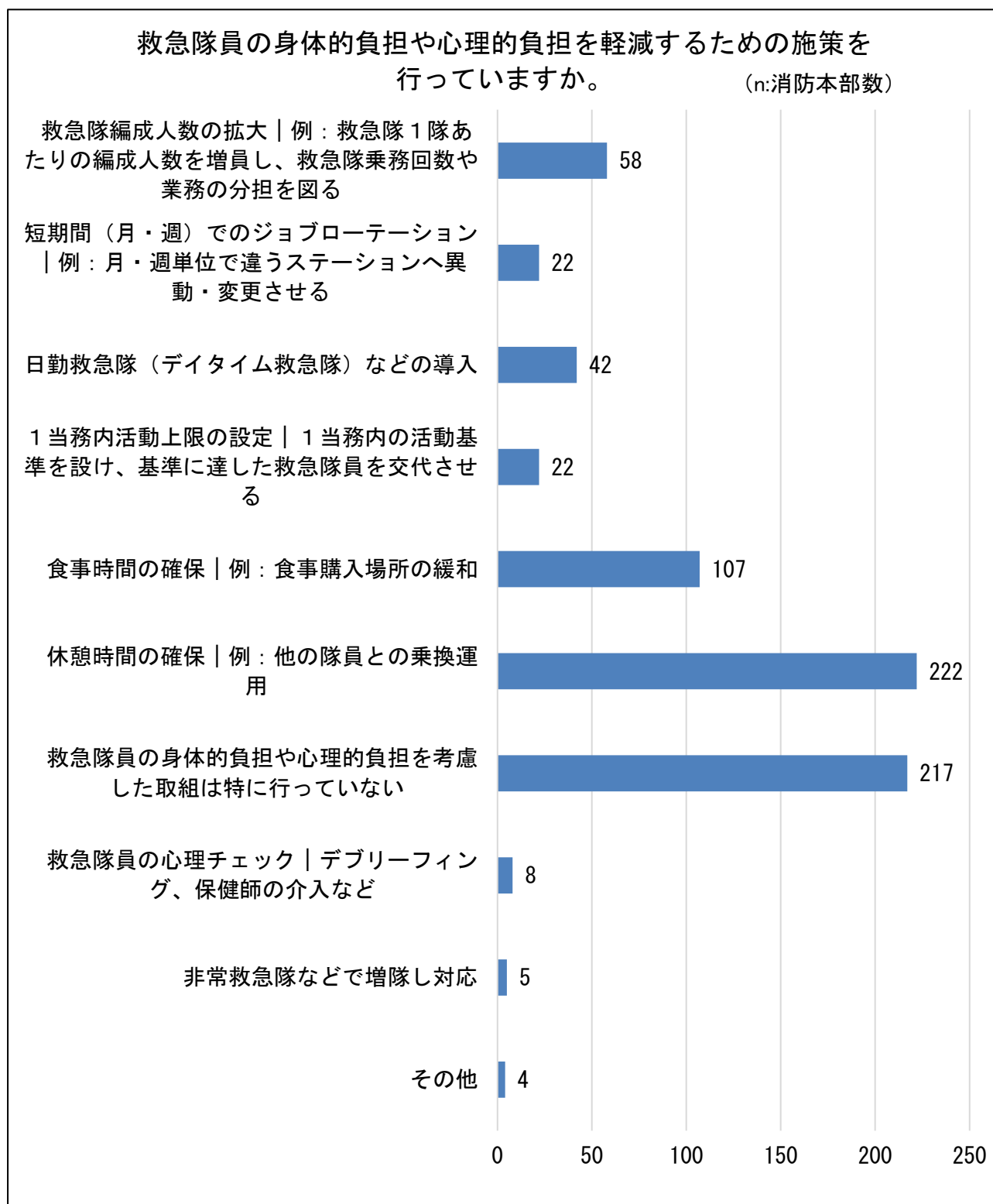


女性救急隊員数は0名が147本部として最も多く、1名在籍が113本部、2名以上が96本部であった。



再任用救急隊員数は、1名は18本部、2名が18本部、3名が10本部で6名以上は13本部であり、計74消防本部で1名以上の再任用職員を雇用していた。

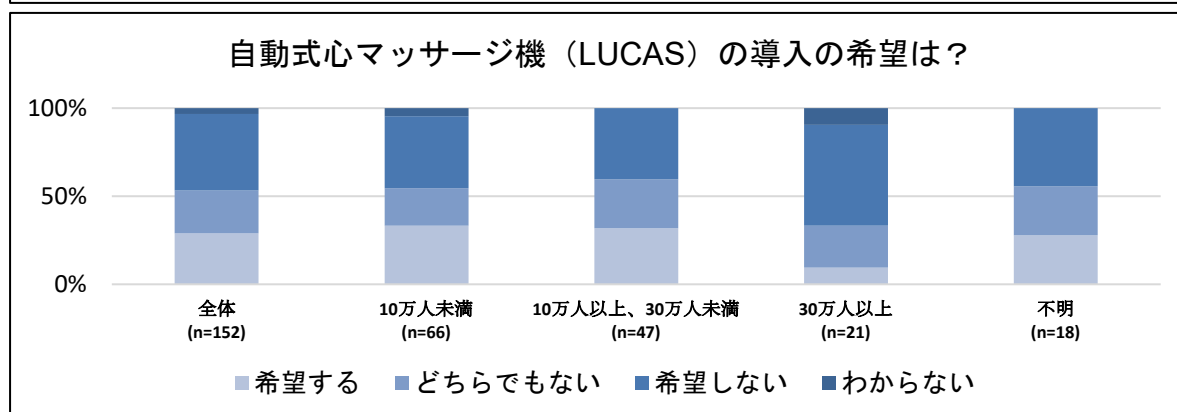
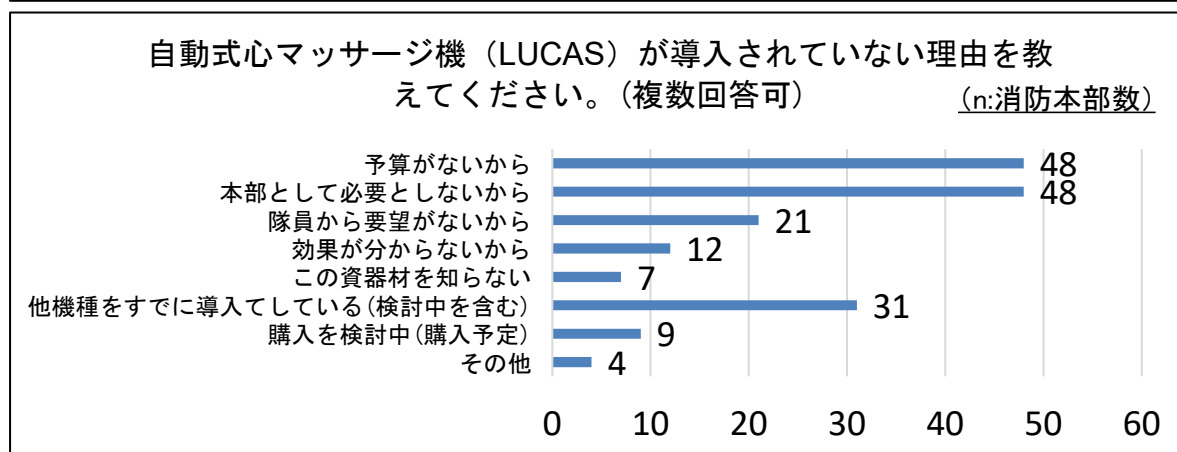
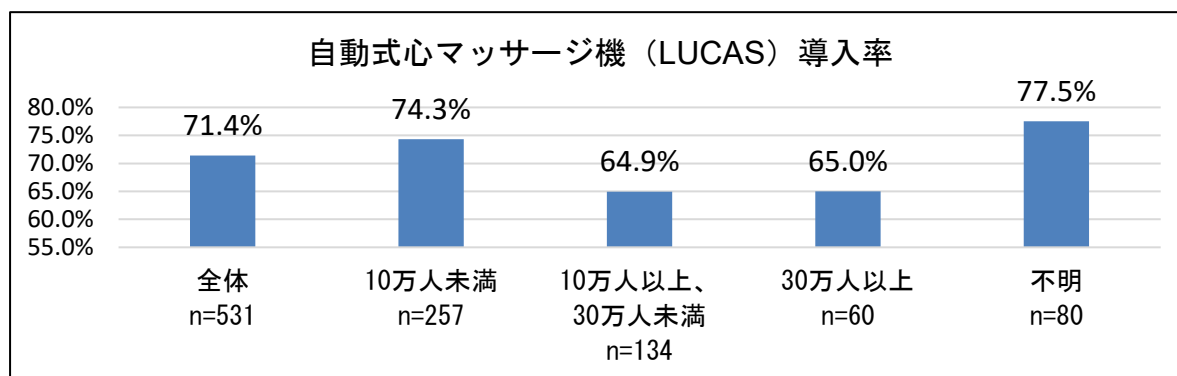
問3 日勤救急隊やそれと同様に救急隊員の身体的負担や心理的負担を軽減するための施策を行っていますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも○）



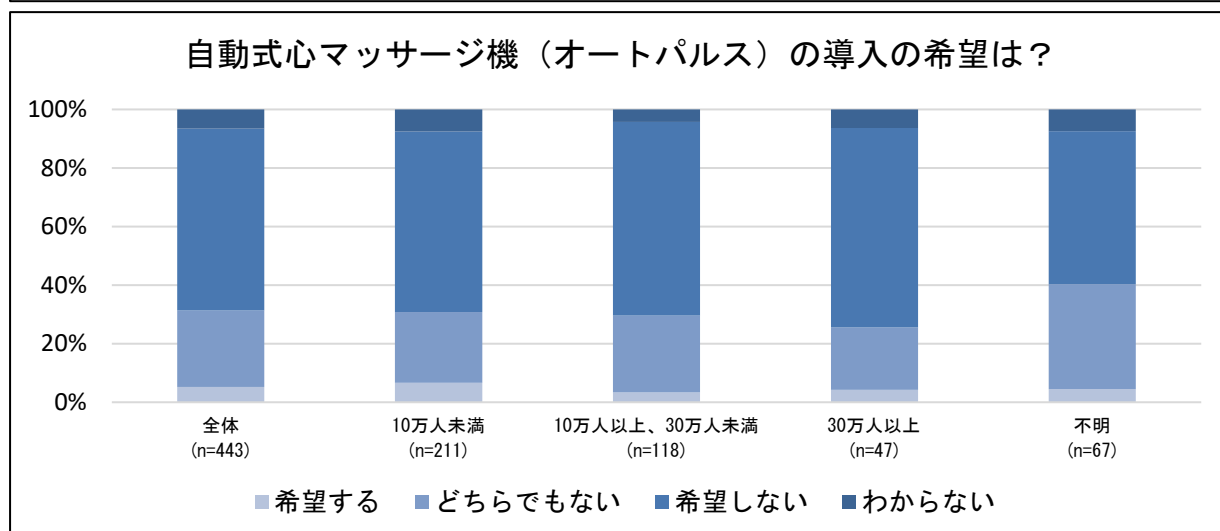
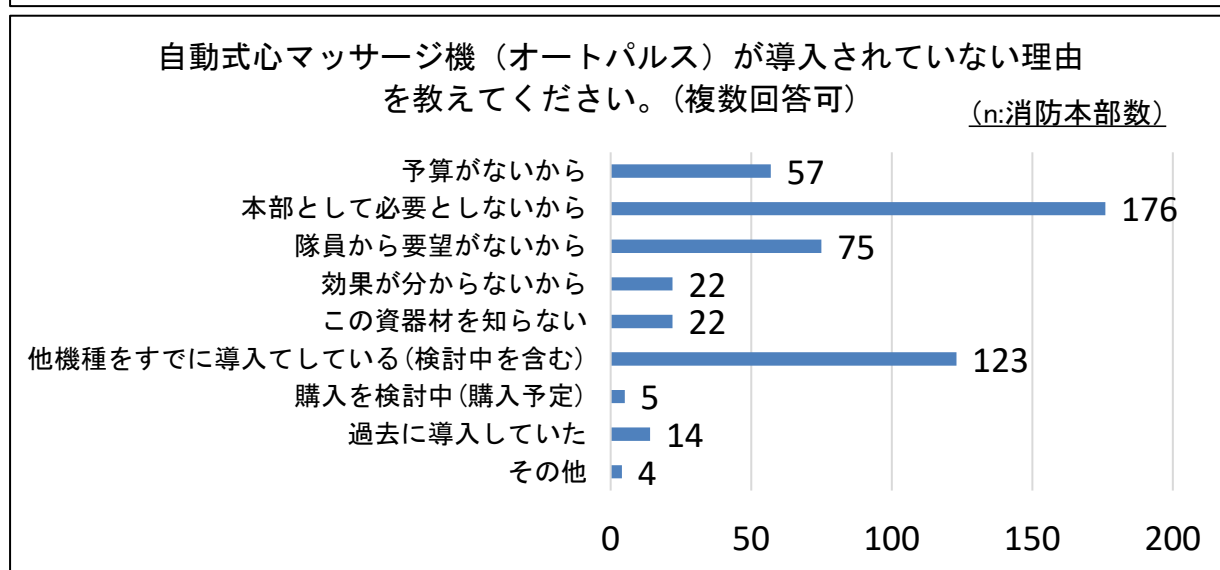
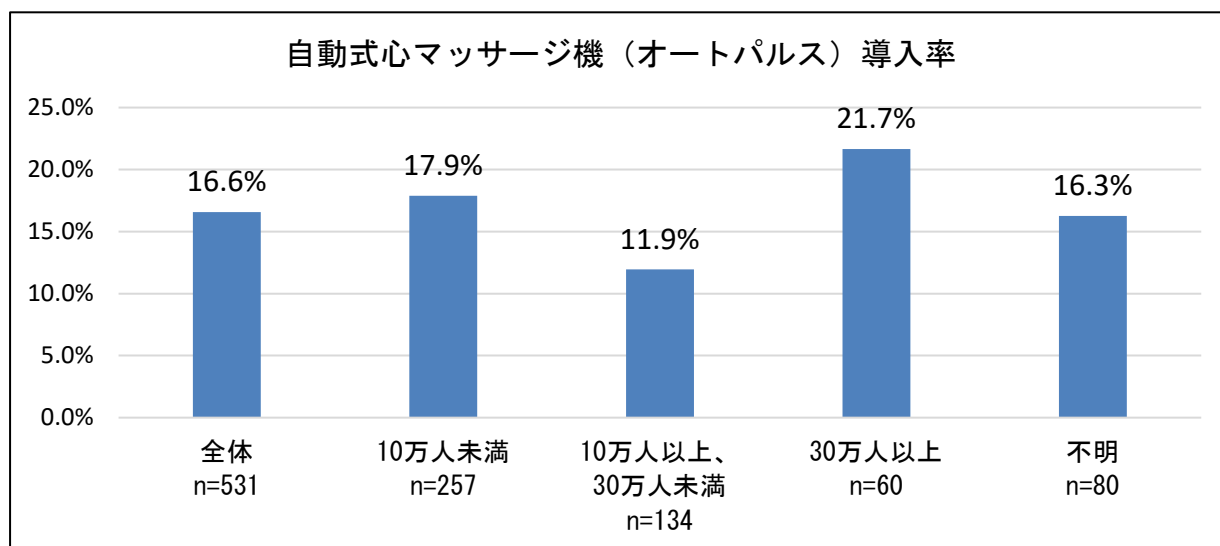
身体的負担・心理的負担に対する消防本部の施策については、休憩時間の確保（n=222）が最も多く、次いで食事時間の確保（n=107）、さらに救急隊編成人数の拡大（n=58）などが主要な施策として実施されていた。しかし、救急隊員の身体的負担や心理的負担を考慮した取組は特に行っていない消防本部（n=217）が多く見受けられた。

問4 貴消防本部では、救急隊員の身体的負担軽減のために

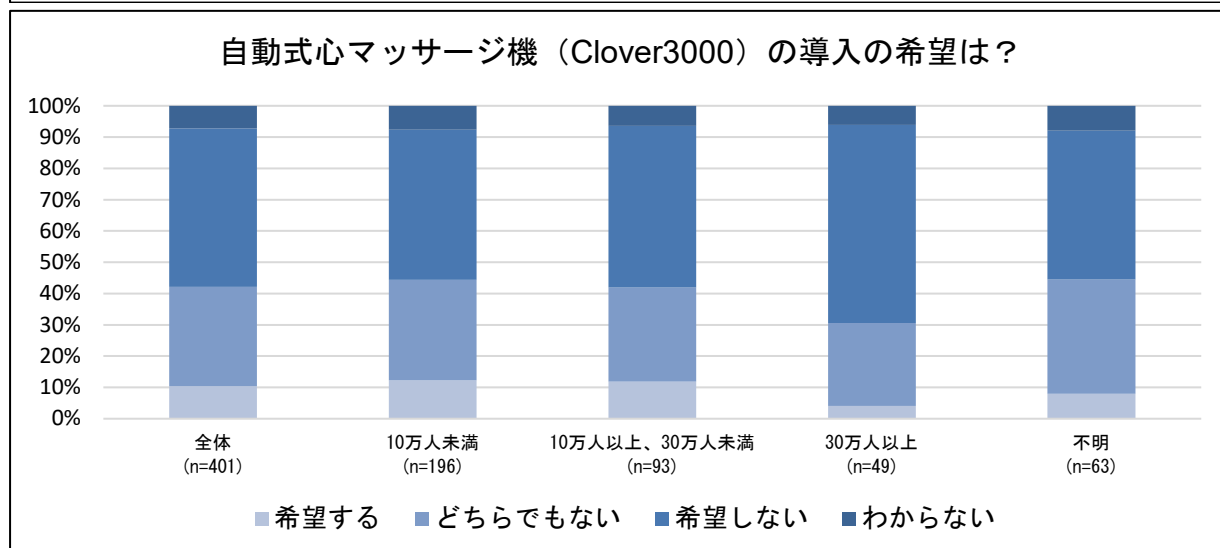
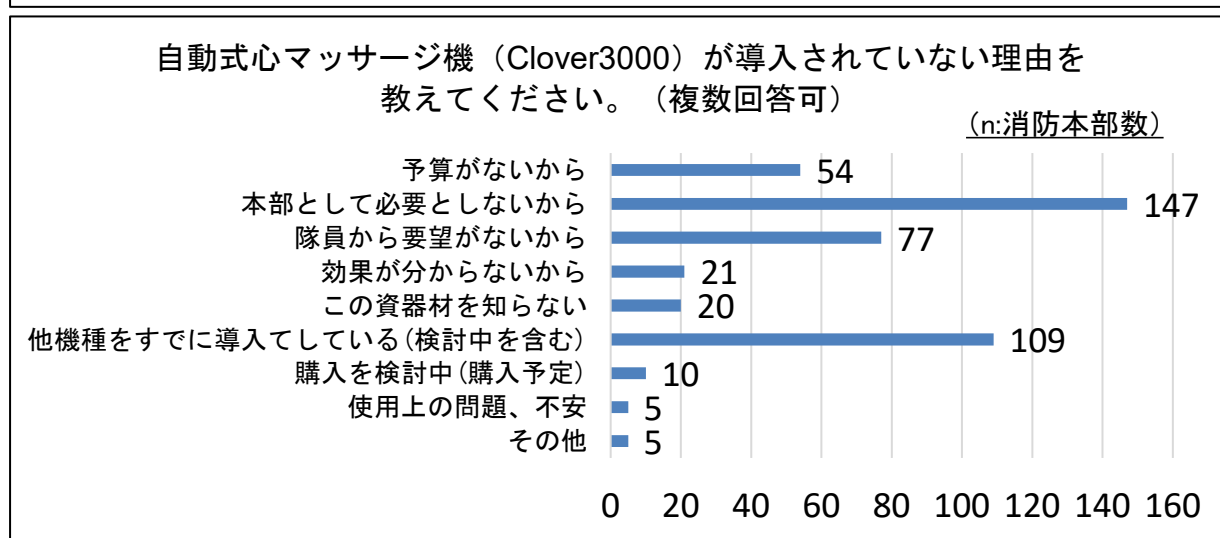
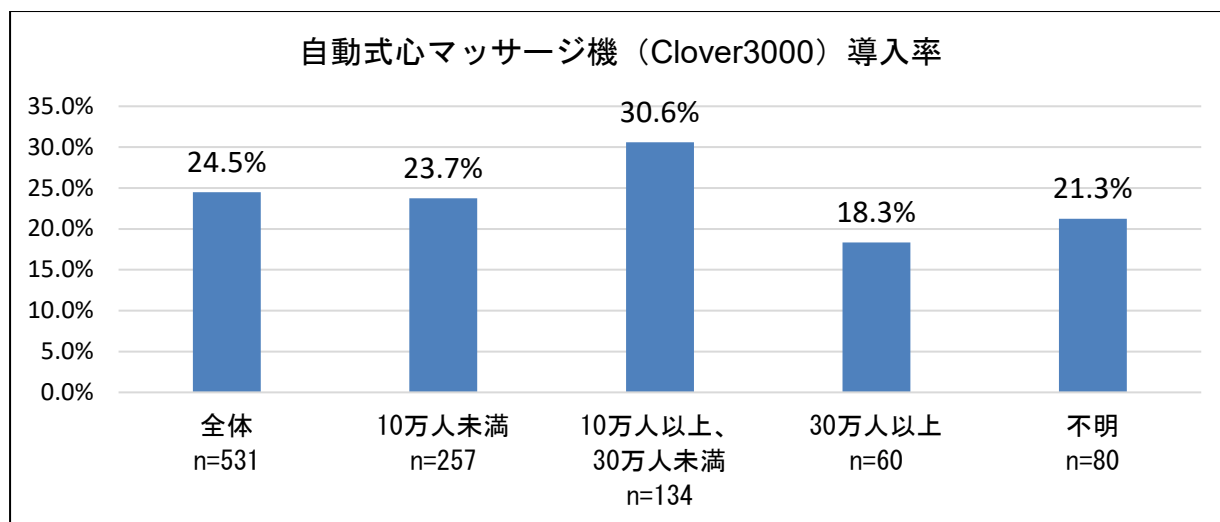
- i) 次の資器材を導入されていますか。(1つだけ○)
- ii) 導入されていない理由を教えてください。(いくつでも○)
- iii) ご存じの資器材について、導入を希望しますか。(1つだけ○)



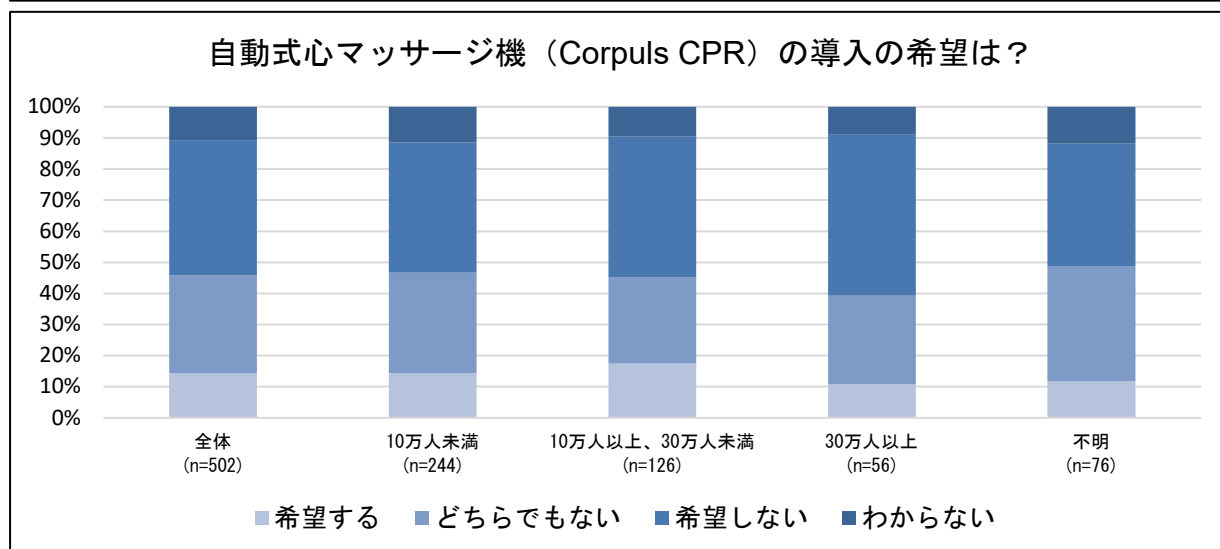
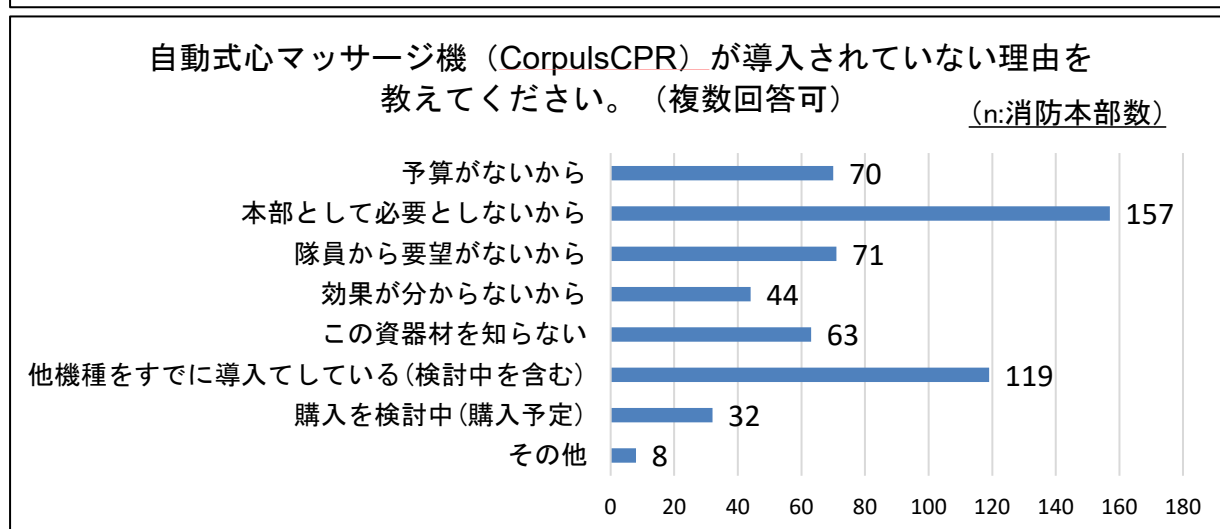
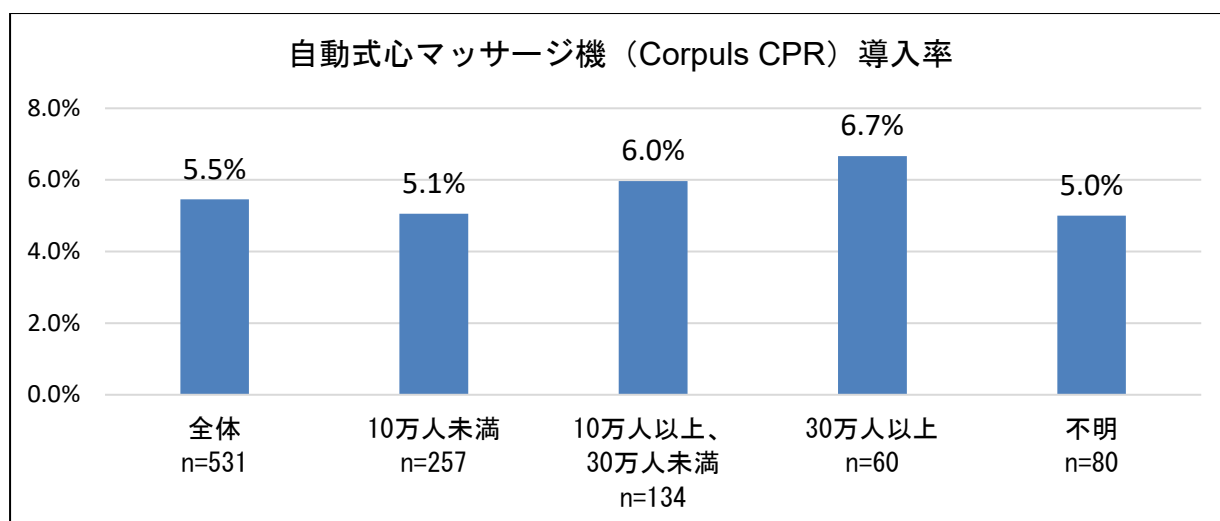
自動心臓マッサージ機（LUCAS）は地域人口数にかかわらず65～75%の消防本部で導入されていることが判明した。消防本部の規模別で最も多く採用されているのは10万人未満の規模で74.3%が使用されていた。一方、導入されていない理由として予算がないこと、必要性を感じていないこと、隊員からの要望がないことなどが挙げられた。今後の自動心臓マッサージの導入の希望については、地域人口数の小さい消防本部では、おおむね30%が導入を希望していたが、地域人口が多い消防本部では導入の希望は10%程度であった。



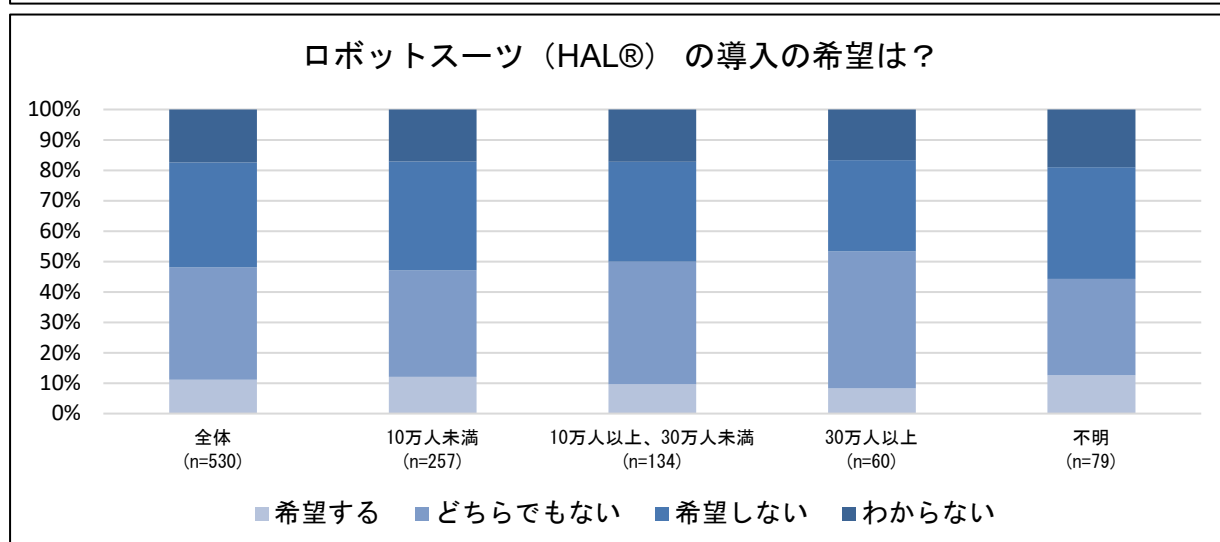
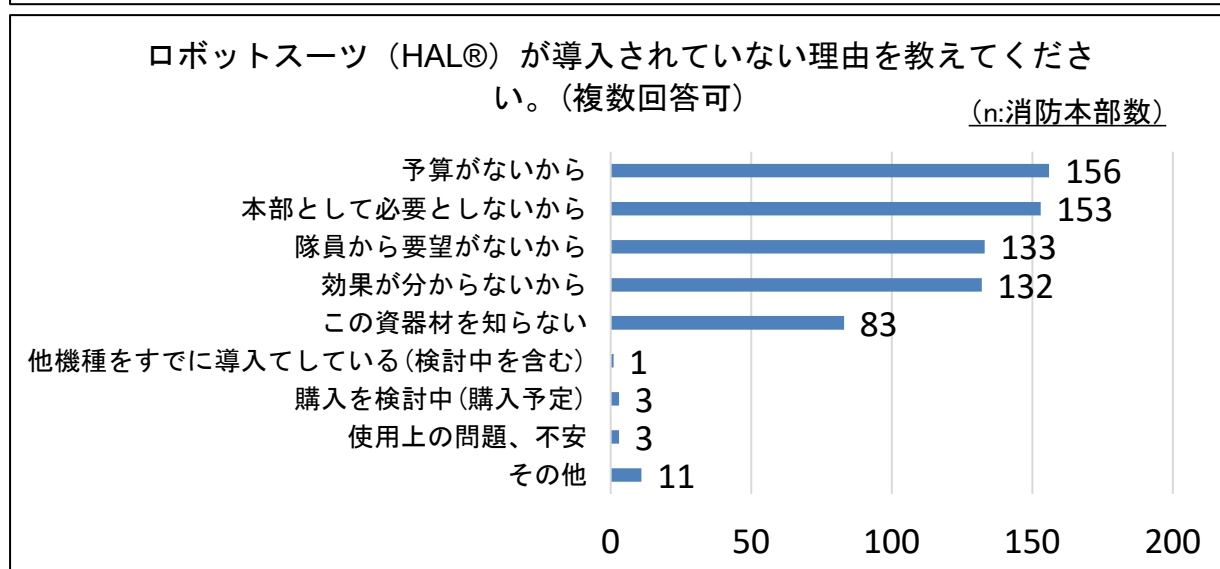
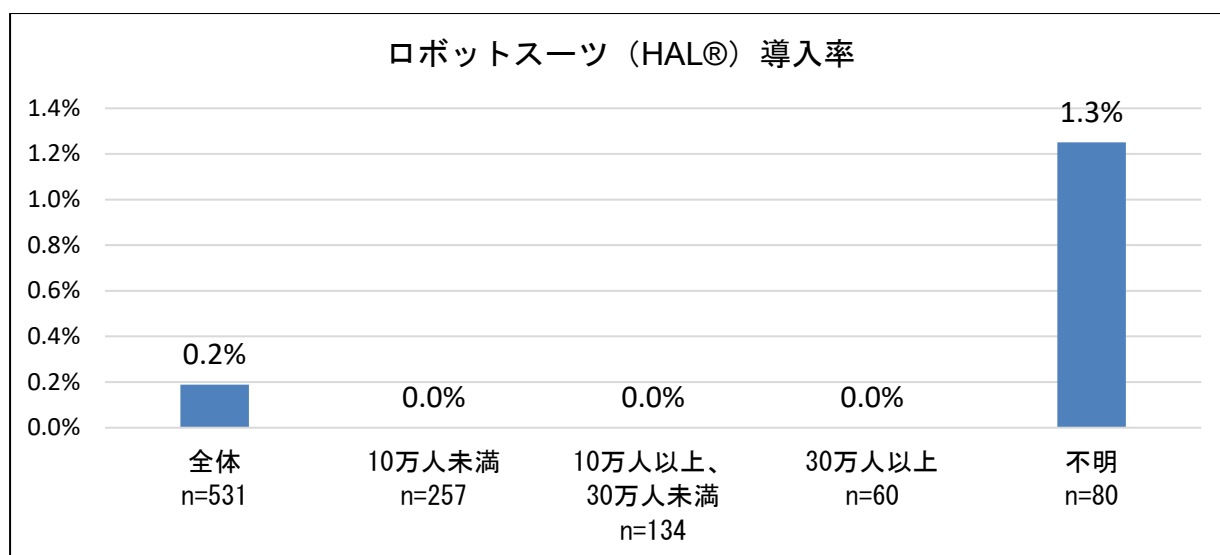
自動心臓マッサージ機（オートパルス）が最も多く採用されている地域人口数は、30万人以上の規模で21.7%であった。導入していない理由として本部として必要としないから（n=176）が最も多く、次いで他機種をすでに導入している（検討を含む）（n=123）であった。



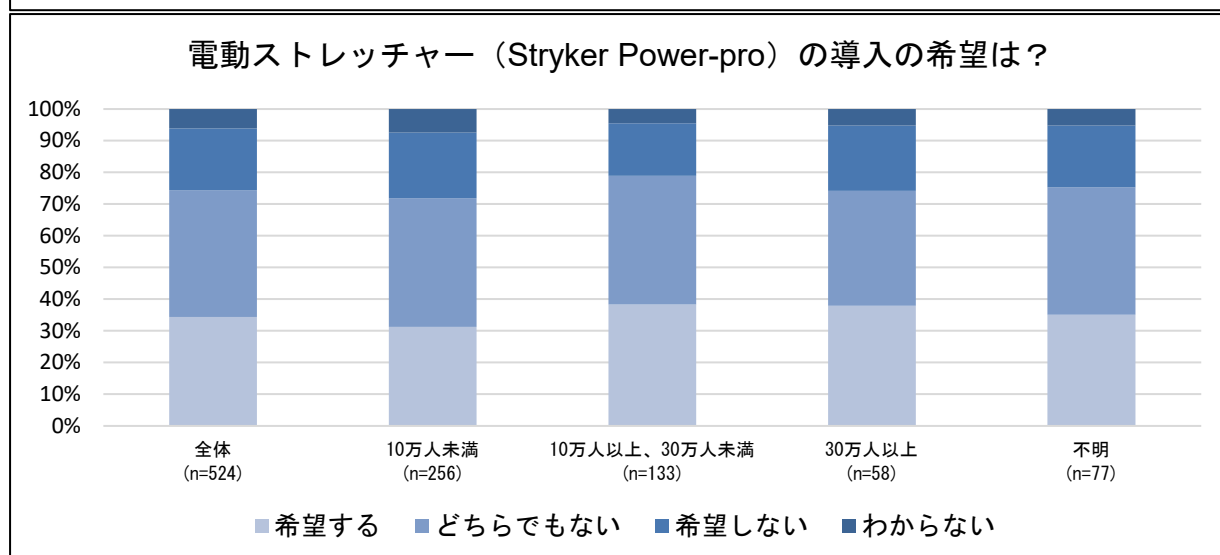
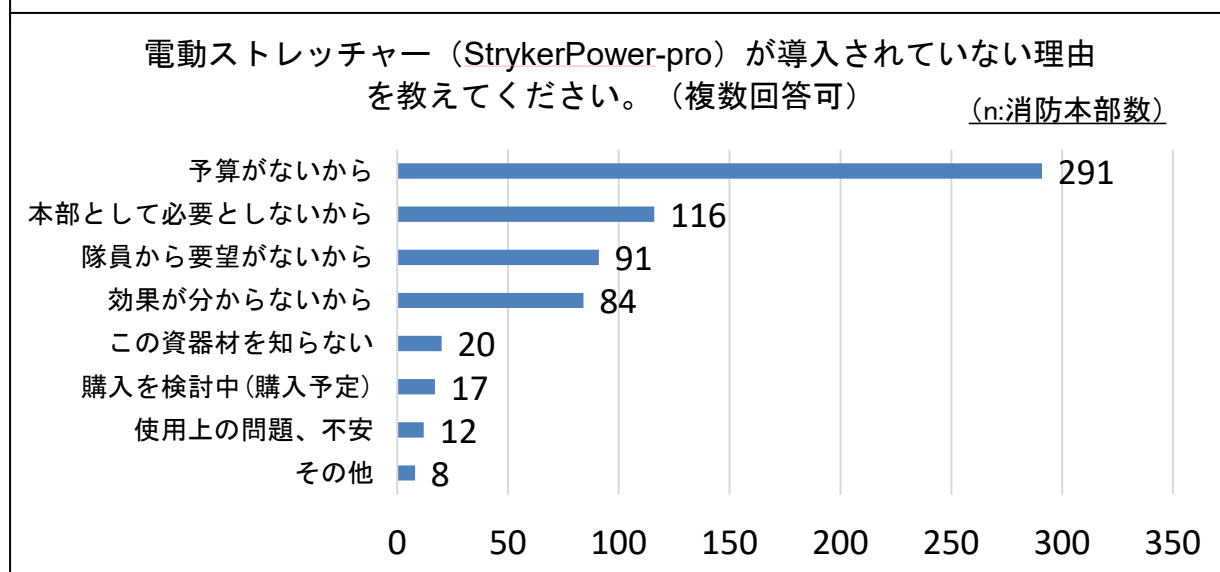
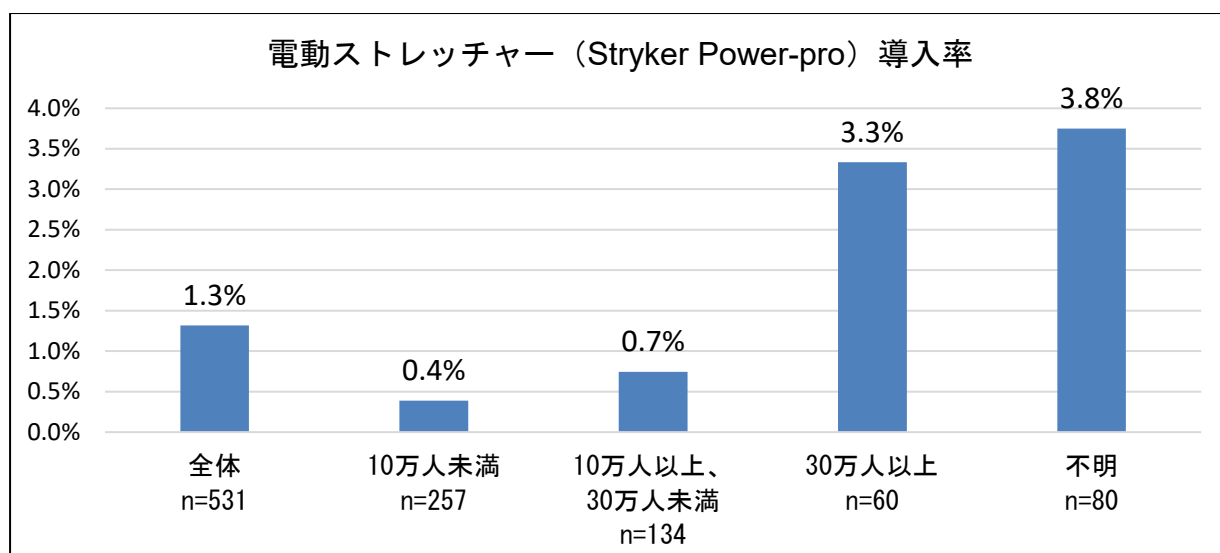
自動心臓マッサージ機（Clover3000）が採用されているのは、地域人口別では10万人以上-30万人未満の規模が最も多く30.6%であった。導入していない理由として本部として必要としないから（147件）が最も多く、次いで他機種をすでに導入している（検討を含む）（n=109）であった。



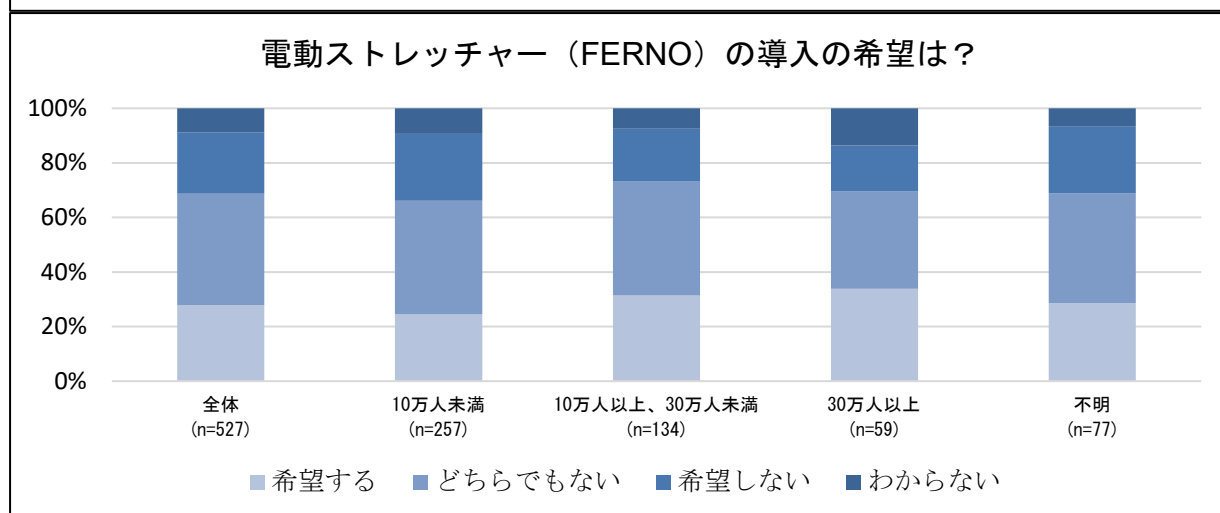
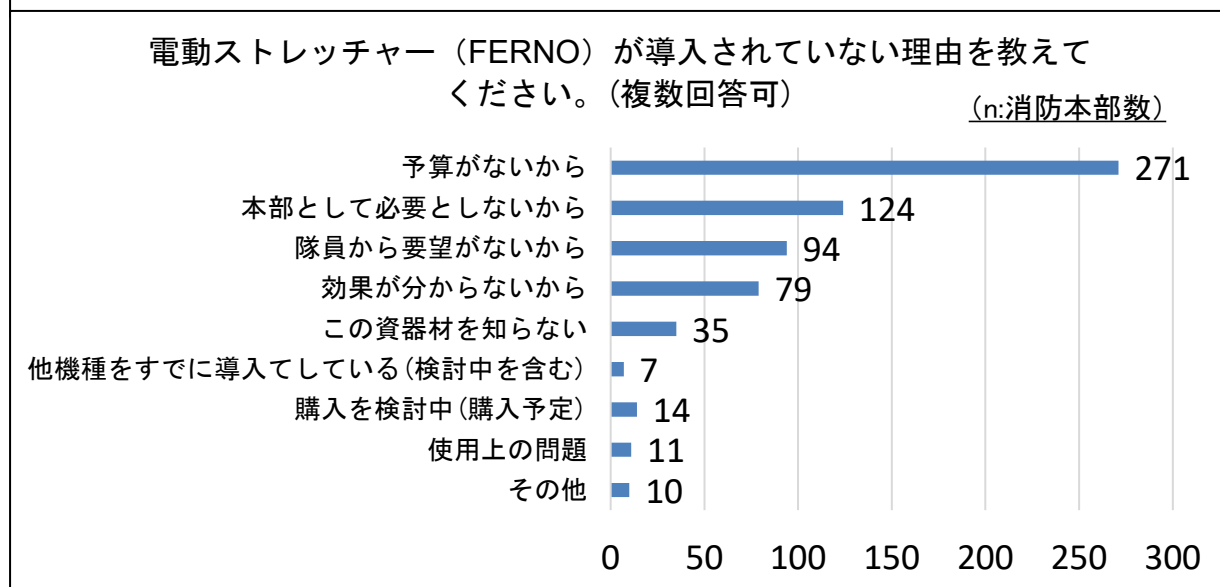
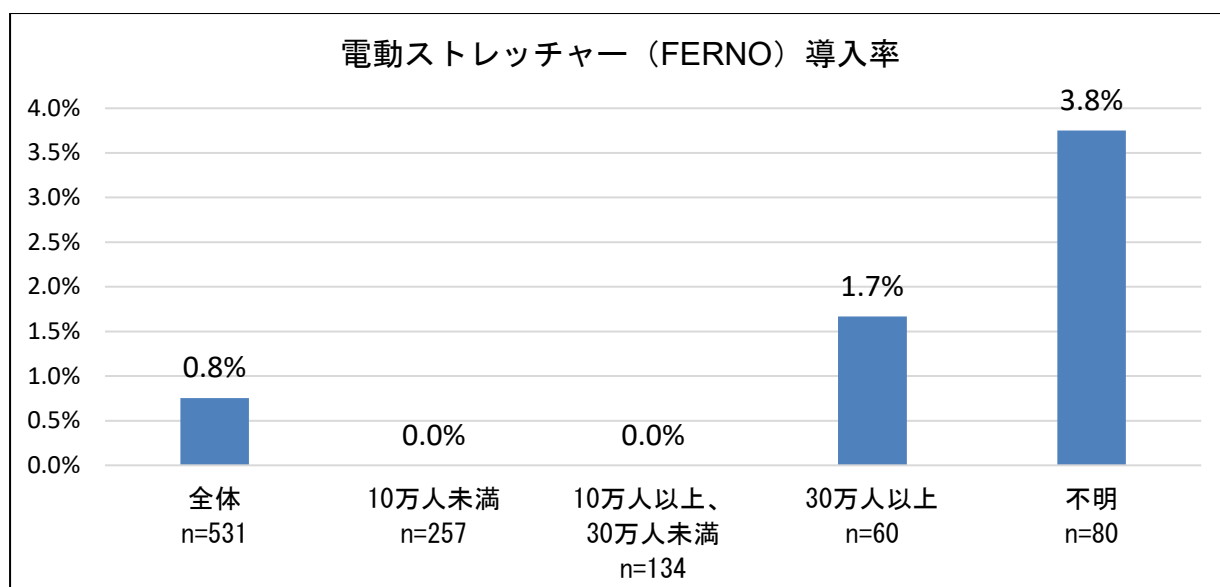
自動心臓マッサージ機（Corpuls CPR）が採用されているのは、地域人口が30万人以上の規模の消防本部で6.7%であった。導入していない理由として本部として必要としないから（n=157）が最も多く、次いで他機種をすでに導入している（検討を含む）（n=119）であった。



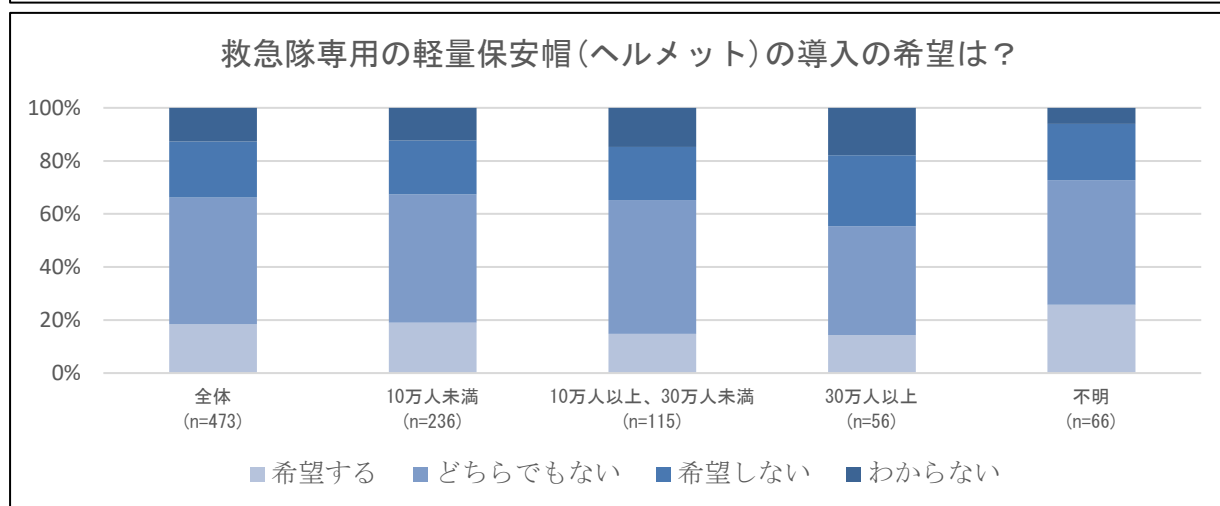
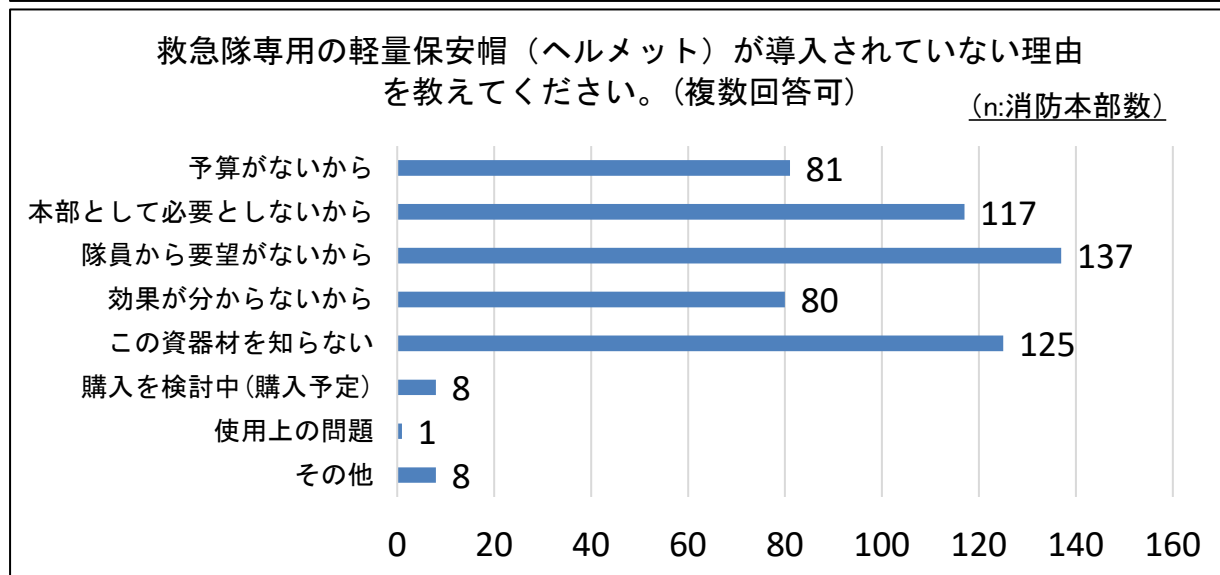
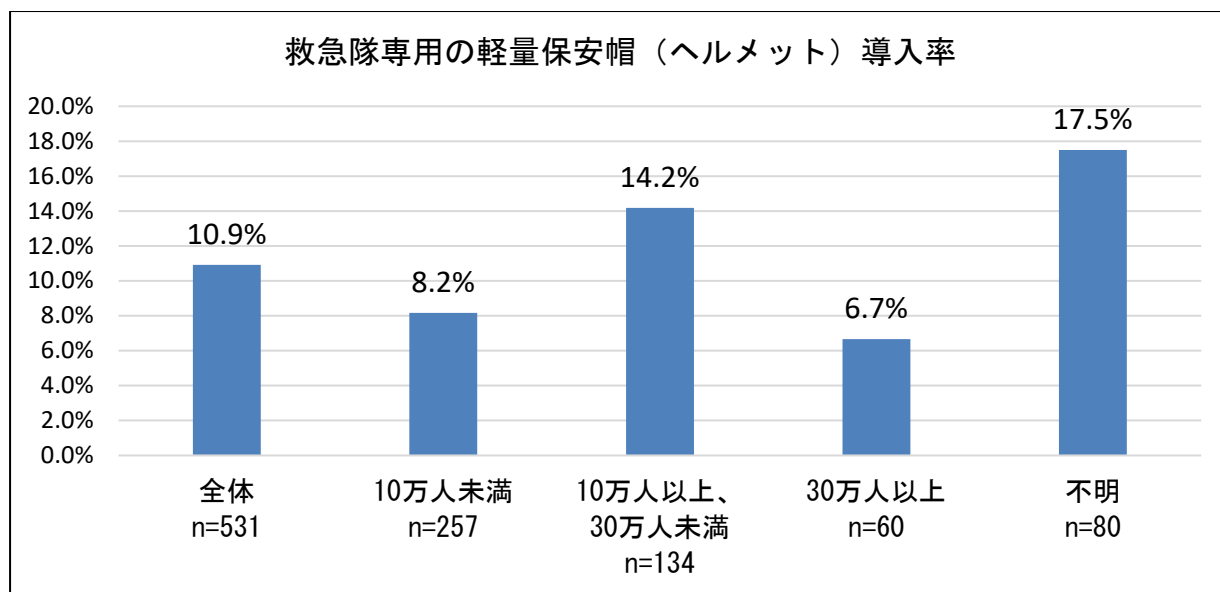
ロボットスーツが導入されていたのは、回答消防本部全体の「0.2%」であった。導入していない理由として予算がないから（n=156件）が最も多く、次いで本部として必要としないから（n=153）、隊員から要望がないから（n=133）、効果が分からないから（n=132）と続いた。



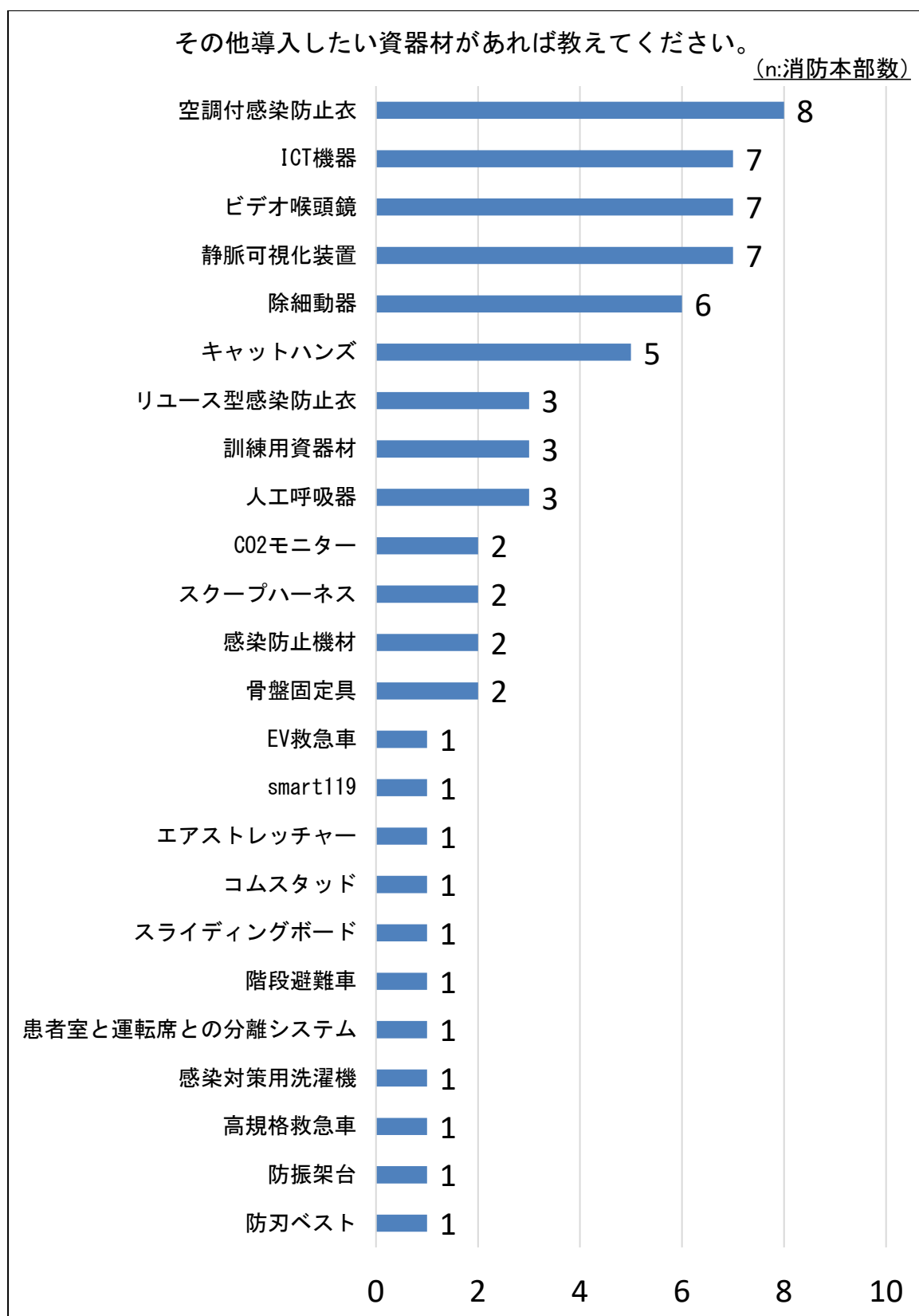
電動ストレッチャー（Stryker Power-pro）の導入は、回答全体の1.3%にとどまっており、消防本部の規模別で最も多く採用されているのは、地域人口30万人以上の規模の消防本部で3.3%であった。導入されていない理由として予算がないから（n=291）が圧倒的に多いことが判明した。



電動ストレッチャー（FERNO）導入率は、回答全体の0.8%にとどまっております。地域人口の規模別で最も多く採用されていたのは、30万人以上で1.7%であった。導入されていない理由として予算がないから（n=271）が圧倒的に多いことがわかった。

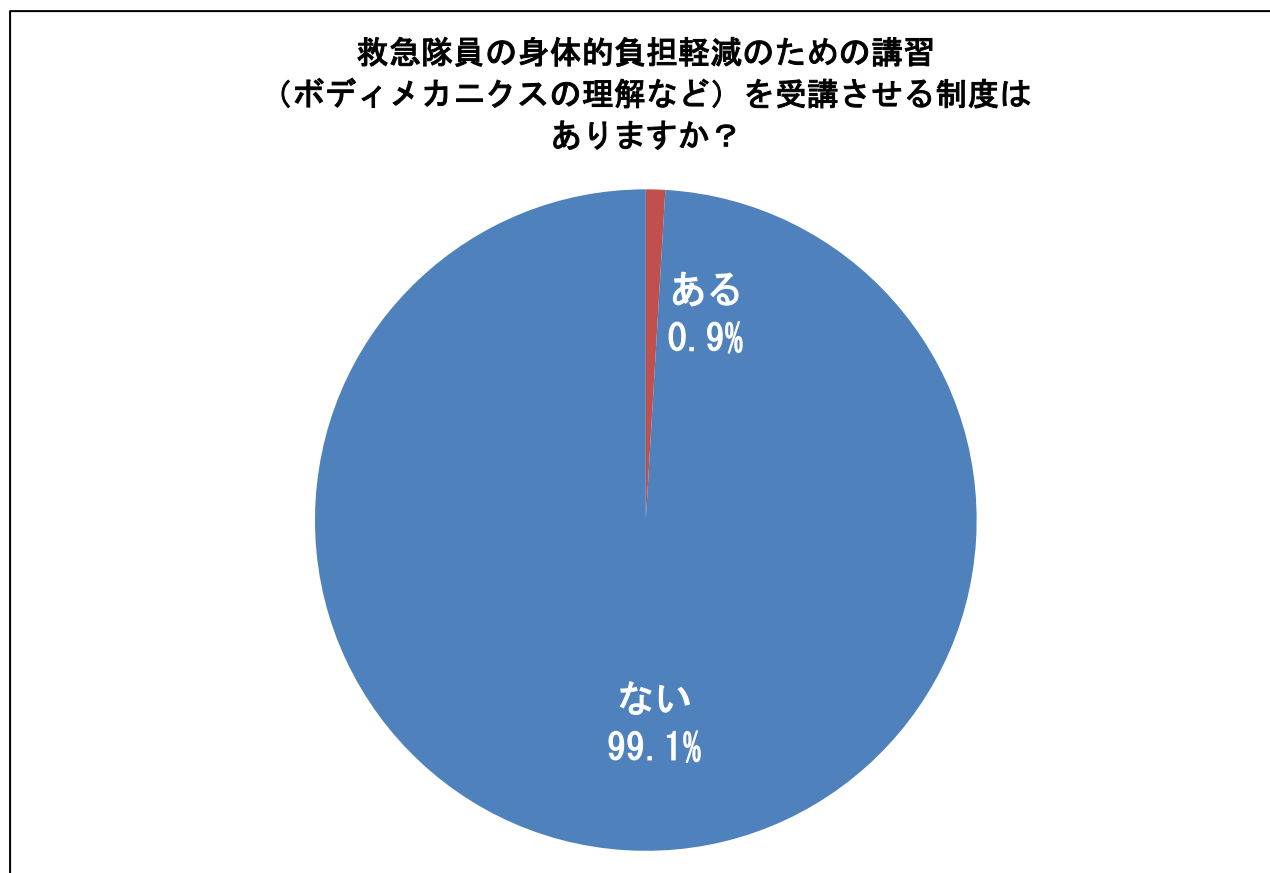


救急隊専用の軽量保安帽（ヘルメット）の導入率は、回答全体の10.9%にとどまっており、消防本部の規模別で最も多く採用されていたのは、10万人以上30万人未満の規模で14.2%であった。導入されていない理由として隊員からの要望がないから（n=137）が最も多かった。



回答した消防本部で、その他導入を期待しているものとしては、空調付き感染防御着 (n=8) が最も多く、次いで、ICT機器 (n=7)、ビデオ喉頭鏡 (n=7)、静脈可視化装置 (n=7) が続いた。

問5 救急隊員の身体的負担軽減のための講習（ボディメカニクス理解など）を受講させる制度はありますか？



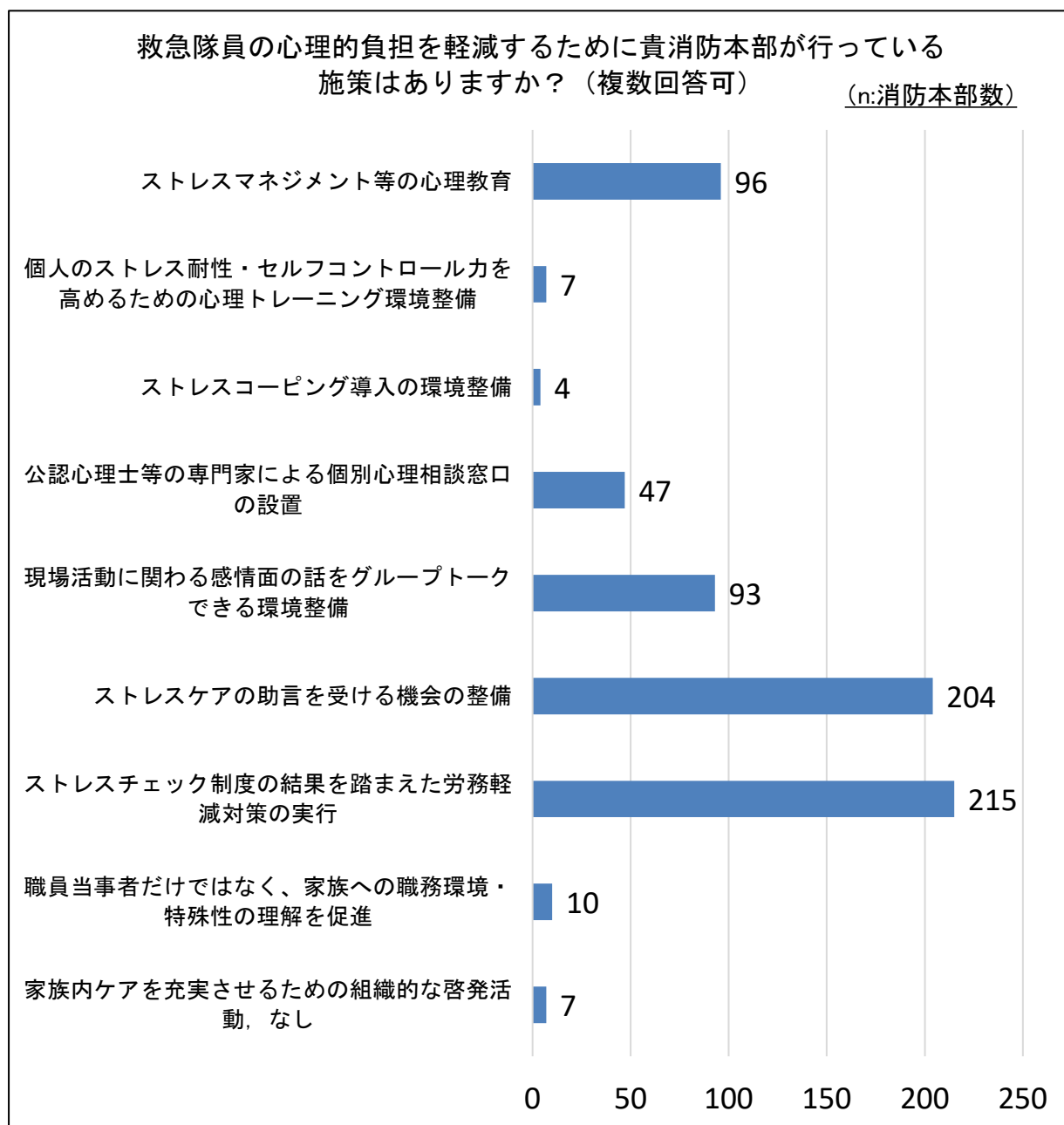
身体的負担軽減のための講習（ボディメカニクス理解など）を受講させる制度は0.9%の消防本部があると回答した。

あると回答した消防本部に、具体的にどのような講習を受講させているかを聞いたところ以下の回答を得た。

- ・本部内の救急生涯教育の一環として職員に伝達
- ・精神的負担について
- ・初任総合教育課程で受講している
- ・腰痛予防研修、病院実習におけるリハビリテーション研修
- ・古武術式介護

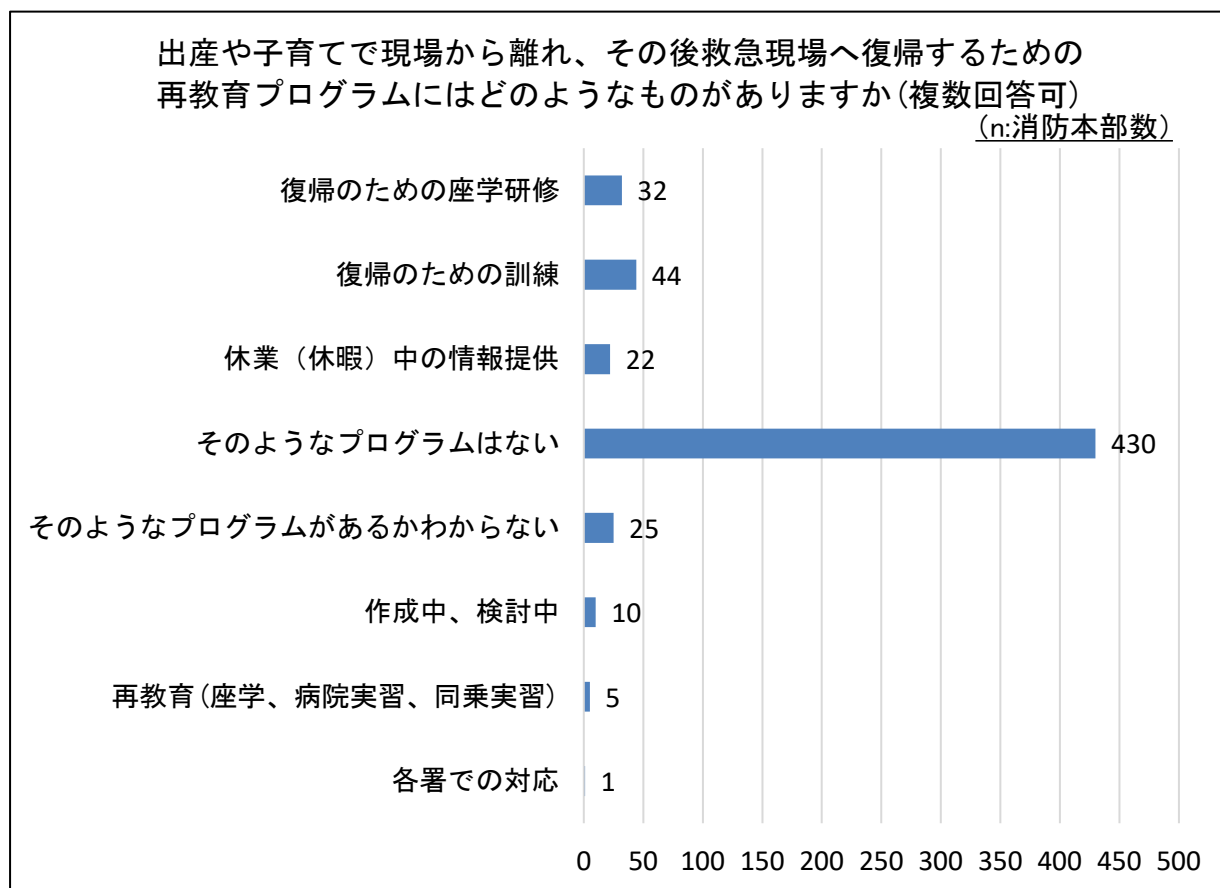
ボディメカニクス理解などの講習を行っているのは、わずか0.9%にとどまり、この点は今後の改善が期待される。

問6 救急隊員の心理的負担を軽減するために貴消防本部が行っている施策はありますか？



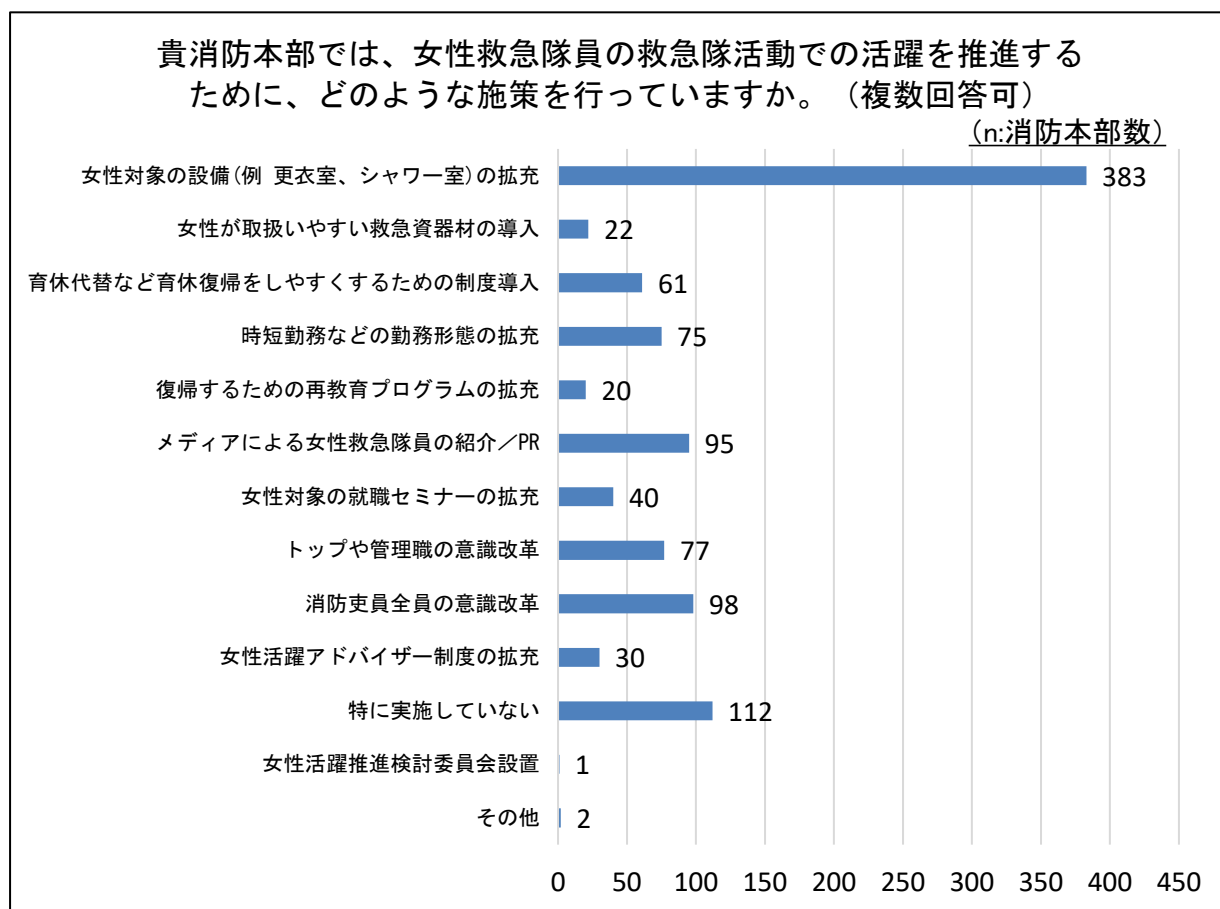
心理的負担軽減のための施策としては、ストレスチェック制度の結果を踏まえた労務軽減対策の実行が215件、ストレスケアの助言を受ける機会の整備が204件とストレスに対するチェック体制の整備や相談窓口の設置はなされつつあることがわかる。一方で、ストレスに対してどう対峙するかなどストレスケアなどの環境整備などはまだ十分に進んでいないことが判明した。

問7 出産や子育てで現場から離れ、その後救急現場へ復帰するための再教育プログラムにはどのようなものがありますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも○）



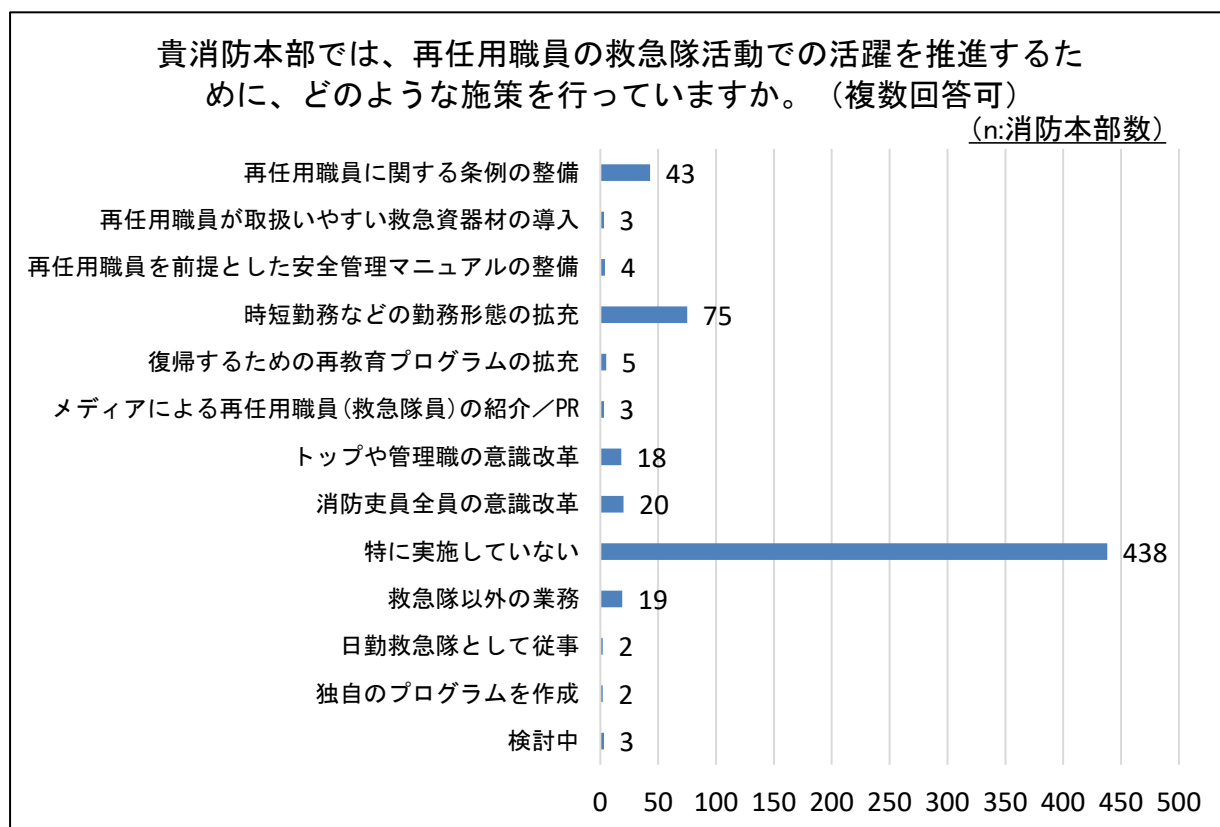
出産や子育てで現場から離れ、その後救急現場へ復帰するための再教育プログラムについては、復帰のための訓練が44消防本部、復帰のための座学が32消防本部にとどまった。整備されていない消防本部が430消防本部と非常に多いことがわかる。今後の産休・育休からの復帰プログラム構築が期待される。

問8 貴消防本部では、女性救急隊員の救急隊活動での活躍を推進するために、どのような施策を行っていますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも○）



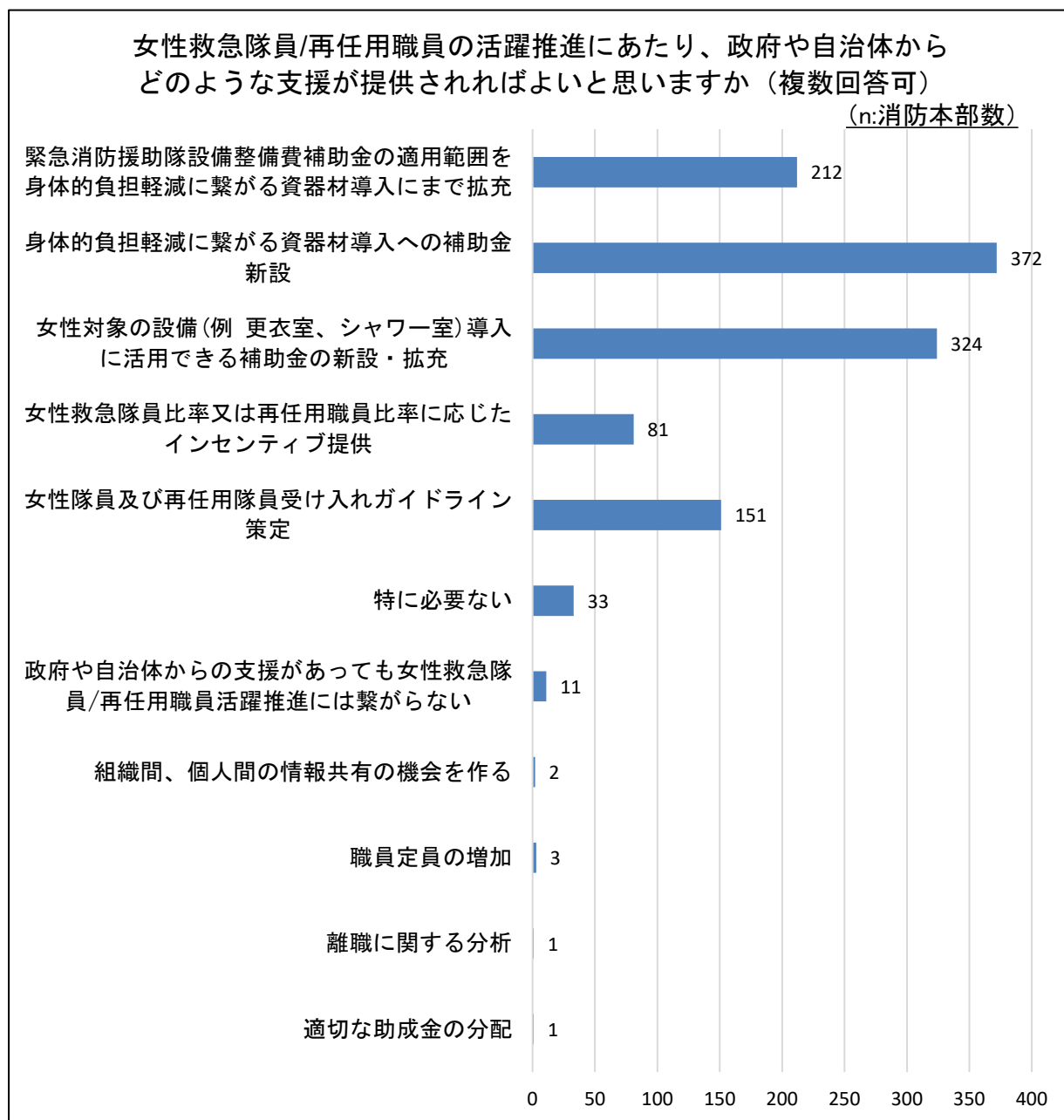
女性救急隊員の救急隊活動での活躍を推進するための施策として最も多かったのは、女性対象の更衣室やシャワーなどの施設設備で、383消防本部が回答した。次いで消防吏員全員の意識改革が98件、メディアによる女性救急隊員の紹介/PRが95件、トップや管理職の意識改革が77件、時短勤務などの勤務形態の拡充が61件と行なっている消防本部が増加していることが判明した。一方で、特に実施していない消防本部も112件と少なくないこともわかった。このうち90消防本部は女性が存在しないこともその理由であると思われる。

問9 貴消防本部では、再任用職員の救急隊活動での活躍を推進するために、どのような施策を行っていますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも○）



再任用職員の救急隊活動での活躍を推進するための施策として、時短勤務などの勤務形態の充実が75件、再任用職員に関する条例の整備が43件であった。しかしながら、438消防本部と8割の消防本部で実施していないことがわかった。これは再任用職員を雇用していない454消防本部が存在していることも関係していると思われる。

問 10 女性救急隊員/再任用職員の活躍推進にあたり、政府や自治体からどのような支援が提供されればよいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも○）



女性救急隊員/再任用職員の活躍推進にあたり、政府や自治体に要求したい支援として、身体的負担軽減に繋がる資器材導入への補助金新設が372件、女性対象の設備に活用できる補助金の新設・拡充が324件、緊急消防援助隊設備整備費補助金の適用範囲を身体的負担軽減に繋がる資器材導入にまで拡充が212消防本部で要望していることが明らかになった。

【消防本部からのアンケート結果のまとめ】

本アンケートでは、531消防本部から回答を得たが、身体的負担を軽減するための施策として、最も多かった回答は他の隊員との乗換運用の実施などによる休憩時間の確保であった（41.8%）。次に食事購入場所の緩和などによる食事時間の確保であった（20.2%）。心理的負担の軽減策としてはストレスチェック制度の結果を踏まえた労務軽減対策の実行が最多回答（40.5%）であり、次にストレスケアの助言を受ける機会の整備であった（38.4%）。今後の具体的な労務管理やストレスケアのベストプラクティスの共有が望まれる。

また女性救急隊員と再任用職員の活躍推進にあたり、身体的負担軽減に繋がる資器材導入への補助金の新設を政府や自治体に求めている現状が明らかとなった（70.1%）。今後は、育休や産休からの復帰プログラムや再任用へのプログラム作りが望まれる。

今回のアンケートでも全国の各消防本部は乗換運用や休暇時間の確保など労務管理により負担を軽減する懸命な努力をしていたが、一方で、負担軽減に繋がる資器材導入については予算的な問題から進んでいない本部も少なくないことが明らかとなった。

2) 救急隊員へのアンケート結果

消防職員としての心理的負担についての項目を問22から問27までの6問を行った。
以下にその結果と解析結果を示す

1. 回答者の背景について

全国724消防本部へアンケートの送付を行い、消防本部に在籍する救急隊員15,811人から回答を得ました。回答者の背景を表に示します。

n(%)	アンケート回答者 (n=15811)		
	男性 15394 (97.4)	女性 310 (2)	回答しない 107 (0.7)
年齢			
20歳未満	44 (0.3)	1 (0.4)	0 (0)
20～24歳	1290 (8.4)	63 (20.4)	9 (8.5)
25～29歳	2959 (19.3)	109 (35.2)	27 (25.3)
30～34歳	3166 (20.6)	54 (17.5)	27 (25.3)
35～39歳	2685 (17.5)	42 (13.6)	23 (21.5)
40～44歳	1921 (12.5)	26 (8.4)	7 (6.6)
45～49歳	2019 (13.2)	12 (3.9)	7 (6.6)
50～54歳	809 (5.3)	3 (1)	5 (4.7)
55～59歳	383 (2.5)	0 (0)	2 (1.9)
60～64歳	115 (0.8)	0 (0)	0 (0)
65歳以上	3 (0.1)	0 (0)	0 (0)
婚姻状況			
既婚	11723 (76.2)	94 (30.4)	76 (71.1)
独身	3561 (23.2)	214 (69.1)	30 (28.1)
それ以外	110 (0.8)	2 (0.7)	1 (1)
同居している子どもの有無			
いる	9882 (64.2)	58 (18.8)	58 (54.3)
いない	5512 (35.9)	252 (81.3)	49 (45.8)
消防本部の規模			
管轄人口10万人未満	5770 (37.5)	91 (29.4)	44 (41.2)
管轄人口10万人以上、30万人未満	4820 (31.4)	97 (31.3)	36 (33.7)
管轄人口30万人以上	4804 (31.3)	122 (39.4)	27 (25.3)
救急隊員としての在任期間			
1年未満	635 (4.2)	34 (11)	5 (4.7)
1～4年	2485 (16.2)	98 (31.7)	15 (14.1)
5～9年	4022 (26.2)	95 (30.7)	35 (32.8)
10～19年	5301 (34.5)	69 (22.3)	38 (35.6)
20～29年	2451 (16)	14 (4.6)	11 (10.3)
30年以上	500 (3.3)	0 (0)	3 (2.9)
職務状況			
専任の救急隊員	4995 (32.5)	144 (46.5)	23 (21.5)
消防隊等の業務との兼任の救急隊員	10399 (67.6)	166 (53.6)	84 (78.6)
過去1ヶ月で最も多かった救急隊としての職務区分			
		(0)	
隊長	5862 (38.1)	61 (19.7)	31 (29)
機関員	4593 (29.9)	53 (17.1)	36 (33.7)
隊員	4939 (32.1)	196 (63.3)	40 (37.4)
勤務形態			
デイトタイム救急隊 (日勤救急隊)	133 (0.9)	11 (3.6)	1 (1)
隔日勤務 (2交代制含む)	10901 (70.9)	222 (71.7)	82 (76.7)
3交代制	4310 (28)	75 (24.2)	24 (22.5)
その他	50 (0.4)	2 (0.7)	0 (0)
デイトタイム救急隊 (日勤救急隊) の必要性			
思う	5248 (34.1)	126 (40.7)	40 (37.4)
やや思う	3711 (24.2)	94 (30.4)	15 (14.1)
どちらとも言えない	3567 (23.2)	58 (18.8)	35 (32.8)
あまり思わない	2041 (13.3)	23 (7.5)	10 (9.4)
全く思わない	827 (5.4)	9 (3)	7 (6.6)
救急救命士国家資格保有の有無			
保有している	8726 (56.7)	216 (69.7)	43 (40.2)
保有していない	6668 (43.4)	94 (30.4)	64 (59.9)

2) 救急活動における身体的負担について

消防職員としての身体的負担についての項目を問11から問21までの10問を行った。

以下にその結果と解析結果を示す。

問11. 直近3当務の、あなたの平均的な当務あたりの出場件数をお聞かせください

	1. 0回	2. 1～3回	3. 4～6回	4. 7～9回	5. 10～12回	6. 13～15回	7. 16～19回	8. 20回以上
人数	961	6023	4481	2804	1106	222	72	142
割合	6.1%	38.1%	28.3%	17.7%	7.0%	1.4%	0.5%	0.9%

救急隊として、平均的な直近1当務あたりの出場件数は、1～3回での回答最も多かった（38.1%）。次いで4～6回（28.3%）、7～9回（17.7%）を占めていた。一方で10回を超えるのが約10%を超えていた。

問12. 直近3当務の、あなたの平均的な救急活動における身体的負担の程度をお聞かせください。

	身体的負担はなかった				どちらでもない				身体的負担が非常に大きかった		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数	2335	1418	1271	1164	551	2963	1911	2136	1267	280	515
割合	15%	9%	8%	7%	3%	19%	12%	14%	8%	2%	3%

救急活動に伴う身体負担の程度を「0：身体的負担はなかった」から「10：身体的負担が非常に多かった」の10のスケールで主観的調査した。

直近3当務の、平均的な救急活動における身体的負担の程度は、どちらでもないを示すスケール5が19%を占め、ついでやや負担を示す7が14%、6が12%であった。負担を感じていると推察できる6以上は39%を占めていた。

問13. 直近3当務の、あなたの平均的な救急活動における以下の動作時の身体的負担の程度をお聞かせください。

項目	性別	どちらでもない										行っていない	平均	総数	
		小さい	0	1	2	3	4	5	6	7	8				大きい
1 資機材の運搬や移動	男性	3828	1795	1261	1205	653	3474	1318	829	414	123	199	295	3.3	15394
		24.9%	11.7%	8.2%	7.8%	4.2%	22.6%	8.6%	5.4%	2.7%	0.8%	1.3%	1.9%		
	女性	52	32	22	23	23	57	40	31	20	3	5	2	4.0	310
		16.8%	10.3%	7.1%	7.4%	7.4%	18.4%	12.9%	10.0%	6.5%	1.0%	1.6%	0.6%		
2 床などでの胸骨圧迫	男性	4506	926	703	581	318	2497	878	675	418	117	191	3584	2.9	15394
		29.3%	6.0%	4.6%	3.8%	2.1%	16.2%	5.7%	4.4%	2.7%	0.8%	1.2%	23.3%		
	女性	65	11	16	16	9	50	25	13	5	1	5	94	3.4	310
		21.0%	3.5%	5.2%	5.2%	2.9%	16.1%	8.1%	4.2%	1.6%	0.3%	1.6%	30.3%		
3 傷病者移動中時の胸骨圧迫	男性	4489	883	679	553	312	2391	797	739	496	179	241	3635	3.0	15394
		29.2%	5.7%	4.4%	3.6%	2.0%	15.5%	5.2%	4.8%	3.2%	1.2%	1.6%	23.6%		
	女性	63	10	15	14	5	47	27	14	10	2	6	97	3.6	310
		20.3%	3.2%	4.8%	4.5%	1.6%	15.2%	8.7%	4.5%	3.2%	0.6%	1.9%	31.3%		
4 傷病者の移送 (ベッドや簡易搬送機へ移動させるとき)	男性	2879	1524	1242	936	555	2743	1888	1483	948	391	462	343	4.1	15394
		18.7%	9.9%	8.1%	6.1%	3.6%	17.8%	12.3%	9.6%	6.2%	2.5%	3.0%	2.2%		
	女性	39	19	18	16	20	46	60	44	22	11	10	5	4.8	310
		12.6%	6.1%	5.8%	5.2%	6.5%	14.8%	19.4%	14.2%	7.1%	3.5%	3.2%	1.6%		
5 簡易搬送機材を用いた搬送時 (サブストレッチャーや布担架等)	男性	2951	1427	1154	843	522	2644	1717	1531	997	532	535	541	4.2	15394
		19.2%	9.3%	7.5%	5.5%	3.4%	17.2%	11.2%	9.9%	6.5%	3.5%	3.5%	3.5%		
	女性	33	28	15	16	14	38	59	47	25	14	13	8	5.0	310
		10.6%	9.0%	4.8%	5.2%	4.5%	12.3%	19.0%	15.2%	8.1%	4.5%	4.2%	2.6%		
6 簡易搬送機材を用いた階段搬送	男性	2953	1158	971	801	440	2244	1272	1569	1176	766	831	1213	4.4	15394
		19.2%	7.5%	6.3%	5.2%	2.9%	14.6%	8.3%	10.2%	7.6%	5.0%	5.4%	7.9%		
	女性	33	19	14	14	10	36	48	44	31	19	18	24	5.3	310
		10.6%	6.1%	4.5%	4.5%	3.2%	11.6%	15.5%	14.2%	10.0%	6.1%	5.8%	7.7%		
7 救急車への傷病者の搬入/搬出 (ストレッチャーの上げ下げ)	男性	2954	1693	1182	883	634	2793	1678	1338	885	509	476	369	4.0	15394
		19.2%	11.0%	7.7%	5.7%	4.1%	18.1%	10.9%	8.7%	5.7%	3.3%	3.1%	2.4%		
	女性	30	24	17	12	14	39	48	48	32	20	16	10	5.3	310
		9.7%	7.7%	5.5%	3.9%	4.5%	12.6%	15.5%	15.5%	10.3%	6.5%	5.2%	3.2%		
8 救急車内での処置・観察	男性	3571	1871	1340	952	836	3392	1337	817	500	238	210	330	3.4	15394
		23.2%	12.2%	8.7%	6.2%	5.4%	22.0%	8.7%	5.3%	3.2%	1.5%	1.4%	2.1%		
	女性	74	36	21	21	23	68	38	11	6	7	2	3	3.4	310
		23.9%	11.6%	6.8%	6.8%	7.4%	21.9%	12.3%	3.5%	1.9%	2.3%	0.6%	1.0%		
9 救急車内の防護柵台の上での胸骨圧迫	男性	4352	925	716	526	412	2171	891	741	483	273	287	3617	3.1	15394
		28.3%	6.0%	4.7%	3.4%	2.7%	14.1%	5.8%	4.8%	3.1%	1.8%	1.9%	23.5%		
	女性	56	14	13	12	12	50	21	19	10	5	4	94	3.8	310
		18.1%	4.5%	4.2%	3.9%	3.9%	16.1%	6.8%	6.1%	3.2%	1.6%	1.3%	30.3%		
10 救急車内の防護柵台以外での胸骨圧迫	男性	4423	953	677	494	406	2264	829	636	426	252	257	3777	3.0	15394
		28.7%	6.2%	4.4%	3.2%	2.6%	14.7%	5.4%	4.1%	2.8%	1.6%	1.7%	24.5%		
	女性	61	12	16	8	10	51	21	14	10	3	5	99	3.6	310
		19.7%	3.9%	5.2%	2.6%	3.2%	16.5%	6.8%	4.5%	3.2%	1.0%	1.6%	31.9%		

救急活動に伴う身体負担の程度を「0：身体的負担はなかった」から「10：身体的負担が非常に多かった」で調査し、中央値では「5：どちらでもない」と感じている救急隊員が多かった一方、何らかの身体的負担を感じた回答者の割合は、傷病者の移送（34.6%）、簡易搬送器材を用いた搬送時（36.0%）、簡易搬送器材を用いた階段時の搬送（39.8%）、救急車への傷病者の搬入／搬出（32.9%）など傷病者を持ち上げ下げする動作時に多い傾向を示した。

問14. 暑熱・寒冷環境下での身体的負担について、どの程度当てはまるかお聞かせください。

項目	性別	1. 感じる	2. やや感じる	3. あまり感じない	4. 感じない	平均
1. 発汗により救急服・感染防止衣が身体にベタつくことで、身体の可動性に動きづらさを感じる	男性	7707	5570	1666	451	1.7
		50.1%	36.2%	10.8%	2.9%	
	女性	110	130	53	17	1.9
		35.5%	41.9%	17.1%	5.5%	
2. 感染防止衣内の熱感がこもることによって、身体的負担を感じる	男性	9278	4786	1016	314	1.5
		60.3%	31.1%	6.6%	2.0%	
	女性	151	116	34	9	1.7
		48.7%	37.4%	11.0%	2.9%	
3. 出場時の寒冷暴露による身体的こわばりが活動時の身体可動性（関節や力の入り方）に影響を感じる	男性	4956	6185	3433	820	2.0
		32.2%	40.2%	22.3%	5.3%	
	女性	93	134	63	20	2.0
		30.0%	43.2%	20.3%	6.5%	
4 野外活動時、寒冷暴露によって資器材の取り扱い動作に影響を感じる	男性	4849	6118	3583	844	2.0
		31.5%	39.7%	23.3%	5.5%	
	女性	94	121	76	19	2.1
		30.3%	39.0%	24.5%	6.1%	

暑熱・寒冷環境下での身体的負担について質問したところ、発汗により救急服・感染防止衣が身体にベタつくことで、身体の動かしづらさを感じるという項目は、男性の平均値は1.7、女性の平均値は1.9となった。

感染防止衣内の熱感がこもることによって、身体的負担を感じるという項目で、男性の平均値は1.5、女性の平均値は1.7と、女性が高い傾向を示した。

出場時の寒冷暴露による身体的こわばり（関節や力の入り方）が活動時の身体的可動性に影響するという項目で、男性の平均値は2.0、女性の平均値は2.0となった。

野外活動時、寒冷暴露によって資器材の取扱い動作に影響を感じるという項目で、男性の平均値は2.0、女性の平均値は2.1とほぼ同等であった。また、男女の平均値において、発汗により救急服・感染防止衣が身体にベタつくことで、身体の動かしづらさを感じるおよび感染防止衣内の熱感がこもるなどによって、統計学的優位として、身体的負担を感じていることが判明した

問15. 救急活動に起因するものに関わらず現在、身体で痛みがあるところをお聞かせください。（いくつでも○）

	男		女	
n（人）	15394		310	
部位				
首	3662	23.8%	97	31.3%
肩	4222	27.4%	120	38.7%
上腕部	476	3.1%	20	6.5%
前腕部	463	3.0%	22	7.1%
手	754	4.9%	50	16.1%
胸部	126	0.8%	4	1.3%
背部	1319	8.6%	28	9.0%
腰部	10441	67.8%	196	63.2%
大腿部	413	2.7%	14	4.5%
下腿部	372	2.4%	12	3.9%
膝	2500	16.2%	55	17.7%
痛みはない	3317	21.5%	69	22.3%

救急活動時に救急隊が身体の痛みを訴えている部位として、男女とも腰部への痛みが最も多かった（男67.8%：女63.2%）。女性においては腰につぎ肩が38.7%、首が31.3%であった。また膝が17.7%、手は16.1%であった。男性においては、肩が27.4%、首が23.8%であった。また膝が16.2%であった。

問16. 身体の痛みにより、救急活動で影響が出ているのはどこですか。 あてはまるものをお選びください。(いくつでも○)

	男		女	
n (人)	15394		310	
動作項目				
運転	1528	9.9%	17	5.5%
資器材の運び出し	1975	12.8%	45	14.5%
床での胸骨圧迫	1945	12.6%	26	8.4%
傷病者抱え上げ	6560	42.6%	102	32.9%
階段搬送	7928	51.5%	91	29.4%
階段搬送以外の搬送	3717	24.1%	73	23.5%
救急車への搬入/搬出 (ストレッチャーの上げ下げ)	4635	30.1%	128	41.3%
救急車内の胸骨圧迫	2727	17.7%	39	12.6%
深夜の出動	4595	29.8%	71	22.9%
連続出動	3781	24.6%	64	20.6%
影響は出ていない	4544	29.5%	112	36.1%

身体の痛みにより、救急活動での影響がある動作として、男性救急隊員では階段搬送（51.5%）が最も多く、女性では救急車への搬入/搬出時（41.3%）が最も多く身体への痛みを感じていた。さらに女性救急隊員では傷病者の抱き上げ（32.9%）や、階段搬送時に痛み（29.2%）を感じていた。男性救急隊員では階段搬送（51.5%）について傷病者の抱き上げ（42.6%）などが痛みをとまなう動作として挙げられた。

問19. あなたは、勤務中における身体的負担の状況改善を希望するかお聞かせください。(1つだけ○)

	1.強く希望する	2.やや希望する	3.どちらともいえない	4.あまり希望しない	5.全く希望しない
人数	3204	5163	5029	1569	846
割合	20.3%	32.7%	31.8%	9.9%	5.4%

救急隊として身体的負担の状況改善を希望するかの質問として、勤務中における身体的負担の状況改善を男女を問わず、救急隊員半数以上の53%が希望していることが明らかとなった。

問21 あなたの消防本部では、救急隊員の身体的負担軽減のために

- i) 以下の資器材を導入されていますか。(1つだけ○)
- ii) 資機材を導入されていない理由を教えてください。(いくつでも○)
- iii) 他の資器材について、あなたは導入を希望しますか。(1つだけ○)

	回答者の勤務する消防機関の規模					
	10万人未満		10万人以上30万人未満		30万人以上	
	導入状況	導入希望	導入状況	導入希望	導入状況	導入希望
① 自動式心マッサージ器	87.5%	16.9%	78.3%	18.5%	72.9%	16.9%
② ロボットスーツ	0.3%	12.9%	0.7%	14.8%	0.4%	16.7%
③ 電動ストレッチャー	2.6%	30.9%	2.1%	30.3%	6.2%	30.7%
④ 救急隊専用の軽量保安帽	14.8%	25.4%	18.0%	26.7%	20.8%	34.4%

救急隊個人の意見で救急隊員の身体的負担軽減のために導入されている資機材についての質問では、自動式心マッサージ器は72.9%～87.5%とその他の資器材と比較して導入率が高かった一方、ロボットスーツは0.3%～0.7%、電動ストレッチャーは2.1%～6.2%と低い導入率であることが示された。特に電動ストレッチャーは導入率が低かった一方で、導入を希望する回答者の割合は30.3%～30.9%と比較的高いことが示された。また自動式心マッサージ器は導入率が高いにもかかわらず、いまだ導入希望が16.9%～18.5%と比較的高いことが示された。

【救急活動における身体的負担についてのまとめ】

身体的負担については、救急業務に従事する隊員における身体的ストレス心的ストレスの負荷は男女において明らかな差は見られなかったものの、身体的なストレスとして腰部が65%を超えて障害を受けていることが明らかになった。さらに女性救急隊員は男性救急隊員と比べても抱き上げ搬送や階段搬送などの腰部に負担がかかる場面では男性にその任を任せていることも多いことが判明したが、逆に救急車からの傷病者の搬出や搬入などにおいて腰部に負担がかかっていることが明らかとなった。

腰の痛みを我慢しながら業務を行うことでさらなる事故の発生を招来するならば、この点はそれを補助する機材（パワースーツや電動ストレッチャーなど）による動作補助を導入することが求められる。

3) 消防職員としての心理的負担について

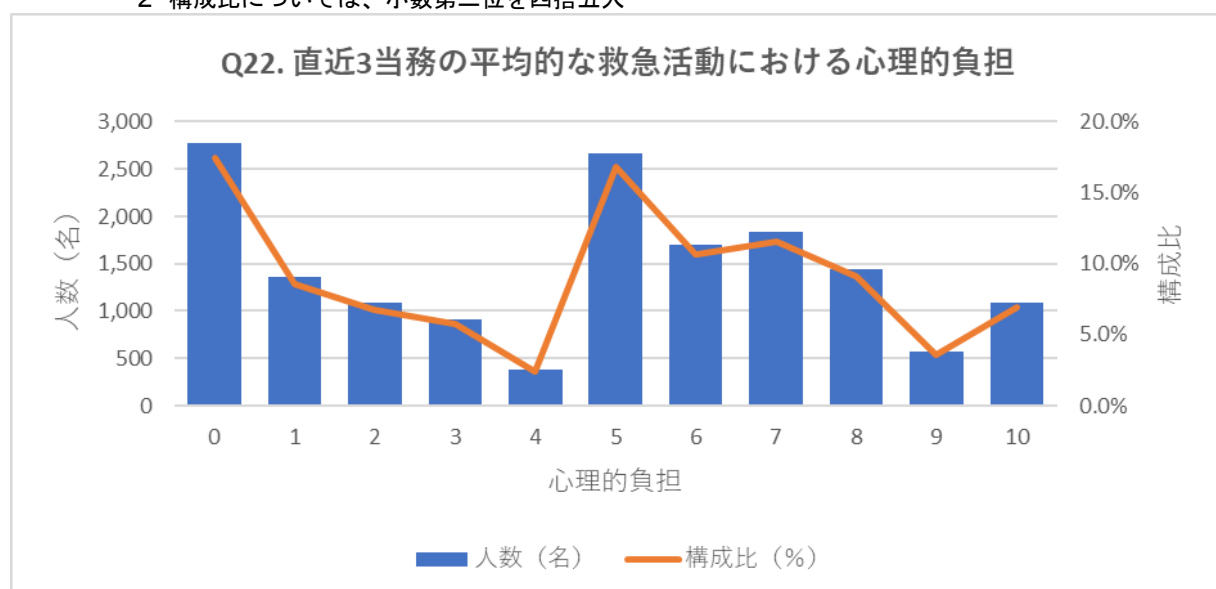
消防職員としての心理的負担についての項目を問22から問27までの6問を行った。
以下にその結果と解析結果を示す。

問22 直近3当務の、あなたの平均的な救急活動における心理的負担の程度をお聞かせください。

心理的負担	心理的負担											総計
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
人数 (名)	2,773	1,356	1,082	918	387	2,663	1,694	1,834	1,437	577	1,090	15,811
構成比 (%)	17.5%	8.6%	6.8%	5.8%	2.4%	16.8%	10.7%	11.6%	9.1%	3.6%	6.9%	100.0%

(備考) 1 構成比については、それぞれの程度ごとの回答数に占める割合

2 構成比については、小数第二位を四捨五入



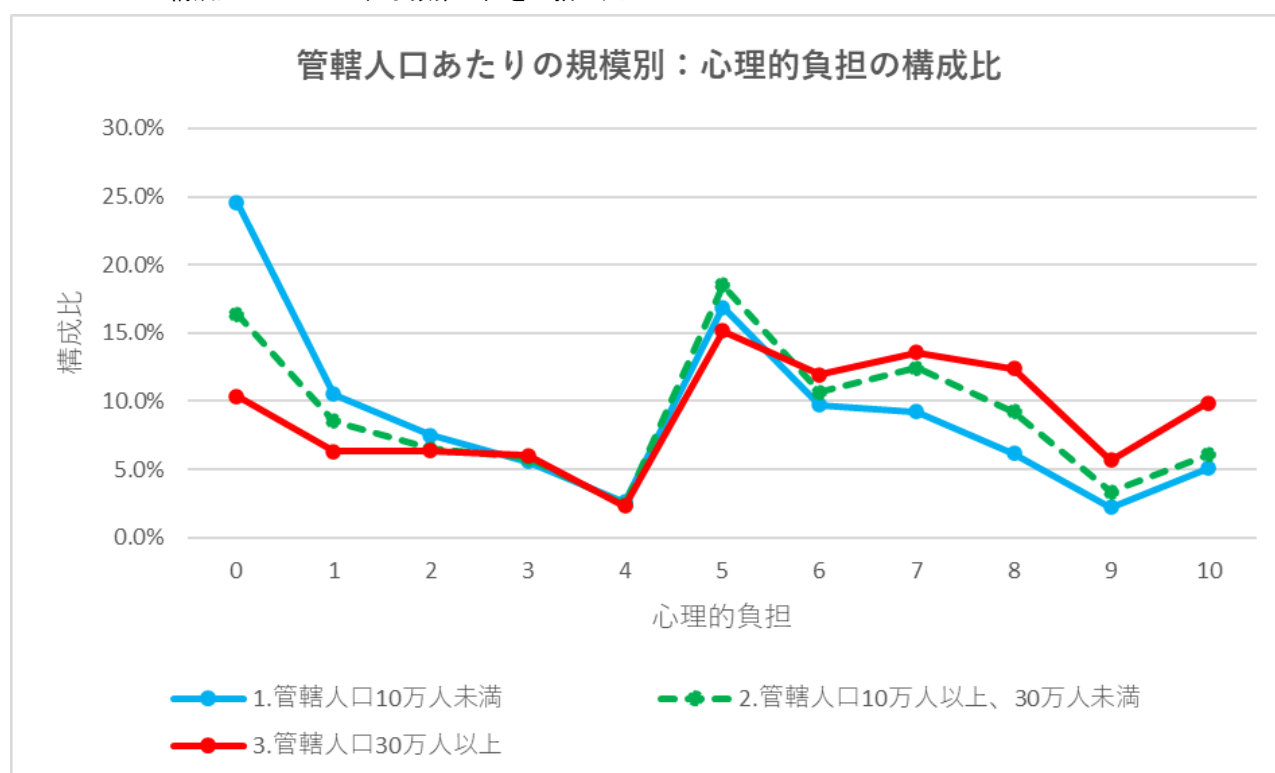
直近3当務の救急活動における心理的負担の程度について、全体では「心理的負担はなかった：0」が最も多く17.5%、次いで「どちらでもない：5」が16.8%、「やや負担になっている程度：7」が11.6%であった。

■ 管轄人口別

管轄人口あたりの規模別：心理的負担人数と構成比

心理的負担	心理的負担											総計
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1.管轄人口10万人未満	1,450 (24.6%)	622 (10.5%)	443 (7.5%)	330 (5.6%)	153 (2.6%)	996 (16.9%)	573 (9.7%)	544 (9.2%)	365 (6.2%)	130 (2.2%)	299 (5.1%)	5,905 (100%)
2.管轄人口10万人以上、30万人未満	811 (16.4%)	422 (8.5%)	323 (6.5%)	289 (5.8%)	120 (2.4%)	916 (18.5%)	529 (10.7%)	617 (12.5%)	458 (9.3%)	167 (3.4%)	301 (6.1%)	4,953 (100%)
3.管轄人口30万人以上	512 (10.3%)	312 (6.3%)	316 (6.4%)	299 (6.0%)	114 (2.3%)	751 (15.2%)	592 (12.0%)	673 (13.6%)	614 (12.4%)	280 (5.7%)	490 (9.9%)	4,953 (100%)
総計	2,773 (17.5%)	1,356 (8.6%)	1,082 (6.8%)	918 (5.8%)	387 (2.5%)	2,663 (16.8%)	1,694 (10.7%)	1,834 (11.6%)	1,437 (9.1%)	577 (3.7%)	1,090 (6.9%)	15,811 (100%)

- (備考) 1 構成比については、それぞれの程度ごとの回答数に占める割合
2 構成比については、小数第二位を四捨五入



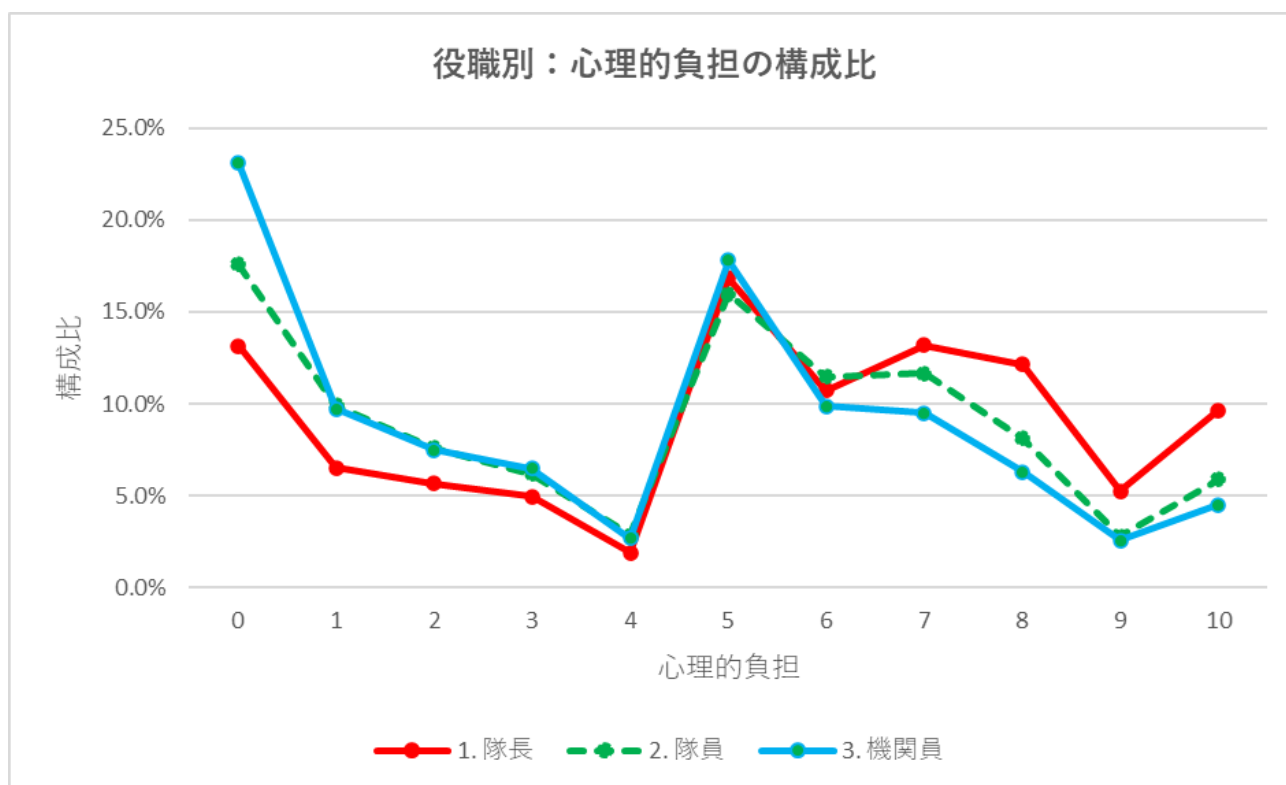
管轄人口あたりの規模別の比較では、グラフで示すように「0」が最も多いのは、管轄人口10万人未満であり、「10」が最も多くなるのは、管轄人口30万人以上であった。

■ 役職別（隊長・隊員・機関員）

役職別：心理的負担人数と構成比

心理的負担	心理的負担											総計
	ゼロ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	大	
1. 隊長	783 (13.2%)	389 (6.5%)	338 (5.7%)	294 (4.9%)	114 (1.9%)	1,003 (16.9%)	639 (10.7%)	786 (13.2%)	722 (12.1%)	312 (5.2%)	574 (9.6%)	5,954 100.0%
2. 隊員	909 (17.6%)	512 (9.9%)	393 (7.6%)	320 (6.2%)	148 (2.9%)	826 (16.0%)	593 (11.5%)	604 (11.7%)	420 (8.1%)	145 (2.8%)	305 (5.9%)	5,175 100.0%
3. 機関員	1,081 (23.1%)	455 (9.7%)	351 (7.5%)	304 (6.5%)	125 (2.7%)	834 (17.8%)	462 (9.9%)	444 (9.5%)	295 (6.3%)	120 (2.6%)	211 (4.5%)	4,682 100.0%
総計	2,773 (17.5%)	1,356 (8.6%)	1,082 (6.8%)	918 (5.8%)	387 (2.5%)	2,663 (16.8%)	1,694 (10.7%)	1,834 (11.6%)	1,437 (9.1%)	577 (3.7%)	1,090 (6.9%)	15,811 100.0%

- （備考） 1 構成比については、それぞれの程度ごとの回答数に占める割合
 2 構成比については、小数第二位を四捨五入



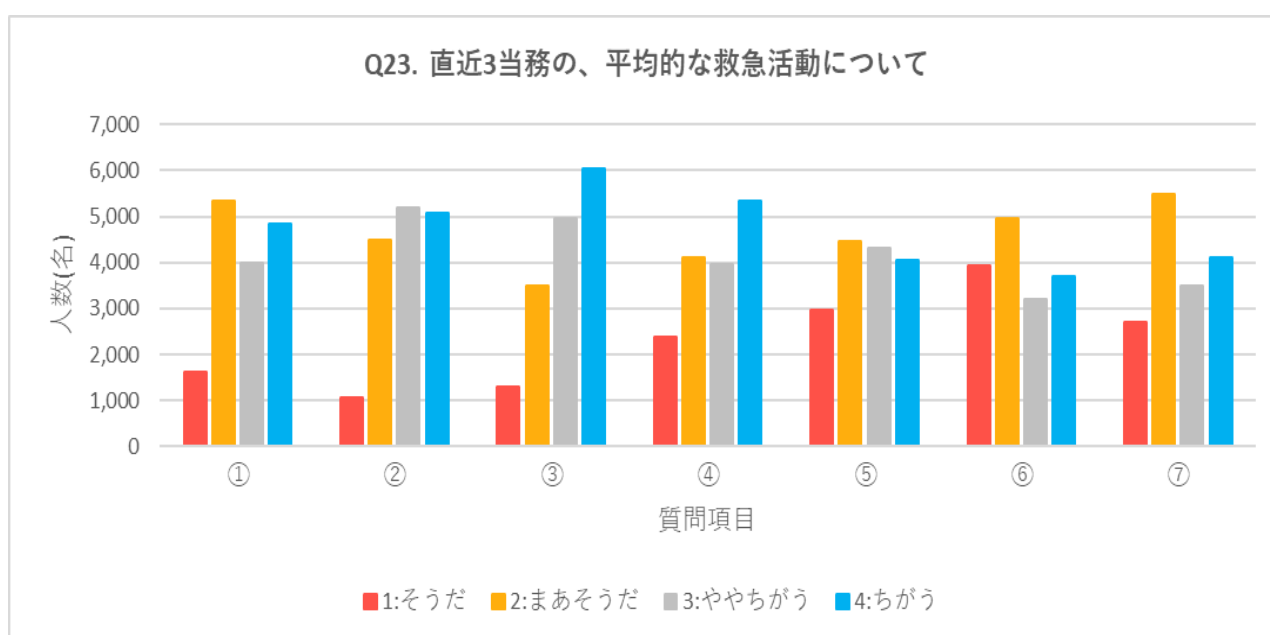
役職別の比較では、心理的負担の割合が増すにつれて、隊長職の回答が最も高い割合で推移する結果であった。

問23 直近3当務の、あなたの平均的な救急活動において、以下がどの程度当てはまるか
お聞かせください。

	1:そうだ	2:まあそう	3:ややちが	4:ちがう	総計
①救急現場での凄惨な光景に過度な緊張を感じることがあった	1,628 (10.3%)	5,329 (33.7%)	4,001 (25.3%)	4,853 (30.7%)	15,811 (100.0%)
②訓練ではできる手技が、救急現場ではうまくいかずギャップに悩むことがあった	1,061 (6.7%)	4,482 (28.4%)	5,195 (32.9%)	5,073 (32.1%)	15,811 (100.0%)
③一当番中の出場に重症事案や軽症事案が入り乱れ、個々の案件に対する感情や思いをうまく整理できないことがあった	1,296 (8.2%)	3,506 (22.2%)	4,969 (31.4%)	6,040 (38.2%)	15,811 (100.0%)
④救急隊員として市民へ献身的な対応をしているにも関わらず心無い言葉をかけられることがあった	2,383 (15.1%)	4,121 (26.1%)	3,968 (25.1%)	5,339 (33.8%)	15,811 (100.0%)
⑤救急隊員へ向け、現場で心無い言葉をかけられても苛立ちなどの感情を抑え引きずることはなかった	2,972 (18.8%)	4,472 (28.3%)	4,304 (27.2%)	4,063 (25.7%)	15,811 (100.0%)
⑥消防隊、救急隊を兼務しているとき、救急出場事務処理と他の担当係事務の作業がたまり、過剰な負担がかかる時があった	3,943 (24.9%)	4,966 (31.4%)	3,192 (20.2%)	3,710 (23.5%)	15,811 (100.0%)
⑦消防隊、救急隊を兼務しているとき、救急出場で自分の担当係事務処理を他の係員が手伝って進行してくれていた	2,707 (17.1%)	5,493 (34.7%)	3,502 (22.2%)	4,109 (25.6%)	15,811 (100.0%)

(備考) 1 構成比については、それぞれの程度ごとの回答数に占める割合

2 構成比については、小数第二位を四捨五入



まず直近3当務の平均的な救急活動においてに、①凄惨な光景に過度な緊張を感じることがあった割合は、「そうだ・まあそう」を合わせて44.0%に至っており、半数弱において過度な緊張状態を強いられていることがわかった。②訓練と救急現場のギャップに悩む割合は、「やや違う・違う」を合わせ、65.0%となっており、訓練を成果へとつなげている傾向が高いことがわかった。③一当番中に軽症-重症事案が入り乱れることで感情等の整理ができないことについては、「やや違う・違う」を合わせ、69.6%となっており、約7割の隊員が上手く対応できている傾向がわかった。④心無い言葉については、「やや違う・違う」を合わせ、58.9%となっており、約6割の隊員が違うという傾向を示し、約半数の隊員は、感情を引きずることはなかったと回答している。

■ 管轄人口別

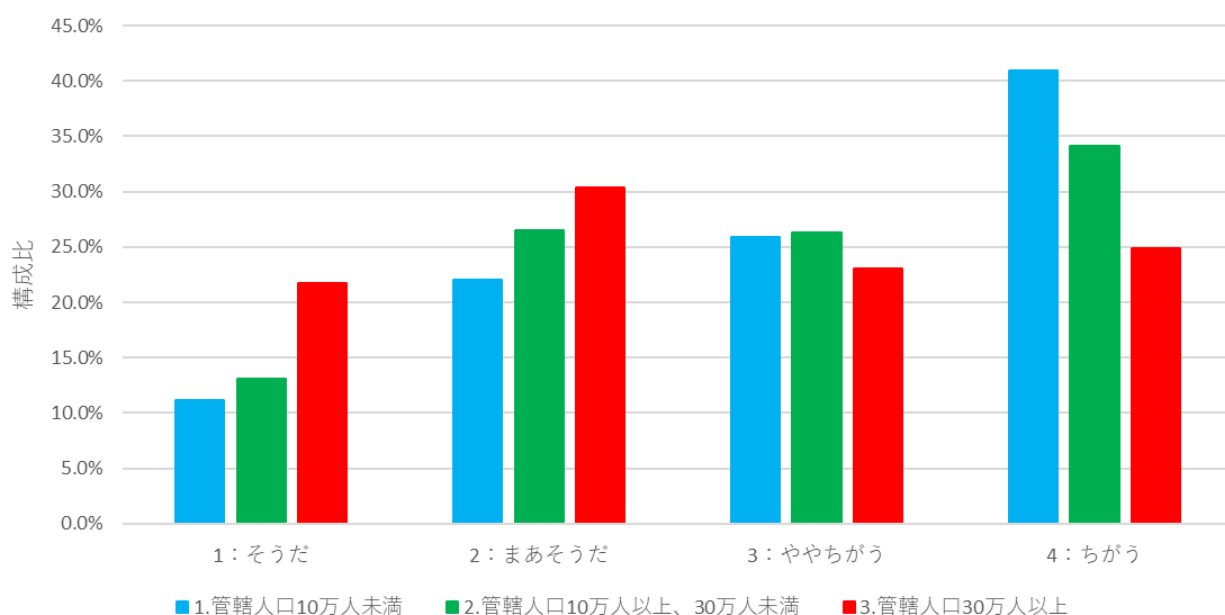
管轄人口あたりの規模別

質問項目	管轄人口規模	1:そうだ	2:まあそ	3:ややち	4:ちがう	総計
①救急現場での凄惨な光景に過度な緊張を感じることがあった	1.管轄人口 10万人未満	675 (11.4%)	1,995 (33.8%)	1,359 (23.0%)	1,876 (31.8%)	5,905 (100.0%)
	2.管轄人口10万人 以上、30万人未満	465 (9.4%)	1,707 (34.5%)	1,262 (25.5%)	1,519 (30.7%)	4,953 (100.0%)
	3.管轄人口 30万人以上	488 (9.9%)	1,627 (32.9%)	1,380 (27.9%)	1,458 (29.4%)	4,953 (100.0%)
	総計	1,628 (10.3%)	5,329 (33.7%)	4,001 (25.3%)	4,853 (30.7%)	15,811 (100.0%)
②訓練ではできる手技が、救急現場ではうまくいかずギャップに悩むことがあった	1.管轄人口 10万人未満	466 (7.9%)	1,725 (29.2%)	1,836 (31.1%)	1,878 (31.8%)	5,905 (100.0%)
	2.管轄人口10万人 以上、30万人未満	296 (6.0%)	1,404 (28.4%)	1,669 (33.7%)	1,584 (32.0%)	4,953 (100.0%)
	3.管轄人口 30万人以上	299 (6.0%)	1,353 (27.3%)	1,690 (34.1%)	1,611 (32.5%)	4,953 (100.0%)
	総計	1,061 (6.7%)	4,482 (28.4%)	5,195 (32.9%)	5,073 (32.1%)	15,811 (100.0%)
③一当番中の出場に重症事案や軽症事案が入り乱れ、個々の案件に対する感情や思いをうまく整理できないことがあった	1.管轄人口 10万人未満	463 (7.8%)	1,240 (21.0%)	1,788 (30.3%)	2,414 (40.9%)	5,905 (100.0%)
	2.管轄人口10万人 以上、30万人未満	368 (7.4%)	1,092 (22.1%)	1,625 (32.8%)	1,868 (37.7%)	4,953 (100.0%)
	3.管轄人口 30万人以上	465 (9.4%)	1,174 (23.7%)	1,556 (31.4%)	1,758 (35.5%)	4,953 (100.0%)
	総計	1,296 (8.2%)	3,506 (22.2%)	4,969 (31.4%)	6,040 (38.2%)	15,811 (100.0%)
④救急隊員として市民へ献身的な対応をしているにも関わらず心無い言葉をかけられることがあった	1.管轄人口 10万人未満	657 (11.1%)	1,304 (22.1%)	1,527 (25.9%)	2,417 (40.9%)	5,905 (100.0%)
	2.管轄人口10万人 以上、30万人未満	651 (13.1%)	1,311 (26.5%)	1,300 (26.3%)	1,691 (34.1%)	4,953 (100.0%)
	3.管轄人口 30万人以上	1,075 (21.7%)	1,506 (30.4%)	1,141 (23.0%)	1,231 (24.9%)	4,953 (100.0%)
	総計	2,383 (15.1%)	4,121 (26.1%)	3,968 (25.1%)	5,339 (33.8%)	15,811 (100.0%)
⑤救急隊員へ向け、現場で心無い言葉をかけられても奇立ちなどの感情を抑え引きずることはなかった	1.管轄人口 10万人未満	1,165 (19.7%)	1,575 (26.7%)	1,435 (24.3%)	1,730 (29.3%)	5,905 (100.0%)
	2.管轄人口10万人 以上、30万人未満	918 (18.5%)	1,425 (28.8%)	1,381 (27.9%)	1,229 (24.8%)	4,953 (100.0%)
	3.管轄人口 30万人以上	889 (18.0%)	1,472 (29.7%)	1,488 (30.0%)	1,104 (22.3%)	4,953 (100.0%)
	総計	2,972 (18.8%)	4,472 (28.3%)	4,304 (27.2%)	4,063 (25.7%)	15,811 (100.0%)
⑥消防隊、救急隊を兼務しているとき、救急出場事務処理と他の担当係事務の作業がたまり、過剰な負担がかかる時があった	1.管轄人口 10万人未満	1,510 (25.6%)	1,897 (32.1%)	1,179 (20.0%)	1,319 -22.3%	5,905 (100.0%)
	2.管轄人口10万人 以上、30万人未満	1,173 (23.7%)	1,615 (32.6%)	1,027 (20.7%)	1,138 (22.3%)	4,953 (100.0%)
	3.管轄人口 30万人以上	1,260 (25.4%)	1,454 (29.4%)	986 (19.9%)	1,253 (25.3%)	4,953 (100.0%)
	総計	3,943 (24.9%)	4,966 (31.4%)	3,192 (20.2%)	3,710 (23.5%)	15,811 (100.0%)
⑦消防隊、救急隊を兼務しているとき、救急出場で自分の担当係事務処理を他の係員が手伝って進行してくれていた	1.管轄人口 10万人未満	977 (16.6%)	2,028 (34.3%)	1,372 (23.2%)	1,528 (25.9%)	5,905 (100.0%)
	2.管轄人口10万人 以上、30万人未満	886 (17.9%)	1,803 (36.4%)	1,103 (22.3%)	1,161 (23.4%)	4,953 (100.0%)
	3.管轄人口 30万人以上	844 (17.0%)	1,662 (33.6%)	1,027 (20.7%)	1,420 (28.7%)	4,953 (100.0%)
	総計	2,707 (17.1%)	5,493 (34.7%)	3,502 (22.2%)	4,109 (26.0%)	15,811 (100.0%)

(備考)

- 1 構成比については、それぞれの程度ごとの回答数に占める割合
- 2 構成比については、小数第二位を四捨五入

Q23-④.救急隊員として市民へ献身的な対応をしているにも関わらず
心無い言葉をかけられることがあった



管轄人口あたりの規模別の比較では、一つの項目以外は、総じて規模に関係なく同様の傾向を示しているが、「④心無い言葉をかけられることがあった」項目に関し、規模が大きい地域では、「そうだ」と答える割合が多くなっていることが判明した。

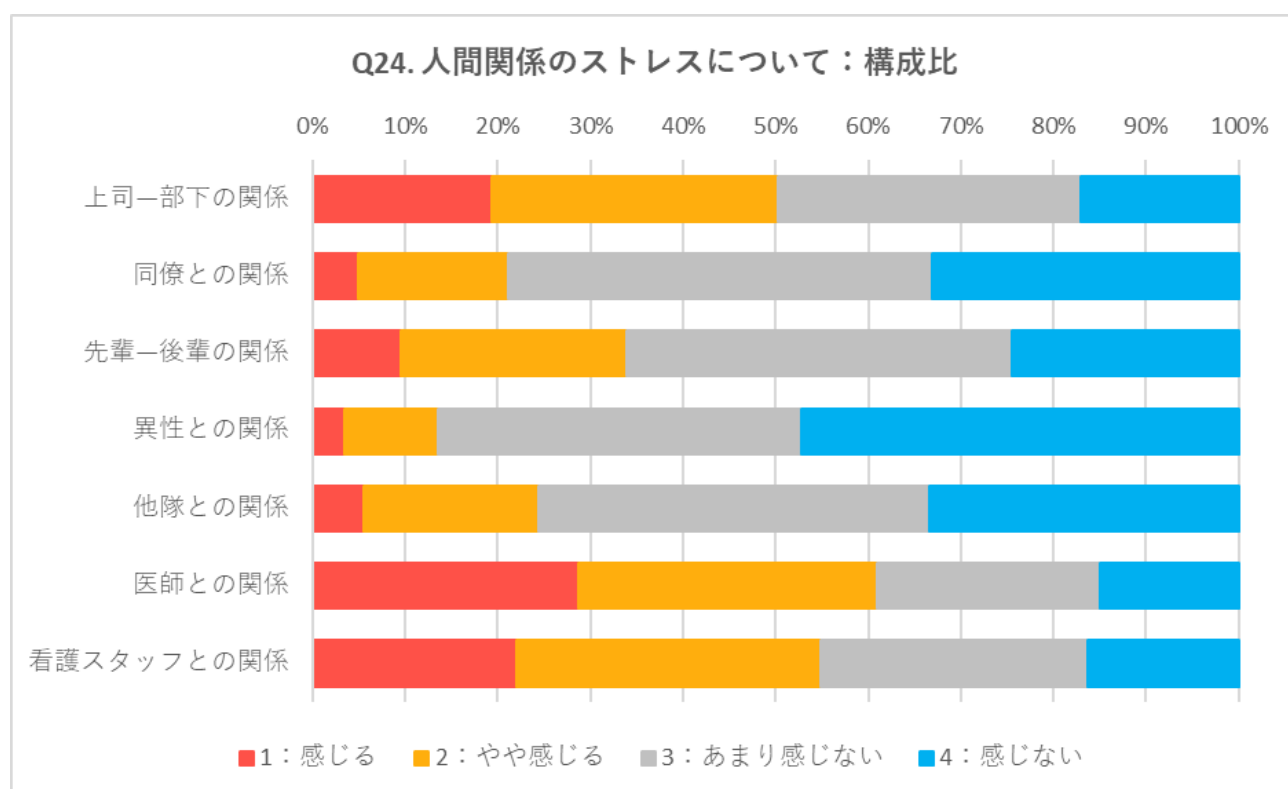
問24 あなたの人間関係のストレスについてうかがいます。最も当てはまるものに○を付けてください。

	1：感じる	2：やや感じる	3：あまり感じない	4：感じない	総計
上司一部下の関係	3,050 (19.3%)	4,901 (31.0%)	5,177 (32.7%)	2,683 (17.0%)	15,811 (100.0%)
同僚との関係	791 (5.0%)	2,542 (16.1%)	7,252 (45.9%)	5,226 (33.1%)	15,811 (100.0%)
先輩－後輩の関係	1,516 (9.6%)	3,845 (24.3%)	6,586 (41.7%)	3,864 (24.4%)	15,811 (100.0%)
異性との関係	552 (3.5%)	1,590 (10.1%)	6,207 (39.3%)	7,462 (47.2%)	15,811 (100.0%)
他隊との関係	873 (5.5%)	2,986 (18.9%)	6,681 (42.3%)	5,271 (33.3%)	15,811 (100.0%)
医師との関係	4,544 (28.7%)	5,096 (32.2%)	3,797 (24.0%)	2,374 (15.0%)	15,811 (100.0%)
看護スタッフとの関係	3,488 (22.1%)	5,199 (32.9%)	4,556 (28.8%)	2,568 (16.2%)	15,811 (100.0%)

(備考) 1 構成比については、それぞれの程度ごとの回答数に占める割合

2 構成比については、小数第二位を四捨五入

「上司－部下／先輩－後輩との関係」など署内の人間関係を起因とするストレスも多い。この点に対しては、組織風土の改善に向け、心理的安全性を組織内へ浸透させるための専門研修を導入することが必要だと考えられる。



人間関係のストレスについて、関係性別に図にて示したところ、「医師・看護師との関係」において、「感じる・やや感じる」の割合が多くなっていることがわかった。医療機関選定や医療機関での引き継ぎ時などの場面における心理的なストレスを感じている隊員が多いことが推察できる。

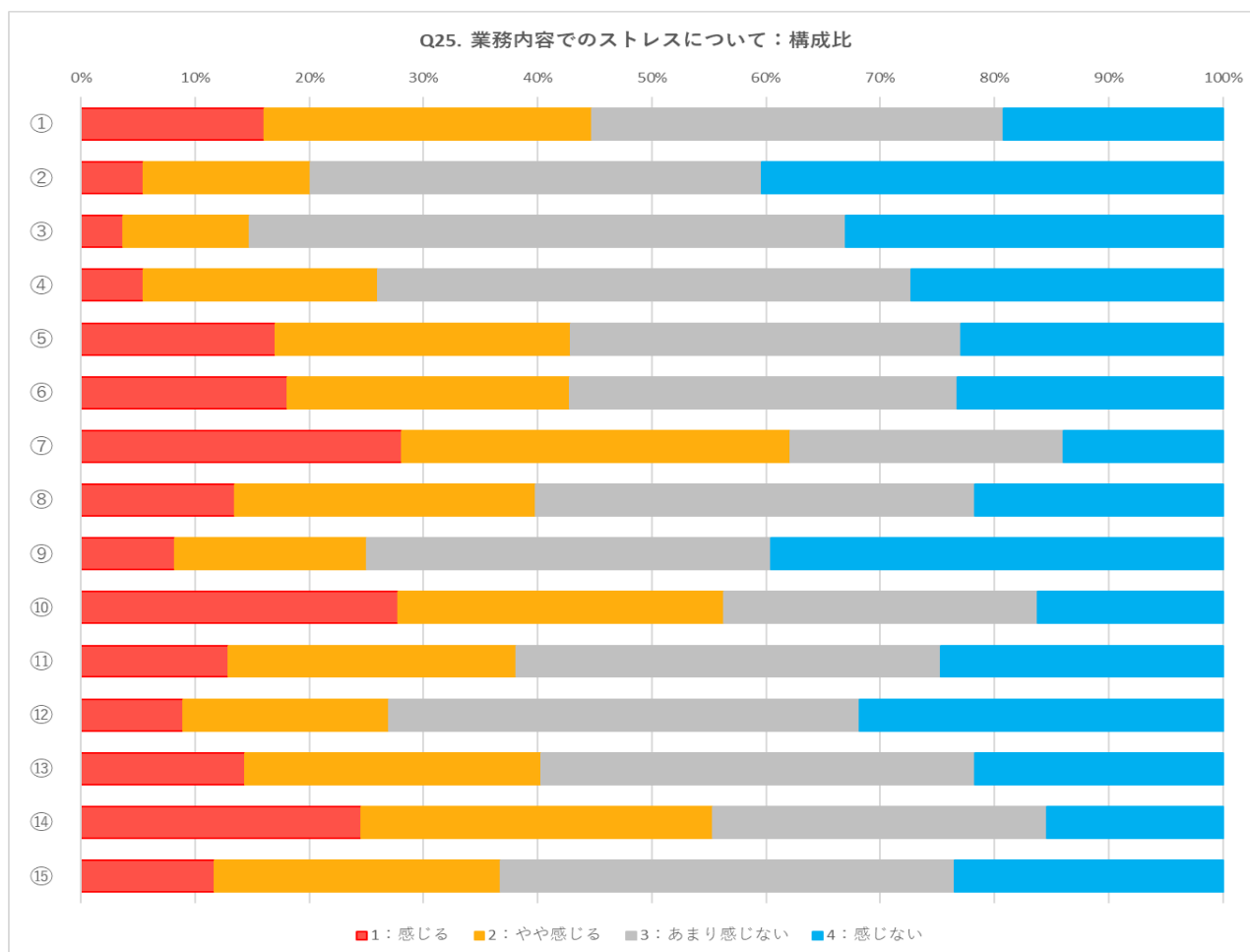
問25 あなたの業務内容でのストレスについてうかがいます。最も当てはまるものに○を付けてください。

	1：感じる	2：やや感じる	3：あまり感じない	4：感じない	総計
①出場件数が多い	2,537 (16.1%)	4,543 (28.7%)	5,700 (36.1%)	3,031 (19.2%)	15,811 (100.0%)
②出場件数が少ない	859 (5.4%)	2,324 (14.7%)	6,246 (39.5%)	6,382 (40.4%)	15,811 (100.0%)
③活動訓練が多い	583 (3.7%)	1,755 (11.1%)	8,255 (52.2%)	5,218 (33.0%)	15,811 (100.0%)
④活動訓練が少ない	859 (5.4%)	3,250 (20.6%)	7,385 (46.7%)	4,317 (27.3%)	15,811 (100.0%)
⑤正当な職務の遂行に対しての利用者、関係者等からのクレーム	2,698 (17.1%)	4,087 (25.9%)	5,407 (34.2%)	3,619 (22.9%)	15,811 (100.0%)
⑥正当な職務を遂行していたにも関わらず、利用者、関係者からのクレームが入った際、組織的に擁護されにくく、指導、叱責の対象になってしまう	2,854 (18.1%)	3,921 (24.8%)	5,362 (33.9%)	3,674 (23.2%)	15,811 (100.0%)
⑦搬送先医療機関への連絡、病院との連携に苦勞する	4,438 (28.1%)	5,391 (34.1%)	3,775 (23.9%)	2,207 (14.0%)	15,811 (100.0%)
⑧成果を挙げた案件に対し、称賛よりも細部への指摘が多くなってしまう	2,128 (13.5%)	4,168 (26.4%)	6,082 (38.5%)	3,433 (21.7%)	15,811 (100.0%)
⑨労務管理などで、乗務交代で救急隊から消防隊へ乗り換える	1,305 (8.3%)	2,647 (16.7%)	5,602 (35.4%)	6,257 (39.6%)	15,811 (100.0%)
⑩仮眠時間が適切に取れない	4,396 (27.8%)	4,512 (28.5%)	4,344 (27.5%)	2,559 (16.2%)	15,811 (100.0%)
⑪警防系－係事務系との業務調整に苦勞する	2,039 (12.9%)	3,993 (25.3%)	5,869 (37.1%)	3,910 (24.7%)	15,811 (100.0%)
⑫希望通りの業務に従事できていない	1,414 (8.9%)	2,848 (18.0%)	6,518 (41.2%)	5,031 (31.8%)	15,811 (100.0%)
⑬担当事務量が多い	2,277 (14.4%)	4,093 (25.9%)	6,013 (38.0%)	3,428 (21.7%)	15,811 (100.0%)
⑭類似・重複する複数の書式が多く効率化されていないと感じる	3,882 (24.6%)	4,864 (30.8%)	4,624 (29.3%)	2,441 (15.4%)	15,811 (100.0%)
⑮学会や検討会、勉強会への参加	1,854 (11.7%)	3,959 (25.0%)	6,285 (39.8%)	3,713 (23.5%)	15,811 (100.0%)

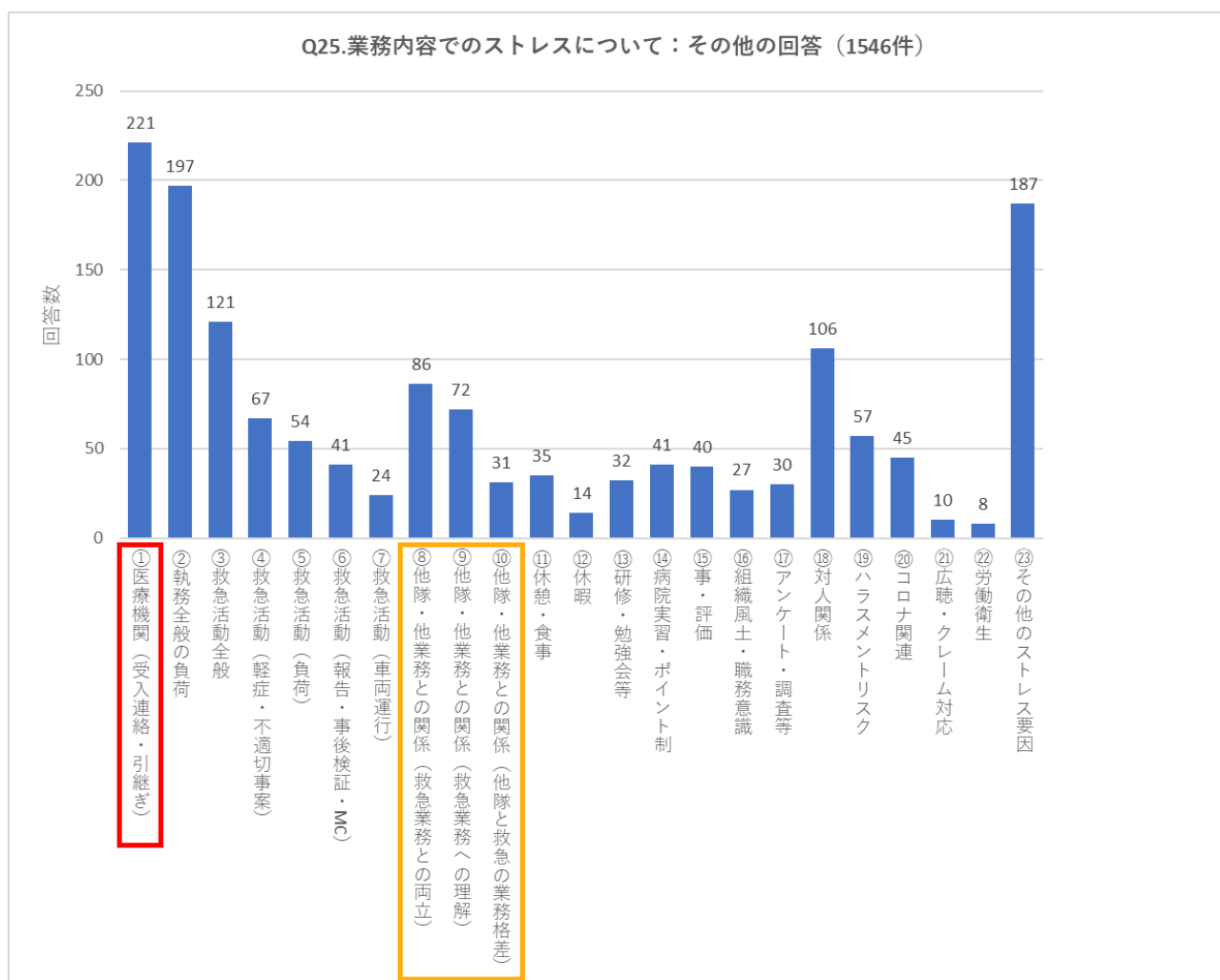
(備考) 1 構成比については、それぞれの程度ごとの回答数に占める割合

2 構成比については、小数第二位を四捨五入

「類似・重複する書類」について、心理的ストレスを感じている職員も多い傾向が明らかになった。この点に対しては、既存書式中心の視点から、入力項目中心の視点に切り替え、隊員個人が重複している入力項目回数を可能な限り削減できるプラットフォームへの改修を進めることが必要だと考えられる。ICTを活用し、消防活動記録票・救急活動記録票・出場記録票等各書式内の共通項目の入力を1回に集約、出力時に記録票の指定によって必要項目を抽出できるように工夫するなど考えられる。文書管理規定の見直しや該当法令の確認も行い可能性の模索を進めるべきである。



業務内容に関するストレスについては、質問項目のうち最もストレスの割合が大きかった上位3項目が、「感じる・やや感じる」を合わせ「⑦医療機関への連絡・病院との連携（62.2%）」、「⑩仮眠時間が取れない（56.3%）」、「⑭類似・重複する複数の書式が多く効率化されていないと思う（55.4%）」であった。他にも、「⑤利用者・関係者からのクレーム」「⑥クレームが入った際の組織の対応」「⑧成果に対する細部への指摘」などの項目が40%前後となっている。



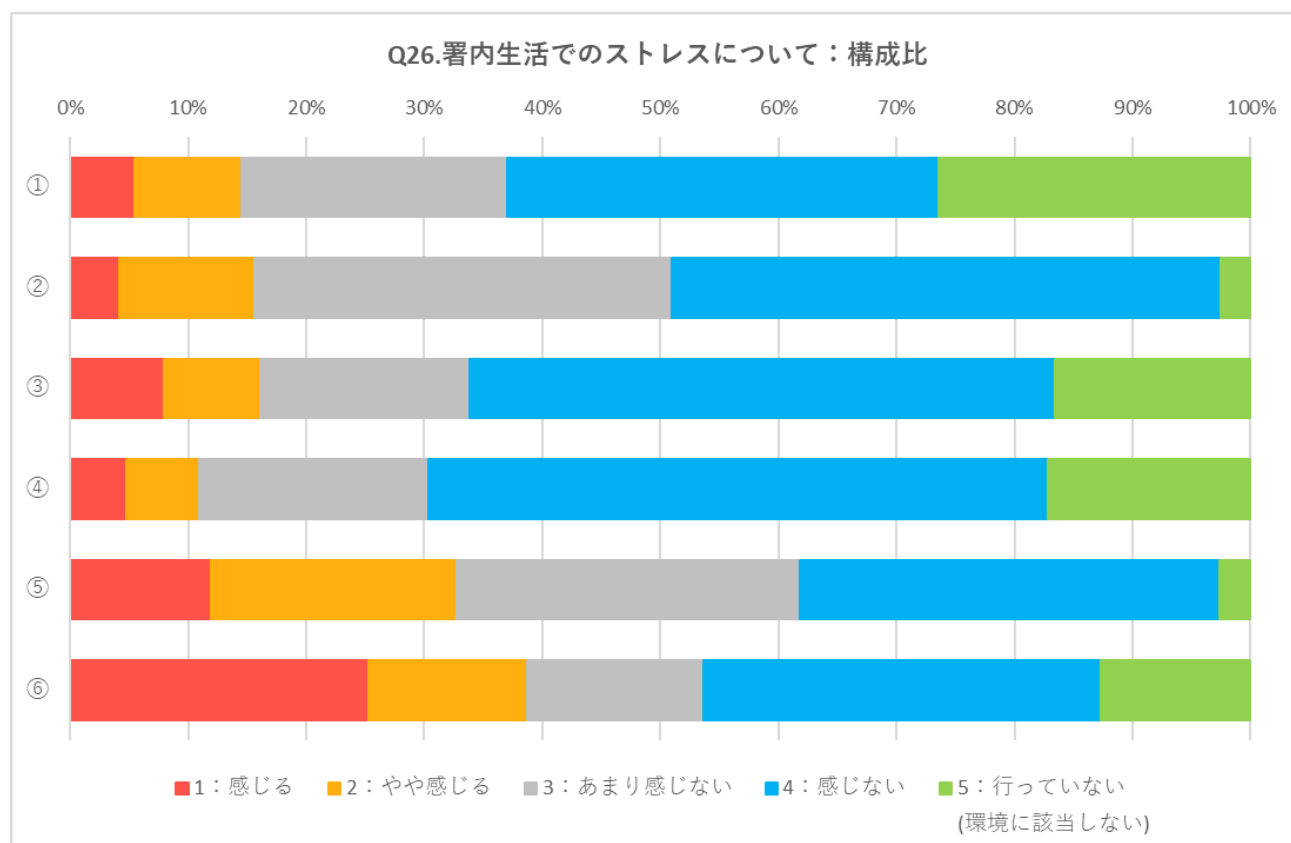
その他自由記載に回答されたものをコーディングし、その他のストレス要因（不特定）を含み23のセグメントに分類した。その結果、医療機関（受入連絡・引継ぎ）に関連するストレスが最も多い傾向にある。次に、注目すべきは「他隊・他業務との関係」の両立・理解・業務格差を合わせると189件にも及ぶ結果となった。

問26 あなたの署内生活でのストレスについてうかがいます。最も当てはまるものに○を付けてください。

	1：感じる	2：やや感じる	3：あまり感じない	4：感じない	5：行っていない (環境に該当しない)	総計
①食事当番	857 (5.4%)	1,438 (9.1%)	3,559 (22.5%)	5,778 (36.5%)	4,179 (26.4%)	15,811 (100.0%)
②庁舎掃除	664 (4.2%)	1,806 (11.4%)	5,590 (35.4%)	7,345 (46.5%)	406 (2.6%)	15,811 (100.0%)
③喫煙場所が確保されていない	1,260 (8.0%)	1,280 (8.1%)	2,804 (17.7%)	7,841 (49.6%)	2,626 (16.6%)	15,811 (100.0%)
④喫煙場所が規制されていない	749 (4.7%)	978 (6.2%)	3,068 (19.4%)	8,300 (52.5%)	2,716 (17.2%)	15,811 (100.0%)
⑤周囲の目を気にして、緊張を 解くための息抜きがしづらい	1,890 (12.0%)	3,291 (20.8%)	4,591 (29.0%)	5,618 (35.5%)	421 (2.7%)	15,811 (100.0%)
⑥仮眠室が個室でない	3,992 (25.3%)	2,125 (13.4%)	2,361 (14.9%)	5,333 (33.7%)	2,000 (12.7%)	15,811 (100.0%)

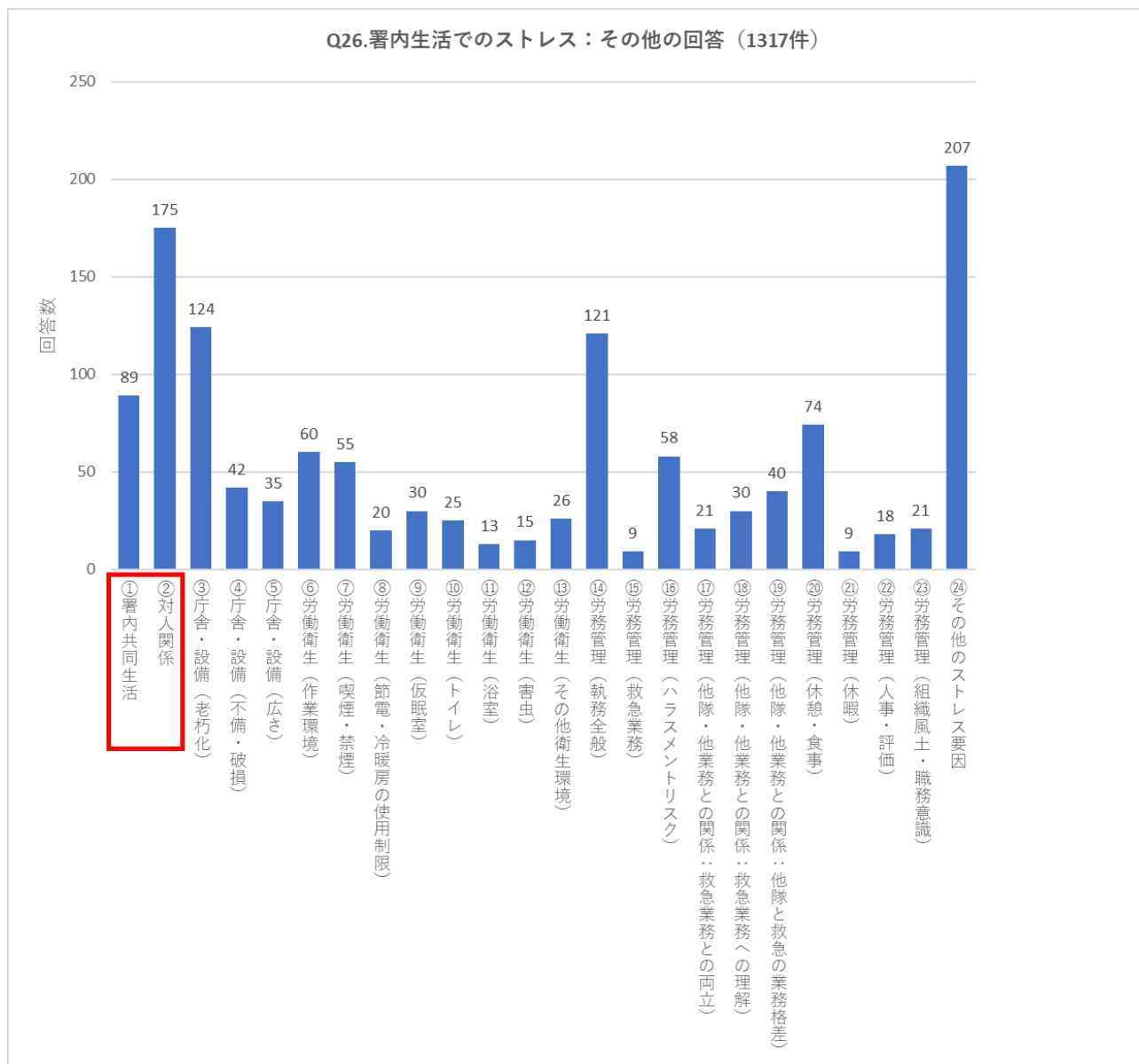
(備考) 1 構成比については、それぞれの程度ごとの回答数に占める割合

2 構成比については、小数第二位を四捨五入



署内生活に関するストレスについては、選択項目にある「⑥仮眠室が個室でない」ことに対しての割合が最も高く「感じる・やや感じる」を合わせて38.7%、次いで「⑤周囲の目を気にして緊張を解くための息抜きがしづらい」が32.8%である。

■その他(自由記載)の扱いについて



その他自由記載に回答されたものをコーディングし、その他のストレス要因（不特定）を含み24のセグメントに分類した。この設問では、署内生活について、お聞きした設問であることから、生活環境を中心に回答を整理しています。主に「共同生活、対人関係、庁舎・設備、労働衛生」を中心に、問25と重なる部分を「労務管理」と中項目を設定し、以下に詳細なセグメントを設定している。署内生活では、24時間勤務を基本とした①共同生活に関するストレスが89件、②対人関係が175件寄せられている。

問27 あなたの職務に対する心の状態についてうかがいます。最も当てはまるものに○を付けてください。

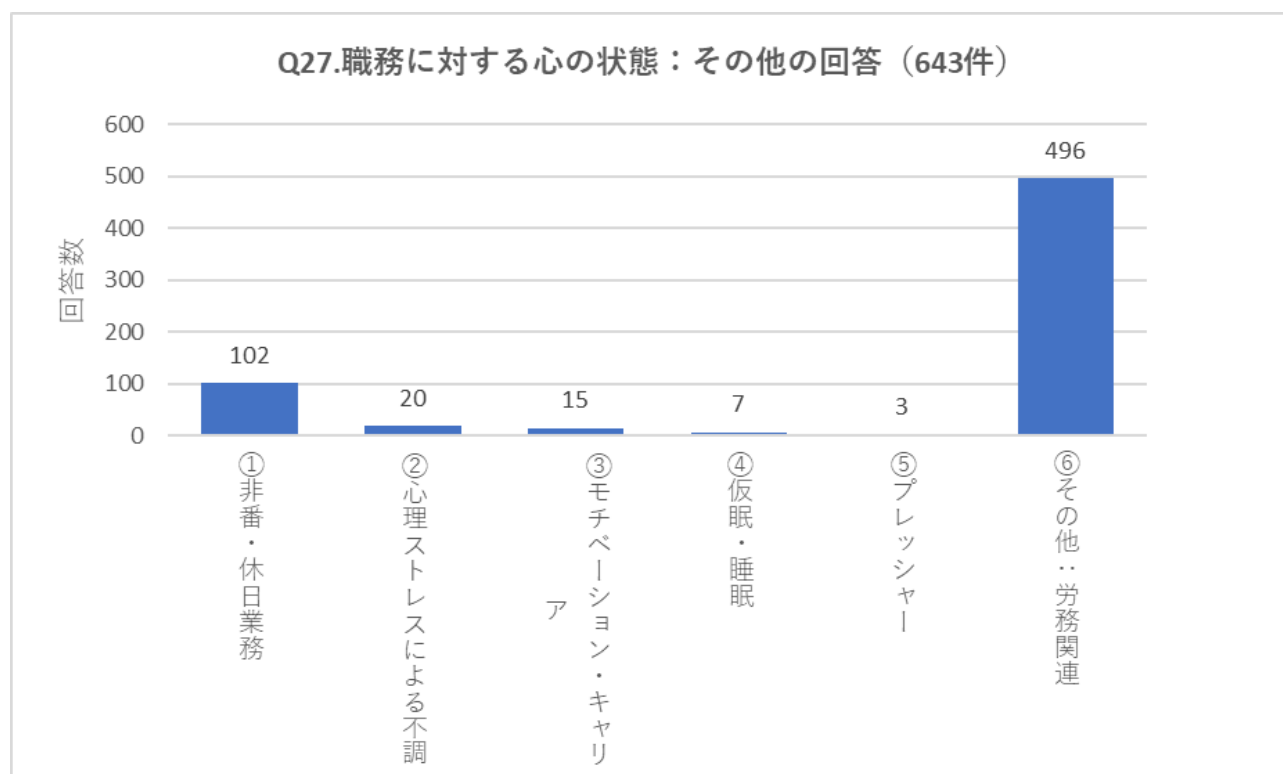
	1：感じる	2：やや感じる	3：あまり感じない	4：感じない	総計
①自らの目標を見据え、日々成長を実感している	1,116 (7.1%)	6,707 (42.4%)	6,588 (41.7%)	1,400 (8.9%)	15,811 (100.0%)
②毎回の勤務中に救急隊員としてのやりがいを感じている	1,932 (12.2%)	7,544 (47.7%)	4,907 (31.0%)	1,428 (9.0%)	15,811 (100.0%)
③余暇（非番、休日など）の時間においても、仕事のことを考え、ストレスを感じる	1,897 (12.0%)	5,278 (33.4%)	5,840 (36.9%)	2,796 (17.7%)	15,811 (100.0%)
④余暇（非番、休日など）の時間で、十分なストレス解消を実感できている	2,202 (13.9%)	6,411 (40.6%)	5,520 (34.9%)	1,678 (10.6%)	15,811 (100.0%)

（備考） 1 構成比については、それぞれの程度ごとの回答数に占める割合

2 構成比については、小数第二位を四捨五入

職務に対する心の状態については、「①自らの目標を見据え、日々成長を実感している」割合は、49.5%であった。「②毎回の勤務中に救急隊員としてのやりがいを感じている」割合は、59.9%であった。約半数の救急隊員は、日々の成長を実感し、もしくは、やりがいを感じている、という結果であった。

「③余暇（非番、休日など）の時間においても、仕事のことを考え、ストレスを感じる」割合は、45.4%であった。「④余暇（非番、休日など）の時間で、十分なストレス解消を実感できている」割合は、54.5%となっている。



【心理的負担についてのアンケートのまとめ】

救急隊員の活動における心理的ストレス負荷は、単独の要因だけの作用ではない。

「上司-部下／先輩-後輩との関係」など署内の人間関係を起因とするストレスも多い。この点に対しては、組織風土の改善に向け、心理的安全性を組織内へ浸透させるための専門研修を導入することが必要だと考えられる。また現場に出場すると業務上において医療機関とのコミュニケーションにストレスを多く感じている傾向が示された。

また類似・重複する書類についても、心理的ストレスを感じている職員も多い傾向が明らかになった。この点に対しては、既存書式中心の視点から、入力項目中心の視点に切り替え、隊員個人が重複している入力項目回数を可能な限り削減できるプラットフォームへの改修を進めることが必要だと考えられる。ICTを活用し、消防活動記録票・救急活動記録票・出場記録票等各書式内の共通項目の入力を1回に集約、出力時に記録票の指定によって必要項目を抽出できるように工夫するなど考えられる。文書管理規定の見直しや該当法令の確認も行い可能性の模索を進めるべきである。

今後、厚生労働省の指針内にも示される「4つのストレスケア」のうち、個人のセルフケア力の向上が求められる。自らのストレスに気づき、対処する知識・スキルを習得するため、専門家によるストレスコーピング研修や実践のトレーニング環境の整備が必要である。複数の細かい要因が多重層的に影響し合うことによって、ストレス反応を増大させてしまいます。そのため、グラフの数値の多さや少なさに影響されるということよりも、自由記載の中から隊員の切実なストレス要因となっている項目に目を向け、組織の実情に耳を傾け、具体的な行動を伴う改善はどこから可能なのかを“改善する前提の意思”をもって検討にお役立ていただきたい。

心理的ストレスの対策は、身体的負荷の対策と異なり、目に見える物理的装置によって改善されたことが把握しづらい要素です。しかし、確実にそこに存在しその影響によって隊員のパフォーマンスが下がる要因となっている。

職員は、各々が年間を通じて違う立場で現場経験を培い、その経験を基に訓練に励み、知識・スキルを高めており、毎年その技能が積み重ねられていきます。隊員一人ひとりが異なるリソースを培った組織最大の財産である。心理的ストレスの蓄積によって現場を離脱するような事態は、市民にとっても損失であり、組織にとって最も大きな損失といえる。こうした事態を改善・回避するためにも、本部等の組織が対策を推し進める強い意思を示すことが求められている。

4) 女性消防職員活躍について

女性消防職員の現状と活躍についての項目を問28から問42までの15問を行った。
以下にその結果と解析結果を示す。

問28. 救急活動において、女性救急隊員だからこそ活躍できる場面はありますか。
あてはまるものをお選びください。(いくつでも○)

	男	割合	女	割合
女性対応	14001	91.0%	286	92.3%
小児・子供対応	8035	52.2%	182	58.7%
年長者対応	1552	10.1%	77	24.8%
酷刑者対応	480	3.1%	18	5.8%
精神疾患患者対応	818	5.3%	55	17.7%
医師への引き継ぎ対応	813	5.3%	11	3.5%
女性隊員だから特段活躍できる場面は思いつかない	0	0.0%	37	11.9%

女性救急隊員だからこそ活躍できる場面として、女性対応が90%以上と男女救急隊員とも最も多く、次いで子ども対応が50%以上をしめた。

問29. 女性が救急隊活動を行う上での問題点がありますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも○)

	男	割合	女	割合
体力面での不安	11413	74.1%	232	74.8%
女性対象の設備(例 更衣室、シャワー室)の少なさ	5197	33.8%	65	21.0%
ライフイベント(出産／育児／介護)の発生による長時間勤務の困難さ	6533	42.4%	194	62.6%
トップや管理職の意識	2167	14.1%	82	26.5%
消防吏員全員の意識	2584	16.8%	89	28.7%
女性が救急隊活動を行う上での問題点はない	1418	9.2%	17	5.5%

女性が救急隊活動を継続する上で、体力面での不安が70%以上と最も多く、次いで特に女性救急隊はライフイベントによる長時間労働への困難さが問題点に挙げられた(62.6%)。

問30. 今後、女性が救急隊として活躍するための対応策についてうかがいます。あてはまるものをお選びください。(いくつでも○)

	男	割合	女	割合
女性対象の設備(例 更衣室、シャワー室)の拡充	9864	64.1%	153	49.4%
女性が取扱いやすい救急資器材の導入	6048	39.3%	131	42.3%
育休代替など育休復帰をしやすいするための制度導入	8789	57.1%	212	68.4%
時短勤務などの勤務形態の拡充	6165	40.0%	174	56.1%
復帰するための再教育プログラムの拡充	5003	32.5%	154	49.7%
メディアによる女性救急隊員の紹介／PR	2209	14.3%	41	13.2%
女性対象の就職セミナーの拡充	1	0.0%	33	10.6%
トップや管理職の意識改革	3730	24.2%	109	35.2%
消防吏員全員の意識改革	4108	26.7%	109	35.2%
女性活躍アドバイザー制度の拡充	1873	12.2%	37	11.9%
特段思いつかない	1	0.0%	12	3.9%

女性が救急隊として活躍するための対応策については、男性職員は女性対象の設備が最も多く(64.1%)、女性職員は育休代替や育休復帰をしやすいための制度の導入(68.8%)を求めていることがわかった。

問31. あなたは「産前産後休業(休暇)」や「育児休業(休暇)」を取得したことがありますか。 あてはまるものをお選びください。

	人数	割合
1. 産前産後休業(休暇)のみ取得したことがある	1513	9.6%
2. 育児休業(休暇)のみ取得したことがある	905	5.7%
3. 産前産後休業(休暇)と育児休業(休暇)を取得したことがある	697	4.4%
4. どちらも取得したことはない	12696	80.3%

「産前産後休業(休暇)」や「育児休業(休暇)」を取得したことがあるのは全体の9.6%であり、8割を占める割合で取得したことがないとの回答であった。

問32. 問31の問いで「産前産後休業(休暇)」や「育児休業(休暇)」を取得したことがないとお答えの方におうかがいたします。あなたやパートナーが出産をする機会があるならば、産前産後休業(休暇)や育児休業後に、救急業務へ戻りたいと思いますか。(1 つだけ)

N=12696

	人数	割合
1. 戻りたい	5844	46.0%
2. 戻りたくない	1259	9.9%
3. わからない	5593	44.1%

「産前産後休業(休暇)」や「育児休業(休暇)」後に救急業務へ戻りたいと希望してる割合は46%と半数近くが現場復帰を望んでいることが明らかとなった。具体的な対策が望まれた。

問33. あなたの所属では「産前産後休業(休暇)」や「育児休業(休暇)」の取得について、希望通り取得しやすい風土があるかお聞かせください。(1 つだけ○)

	人数	割合
1. ある	3160	20.0%
2. どちらかといえばある	6279	39.7%
3. どちらかといえはない	3842	24.3%
4. ない	2530	16.0%

回答者の約60%で取得しやすい環境であると答えたが、一方で、まだ休暇取得が取りにくいと感じる職場がある(40.3%)のが現状である。

問38. 女性職員として、救急隊員(24 時間)として勤務するために必要な設備(女性専用の更衣室、仮眠室、トイレ、シャワー 室・浴室など)が庁舎に完備されていますか。(女性のみ回答：1つだけ○)

	人数	割合
1. 完備されている	268	86.5%
2. 不足している	39	12.6%
3. ない	3	1.0%

具体的に整備されていない設備はなんですか？

	人数	割合
更衣室	16	41.0%
仮眠室	20	51.3%
トイレ	25	64.1%
シャワー室、浴室	19	48.7%
洗面室、洗濯室	17	43.6%

庁署における女性に必要な設備として、80%以上の隊員が完備されていると回答したのに対し、まだ整っていない署があることがわかった。具体的に施設整備されていないものとして、トイレ、更衣室、仮眠室であり、引き続き女性用設備の充実が必要である。

問39. 女性に特有な身体的変化（月経前症候群、月経困難症）が業務にもたらす影響についてお聞かせください。（女性のみ回答）

N=310

月経前症候群	人数	割合
まったくない	34	11.0%
少しあるが日常生活に支障はない	137	44.2%
日常生活に支障があるが就業に支障はない	68	21.9%
就業に支障がある	71	22.9%

月経困難症	人数	割合
まったくない	47	15.2%
少しあるが日常生活に支障はない	119	38.4%
日常生活に支障があるが就業に支障はない	63	20.3%
就業に支障がある	81	26.1%

女性に特有な身体的変化（月経前症候群、月経困難症）が業務にもたらす影響として就業に支障あるとこたえたのが25%前後いることが明らかとなった。

問40. 問39 の問いで「就業に支障がある」あるとお答えの方におうかがいたします。にどのように対応していますか。(いくつ でも○)

	人数	割合
症状緩和のために薬を服用している	139	73.5%
生理休暇を取る	17	9.0%
上司に相談して仕事量を調整している	32	16.9%
同僚に相談して仕事量を調整している	15	7.9%
我慢して働く	103	54.5%

女性特有の身体的特徴が業務に支障が出る割合は2割ほどで決して少なくはない。これにたいして主に服用薬で対応していることがわかった。女性ならではの特徴に配慮した対応が署全体で求められる。

問41. 出産後、救急業務を続けていきたいと思った理由はなんですか?(出産経験のある方のみ回答：いくつでも○)

N=55

	人数	割合
地域を守りたいから	13	23.6%
人の命を助ける仕事だから	26	47.3%
救急救命士の国家資格を持っているから	22	40.0%
働き方が自分に合っているから	26	47.3%
周りの同僚との関係が良いから	9	16.4%
収入の面で安定した職業だから	28	50.9%
女性が活躍できる業務と示したいから	21	38.2%
続けるしかない等	2	3.6%

出産後、救急業務を続けていきたいと思った理由として「収入面での安定」が50.9%と最も多く、次いで「人の命を助ける仕事だから」47.3%、「救急救命士の資格を持っているから」40.0%、女性が活躍できる業務であるからは38.2%と続いた。

問42. 出産後からこれまで救急業務を続けられている理由(サポート)はなんですか?(出産経験のある方のみ回答：いくつでも○)

	人数	割合
夫のサポートがあるから	41	74.5%
親・親戚のサポートがあるから	41	74.5%
業務に対応できる保育所に預けられているから、	17	30.9%
ベビーシッターなど外部サービスを活用しているから	2	3.6%
上司の理解があるから	27	49.1%
同僚の理解があるから	22	40.0%
同じ状況の女性の同僚がいるから	11	20.0%

出産後からこれまで救急業務を続けられている理由については、夫や家族のサポートがあるからと回答した理由が最も多かった(74.5%)。

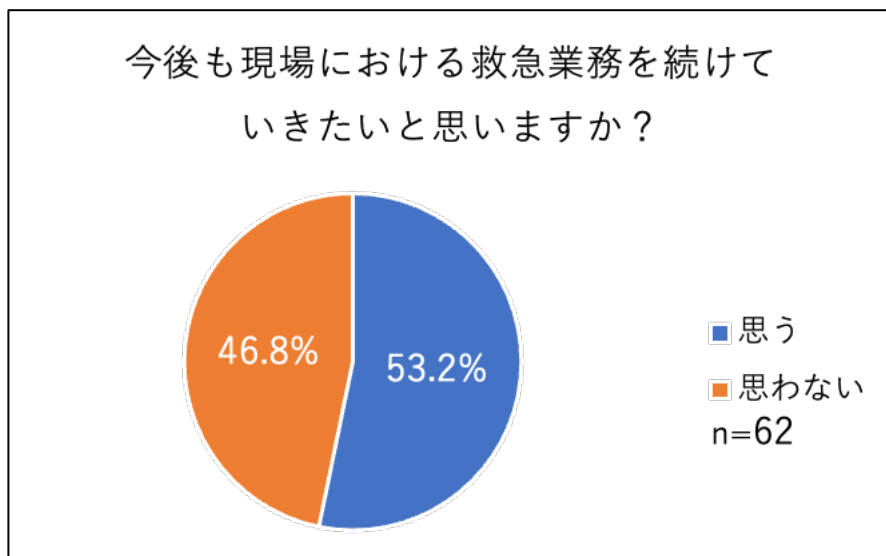
【女性消防職員活躍についてのアンケートのまとめ】

消防本部に雇用されている女性が救急隊員として生涯勤務するための環境整備や、従事する上での身体的、精神的負担などの問題点をアンケートにより現状調査し、検討した。その結果、救急現場における女性傷病者や小児の対応に有用であるとの回答が多かったことが判明した。しかし、出産や子供の養育などのライフイベントに変更が生じ、24時間勤務が困難な状況が発生した際には、夫や家族の理解のもと、デイトタイム救急隊（日勤救急隊）などの柔軟な勤務シフトへの対応ができることを実現することが重要であると思われる。また45%が産休・育休後も現場に戻りたいという希望を望んでいることや、救急業務に生きがいを持つようなプロモーションを望んでいることが判明した。今後、女性救急隊員が活躍するための新たなキャリアプランを提案することは、女性消防吏員の割合を増加させるのに極めて重要であり、女性が住民サービス向上のために自身の能力や資格を活かせる職場環境構築が極めて重要と考えている。

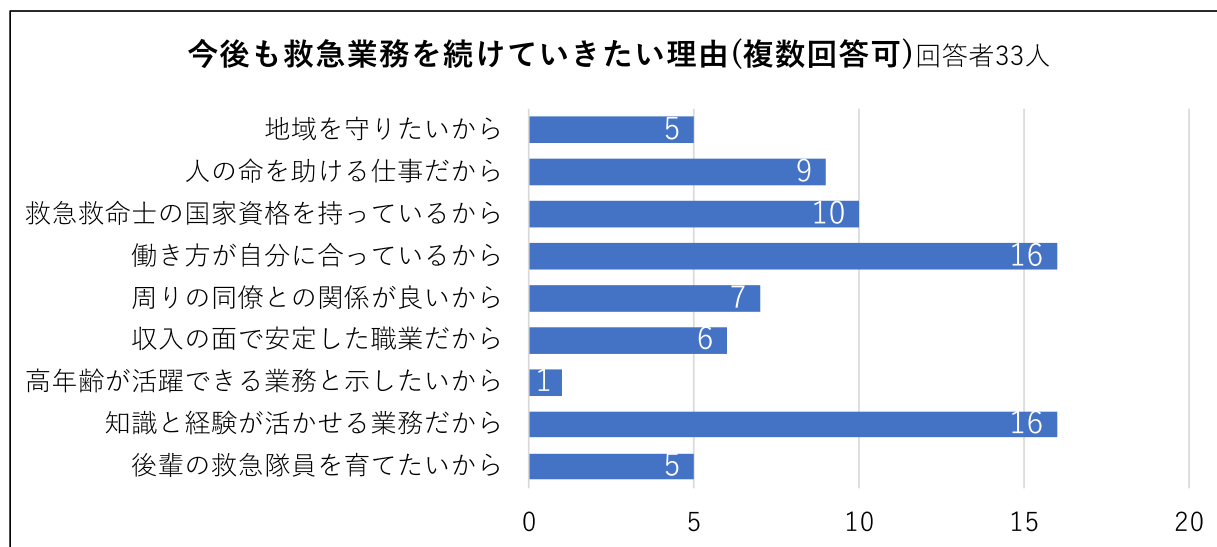
5) 再任用職員の活躍について

救急隊員として再認証された職員の現状と活躍についての項目を問43から問47までの5問を行った。以下にその結果と解析結果を示す。再任用職員から62件の回答が得られた。

問43. あなたは今後も現場における救急業務を続けていきたいと思いますか？

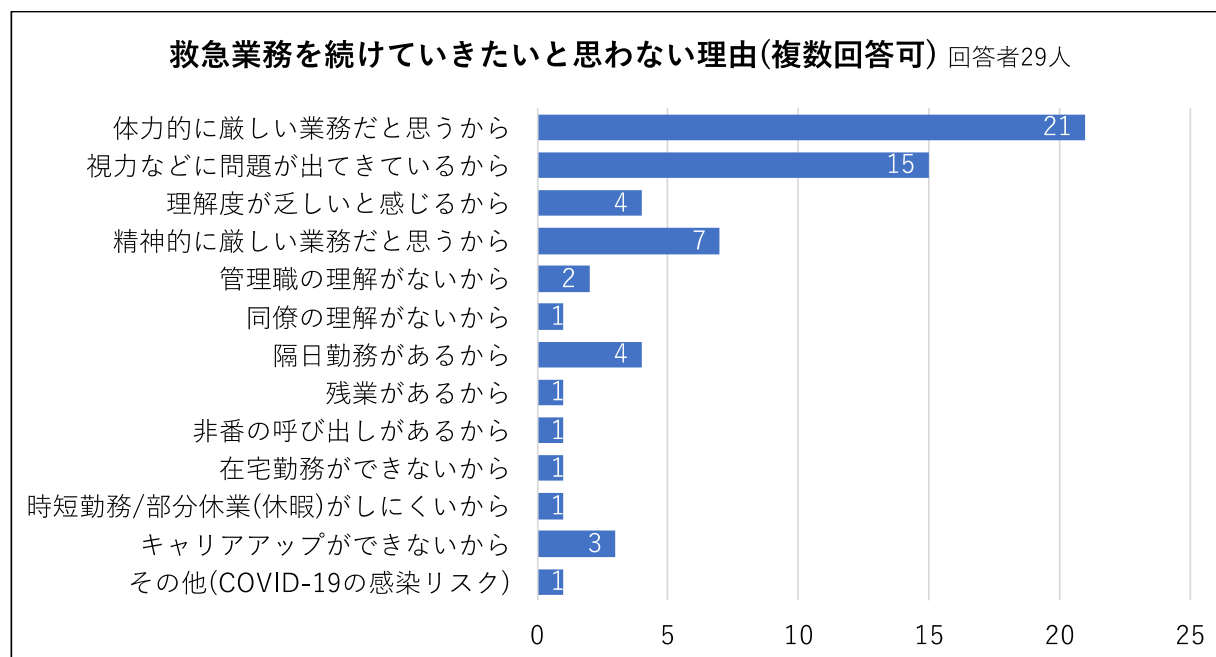


問43. 今後も救急業務を続けていきたいと思う理由はなんですか？（複数選択可）



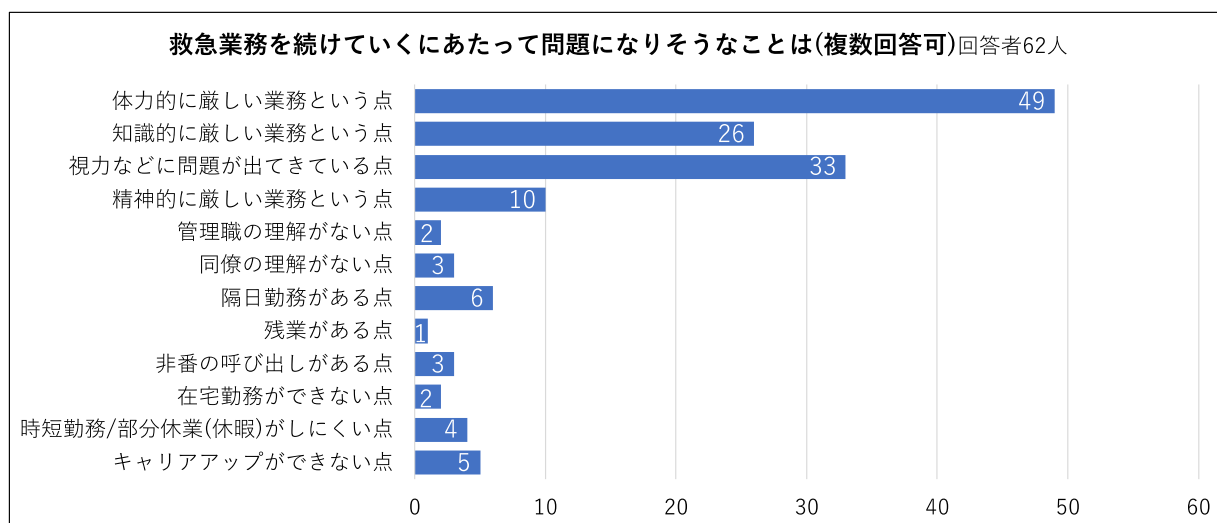
再任用職員において、今後も救急業務を継続したいと思う理由を調査した。知識と経験を活かせる業務だからと働き方が自分に合っているからが16人であり回答し最多であった。次に、救急救命士の国家資格を持っているから10人、人の命を助ける仕事だから人、であった。

問44. 今後は救急業務を続けていきたいと思わない理由をお聞かせください。(複数選択可)

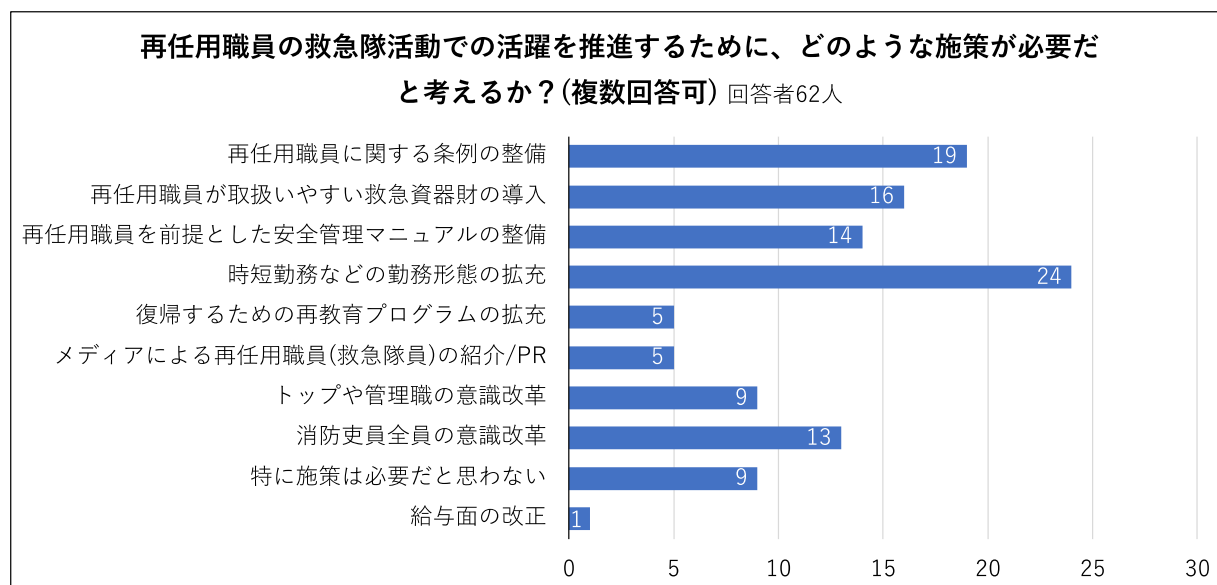


再任用職員において、今後は救急業務を継続したくないと思う理由を調査した。体力的に厳しい業務だと思うからが21人と最も多く、次に、視力などに問題が出てきているからが15人であった。精神的に厳しい業務であると思うからも7人回答しており、救急業務は心身に大きな負担が伴う業務であることが見て取れる。再任用職員にも救急業務を継続してもらうためには、心身の負担に向けた取り組みが必要不可欠であると考えられる。特に、加齢により身体的機能は低下してしまい、身体的負担は増大してしまうため、電動ストレッチャーや自動心マッサージ機の導入をし、身体的負担の軽減を図る必要がある。

問45. 今後も救急業務を続けていくにあたって問題になりそうなことはなんですか？(複数選択可)



問46. 今後、再任用職員の救急隊活動での活躍を推進するために、どのような施策が必要だとお考えですか。あてはまるものをお選びください。(複数選択可)



再任用職員全員を対象に、再任用職員の救急隊活動での活躍を推進するために、どのような施策が必要であると考えるか調査した。時短勤務などの勤務形態の拡充と24人が回答し、再任用職員が取扱いやすい救急資器材の導入が19人であった。心身の負担を考慮した勤務時間の設定や、負担軽減を目的とした資器材の導入が求められていることがわかる。さらに、再任用職員に関する条例の整備が19人、再任用職員を前提とした安全管理マニュアルの整備が14人であり、再任用職員の勤務環境は未だ適切に整備さえておらず、勤務環境の構築が急務である。

【再任用職員の活躍についてのアンケートのまとめ】

本章では再任用職員に対し調査を実施した。再任用職員は60歳以上の職員が過半数を占めており、継続して救急業務を継続していることが明らかとなった。半数以上の再任用職員は、救急救命士(救急隊)の知識や経験を活かし、地域や市民を守りたいという点から、今後も救急業務を継続したいと回答した。一方、今後は救急業務を継続したくないと回答した再任用職員は、救急業務における心身の負担と、加齢による身体的機能の低下を問題視していた。

今後は、比較的年齢を重ねた再任用職員が救急現場で安全に活躍するために、心身の負担の軽減を目的とした施策が重要である。具体的には、電動ストレッチャーや自動心マッサージ機の導入などの資器材の導入や、勤務形態の拡充などの勤務環境の整備が急務である。

5. まとめ

～今後の提言～

本アンケートの結果として、消防本部からのアンケートでは、身体的負担を軽減するための施策として、他の隊員との乗換運用の実施などによる休憩時間の確保が多くあり、次いで食事購入場所の緩和などによる食事時間の確保が上げられた。心理的負担の軽減策としてはストレスチェック制度の結果を踏まえた労務軽減対策の実行が最多回答（40.5%）であり、次にストレスケアの助言を受ける機会の整備であった（38.4%）。

また女性救急隊員と再任用職員の活躍推進にあたり、身体的負担軽減に繋がる資器材導入への補助金の新設を政府や自治体に求める回答が多く寄せられた（70.1%）。

各消防本部は乗換運用や休暇時間の確保など労務管理により負担を軽減する努力をしていたが、一方で、負担軽減に繋がる資器材導入については予算的な問題から進んでいない本部が多いことが明らかとなった。

身体的負担については、救急業務に従事する隊員における身体的ストレス心的ストレスの負荷は男女において明らかな差は見られなかったものの、身体的なストレスとして腰部が65%を超えて障害を受けていることが明らかになった。女性は男性救急隊員と比べても抱き上げ搬送や階段搬送などの腰部に負担がかかる場面では男性にその任を任せていることも多いことが判明したが、逆に救急車からの傷病者の搬出や搬入などにおいて腰部に負担がかかっていることが明らかとなった。腰の痛みを我慢しながら業務を行うことでさらなる事故の発生を招来するならば、この点はそれを補助する機材（パワースーツや電動ストレッチャーなど）による動作補助を導入することが求められる。

心理的負担については、救急隊が感じるストレスは医療機関（受入連絡・引き継ぎ）によるものが多く、また、他隊・他業務との関係において多くの問題が生じていることが判明した。また、仮眠時間が取れないことや、重複する文書の管理、関係者からのクレームがあげられた。心理的ストレスの対策は、身体的負荷の対策と異なり、目に見える物理的に改善されにくい。しかし、確実にそこに存在しその影響によって隊員のパフォーマンスが下がる要因となっている。職員は、隊員一人ひとりが異なるリソースを培った組織最大の財産と考えるべきである。限りある隊員が心理的ストレスの蓄積によって現場の離脱を回避するためにもストレス対策について組織として取り組んでいかなければならないことが明らかとなった。

女性消防職員活躍については、女性救急隊員は、救急現場において女性傷病者や小児の対応に有用であると多かった。しかし、出産や子供の養育などのライフイベントに変更が生じ、24時間勤務を行うことが困難な状況が発生した際には、夫や家族の理解とともに、組織としての勤務配置であるデイトタイム救急隊（日勤救急隊）などの柔軟な勤務シフトへの対応ができることや、救急業務内にも生きがいを持つような昇進などの機会を女性にあたえることが望まれていることが判明した。今後、女性救急隊員が活躍するための新たなキャリアプランを提案することは、女性消防吏員の割合を増加させるのに極めて重要であり、女性としてのライフイベント後も救急隊として、住民サービス向上のために自身の能力や資格を活かせる職場環境構築が極めて重要と考えている。

再任用職員の活躍については、再任用職員は60歳以上の職員が過半数を占めており、継続して救急業務を継続していることが明らかとなった。半数以上の再任用職員は、救急救命士（救急隊）の知識や経験を活かし、地域や市民を守りたいという点から、今後も救急業務を継続したいと回答した。一方、今後は救急業務を継続したくないと回答した再任用職

員は、救急業務における心身の負担と、加齢による身体的機能の低下を問題視していた。今後は、比較的年齢を重ねた再任用職員が救急現場で安全に活躍するために、心身の負担の軽減を目的とした施策が重要である。具体的には、電動ストレッチャーや自動心マッサージ機の導入などの資器材の導入や、勤務形態の拡充などの勤務環境の整備が急務である。

以上のアンケート結果を踏まえ、本委員会より以下の7項目について提言する。

1. 労務管理の見直し

睡眠不足による事故や身体的負担の軽減に向け乗換運用やデイトタイム救急隊の導入による24時間勤務体制の見直しを提案。また全国で優れた労務管理を提案している消防本部のモデル（ベストプラクティス）を共有できる機会を提供すべきである。

2. 資機材の導入

搬送中による腰や手などの身体的負担軽減を目的にパワースーツ・電動ストレッチャーや自動心マッサージ機の導入などの資器材の導入や、勤務環境の整備が急務である。

3. ICT機材の導入

病院での医療関係者との余計なストレスやコミュニケーションの改善のためにも消防機関におけるデジタルトランスフォーメーションを推進しクラウド型の通信機材を導入すべきである。重複する記録やその管理から解放することは重要である。

4. 組織・個人におけるストレスケア力の向上

人間関係を起因とするストレス軽減にむけ、組織風土の改善に向け、心理的安全性を組織内へ浸透させるための専門研修を導入する。またストレスに強い個人のセルフケア力の向上が求められる。専門家によるストレスコーピング研修やストレスに対処する知識・スキルを習得するため、実践のトレーニング環境の整備が必要である。

5. 庁署設備の改善（仮眠室・シャワー室・女性用設備）

仮眠などの身体的負担軽減と女性活躍に向けた庁署設備と改善と、女性用設備の完備が必要である。

6. 女性管理職の活躍

組織的に女性救急隊員が出産、育児期間も救急業務から離れることがない環境を作り、多くの経験を積んだ女性が、職員意思決定の場面にいることや管理職として参入することが、今後の女性救急隊員の活躍についてさらに具体的な方策を明示する一助となり得る。

7. 再任用救急隊員の雇用

再任用職員が救急現場で安全に活躍するために、心身の負担の軽減を目的とした電動ストレッチャーや自動心マッサージ機の導入などの資器材の導入や、知識の再教育や勤務形態の拡充などの勤務環境の整備が急務である。